

男女平等参画に関する
西東京市民意識・実態調査
報告書

平成25年3月

西東京市

目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査対象	3
3	調査方法	3
4	調査期間	3
5	調査機関	3
6	回収数及び回収率	3
7	調査項目	3
8	報告書のみかた	5
9	比較した調査の概要	6
II	調査結果のポイント	7
1	回答者の属性	9
2	男女平等参画の意識	9
3	日ごろの生活	10
4	仕事	10
5	地域とのつながり	11
6	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	11
7	防災	12
8	人権	12
9	男女平等参画を進めるために必要な施策	13
III	調査結果	15
1	回答者の属性	17
1-1	性別	17
1-2	年齢	17
1-3	家族構成	18
1-4	同居家族	18
1-5	居住地域	19
2	男女平等参画の意識	20
2-1	男女の地位の平等感	20
2-2	結婚・家庭・離婚などについての考え	28
2-3	女性が仕事をもつことについての考え	37
3	日ごろの生活	40
3-1	未婚・既婚	40

3-2	共働きの状況	41
3-3	主に家事・育児・介護を担っている人	42
4	仕事	44
4-1	収入を伴う仕事の有無	44
4-2	以前の仕事の経験	46
4-3	現在仕事をしていない理由	48
4-4	女性が再就職を希望する際に役に立つもの	50
4-5	新しい仕事づくり（コミュニティビジネス等）への意向	52
4-6	新しい仕事づくりをしてみたい理由	54
4-7	新しい仕事づくりでしてみたいこと	56
5	地域とのつながり	58
5-1	地域活動への参加状況と参加意向	58
6	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	62
6-1	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度	62
6-2	「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）	63
6-3	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を必要だと思うか	69
6-4	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なもの	70
7	防災	72
7-1	防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと	72
8	人権	74
8-1	配偶者等からの暴力を見聞きした経験	74
8-2	配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応	76
8-3	配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度	78
8-4	配偶者等から暴力を受けた経験	80
8-5	配偶者等から暴力を受けた時の相談経験	87
8-6	誰にも相談しなかった理由	89
9	男女平等参画を進めるために必要な施策	90
9-1	西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度	90
9-2	市の審議会と市議会における女性の割合への考え	96
9-3	政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由	97
9-4	男女平等推進条例制定についての意向	99
9-5	西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策	100
10	自由回答	102

I 調查概要

1 調査の目的

この調査は、西東京市民の男女平等参画に関する意識や実態を把握し、「西東京市第3次男女平等参画推進計画」策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査対象

西東京市に居住する満18歳以上70歳未満の男女2,000人
平成24年9月1日現在の住民基本台帳より無作為抽出

3 調査方法

郵送配布－郵送回収法（督促を兼ねた礼状ハガキ1回送付）

4 調査期間

平成24年10月9日（調査票発送）～平成24年10月22日

5 調査機関

株式会社生活構造研究所

6 回収数及び回収率

- (1) 対象者数 2,000人（女性：995人、男性：1,005人）
- (2) 有効回収数 765人（女性：450人、男性：309人、性別無回答：6人）
- (3) 有効回収率 38.3%（女性：45.2%、男性：30.7%）

7 調査項目

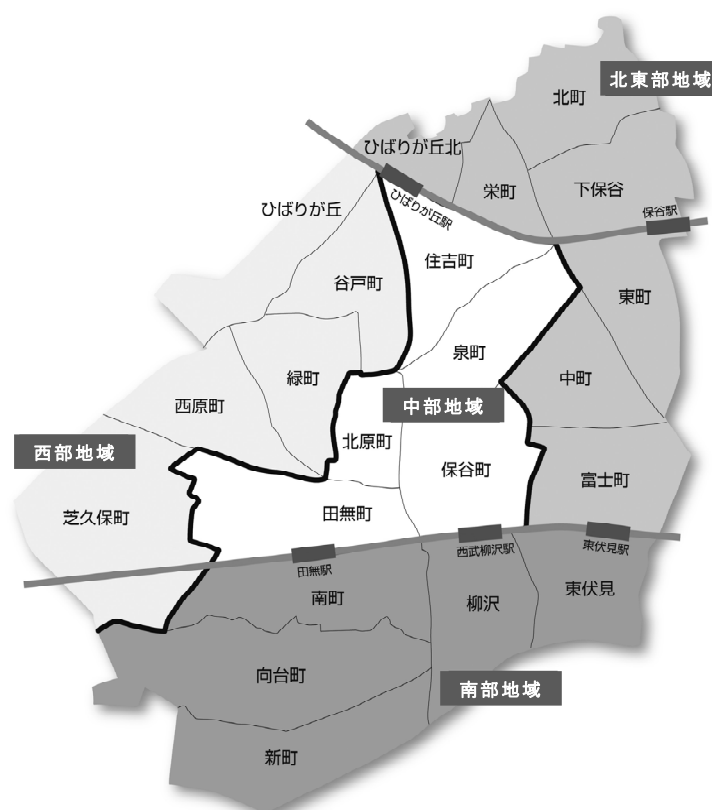
大項目	調査項目
回答者の属性	問1 性別
	問2 年齢
	問3 家族構成
	問4 同居家族
	問5 居住地域
男女平等参画の意識	問6 男女の地位の平等感
	問7 結婚・家庭・離婚などについての考え
	問8 女性が仕事をもつことについての考え

大項目	調査項目
日ごろの生活	問9 未婚・既婚
	問9-1 共働きの状況（結婚している人）
	問10 主に家事・育児・介護を担っている人
仕事	問11 収入を伴う仕事の有無
	問11-1 以前の仕事の経験（仕事をもっていない人）
	問11-2 現在仕事をしていない理由（仕事をもっていない人）
	問12 女性が再就職を希望する際に役に立つもの
	問13 新しい仕事づくり（コミュニティビジネス等）への意向
	問13-1 新しい仕事づくりをしてみたい理由（新しい仕事づくりをしてみたい人）
	問13-2 新しい仕事づくりでしてみたいこと（新しい仕事づくりをしてみたい人）
地域とのつながり	問14 地域活動への参加状況と参加意向
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	問15 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度
	問16 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）
	問17 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を必要だと思うか
	問17-1 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なもの（仕事と生活の調和を推進する必要がある人）
防災	問18 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
人権	問19 配偶者等からの暴力を見聞きした経験
	問20 配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応
	問21 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度
	問22 配偶者等から暴力を受けた経験
	問22-1 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験（暴力を受けた経験がある人）
	問22-2 誰にも相談しなかった理由（誰にも相談しなかった人）
男女平等参画を進めるために必要な施策	問23 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度
	問24 市の審議会と市議会における女性の割合への考え
	問25 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由
	問26 男女平等推進条例制定についての意向
	問27 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策
自由回答	問28 自由回答

8 報告書のみかた

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記しています。
- (2) 女性の10代、男性の10代は集計をしていますが、件数がそれぞれ5件、10件であるため分析文に記載していません。
- (3) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合があります。
- (4) 性別、年代別などは、無回答があるため、合計が全体とは一致しません。
- (5) 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%を超えることがあります。
- (6) 本文及びグラフ中の設問文の選択肢の表現は一部省略されています(「調査票及び集計結果」において、省略されていない選択肢の表現をご参照ください)。
- (7) 集計表は、全体を10ポイント以上上回るものに 、10ポイント以上下回るものに の網かけをしています。
- (8) 本報告書においては、居住地域を北東部地域、中部地域、西部地域、南部地域の地域別に分析を行っています。各地域の区分は以下のとおりです。

区分	町名
北東部地域	富士町、中町、東町、ひばりが丘北、栄町、北町、下保谷
中部地域	田無町、北原町、保谷町、泉町、住吉町
西部地域	西原町、緑町、谷戸町、芝久保町、ひばりが丘
南部地域	南町、向台町、新町、柳沢、東伏見



9 比較した調査の概要

本調査の分析にあたり、比較・引用した調査等は以下のとおりです。

(1) 西東京市：男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査（平成 19 年）

調査対象：西東京市在住の 20 歳以上 70 歳未満の男女

票本数：2,000 人

調査時期：平成 19 年 8 月 23 日～9 月 6 日

有効回収数（率）：817 人（40.9%）

なお、本報告書では「前回調査」と表記しています。

(2) 内閣府：男女共同参画社会に関する世論調査（平成 24 年 10 月）

調査対象：全国 20 歳以上の日本国籍を有する者

票本数：5,000 人

調査時期：平成 24 年 10 月 11 日～10 月 28 日

有効回収数（率）：3,033 人（60.7%）

なお、本報告書では「国調査」と表記しています。

(3) 東京都：男女平等参画に関する調査（平成 23 年 1 月）

調査対象：東京都全域に住む満 20 歳以上の男女個人

票本数：3,000 人

調査時期：平成 23 年 1 月 28 日～2 月 13 日

有効回収数（率）：1,892 人（63.1%）

なお、本報告書では「東京都調査」と表記しています。

Ⅱ 調査結果のポイント

1 回答者の属性

- ・ 性別は「女性」が 58.8%、「男性」が 40.4%です。年齢は、全体では、「60代」が 25.4%で最も多く、「40代 (20.8%)」、「50代 (20.3%)」が続いています。(問1、問2)
- ・ 家族構成は、全体では、「二世帯世帯 (自分と子ども) (42.1%)」が最も多く、「夫婦のみ (20.7%)」、「二世帯世帯 (自分と親) (15.4%)」、「単身 (一人世帯) (9.9%)」が続いています。(問3)
- ・ 同居の家族は、全体では、「パートナー (配偶者、恋人) (44.2%)」が最も多く、「あてはまるような家族はいない (26.0%)」、「19歳以上の子ども (23.9%)」が続いています。(問4)
- ・ 居住地域は、全体では、「西部地域」が 28.0%、「南部地域」が 26.1%、「中部地域」が 23.8%、「北東部地域」が 21.2%となっています。(問5)

2 男女平等参画の意識

- ・ 男女の地位の平等感について、家庭生活、職場、学校教育、地域社会 (町会・自治会など)、政治、法律や制度、社会通念・習慣・しきたり、という7つの分野および『社会全体では』についてたずねました。全体では『政治の場で (79.7%)』、『社会通念・習慣・しきたりなどで (79.9%)』で《男性優遇》が8割弱と高くなっています。一方、『学校教育の場で』では《平等 (68.2%)》が7割弱であり、7つの分野の中で最も高くなっています。『社会全体では』は、《男性優遇 (72.3%)》が7割を超えています。性別にみると、どの項目でも、女性は男性より《男性優遇》、男性は女性より《平等》、《女性優遇》と回答する割合が高くなっています。とくに『法律や制度の上で』、『家庭生活の場で』では男女差が大きく、女性が男性を《男性優遇》で、それぞれ 28.2ポイント、24.4ポイント上回っており、男女の意識に違いがあります。
- ・ 前回調査と比較すると、《平等》と回答した割合について、女性は『政治の場で』、『学校教育の場で』以外で前回調査を上回り、男性は『法律や制度の上で』、『政治の場で』、『学校教育の場で』以外では、前回調査を上回っています。依然として《男性優遇》と感ずる割合は高いものの、《平等》と感ずる割合は増えています。(問6)
- ・ 結婚・家庭・離婚などについて4つの考え方をたずねました。そのうちの1つの『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について性別にみると、女性は《反対 (49.7%)》が《賛成 (47.3%)》を 2.4ポイント上回っていますが、男性は《賛成 (53.4%)》が《反対 (42.1%)》を 11.3ポイント上回っています。男女ともに30代で《賛成》が《反対》を上回っています。また、前回調査と比較すると、男女ともに《賛成》と回答する割合が高くなっています。東京都調査と比較すると、《賛成》と回答する割合は、男女ともに西東京市が東京都を上回っています。(問7)
- ・ 女性が仕事を持つことについての考え方は、全体では「中断再就職型 (55.2%)」が最も多く、

「職業継続型(30.1%)」、「出産退職型(3.8%)」が続いています。性別にみると、女性は「職業継続型(32.2%)」で男性(27.5%)を4.7ポイント上回っています。前回調査と比較すると、女性は今回調査が前回調査を「職業継続型」が1.4ポイント上回り、「中断再就職型」が6.3ポイント下回っています。男性は今回調査が前回調査を「職業継続型」が6.6ポイント下回り、「中断再就職型」が4.0ポイント上回っています。(問8)

3 日ごろの生活

- ・ 未婚・既婚の状況は、全体では「結婚している」が68.1%、「結婚していない」が22.2%、「結婚していたが、離・死別した」が8.0%となっています。性別にみると、女性は「結婚している」が74.9%、男性は58.6%となっています。(問9)
- ・ 「結婚している」と回答した人に、夫婦の就労状況をたずねたところ、全体では「自分も配偶者も働いている」が49.7%となっています。性別にみると、女性は「自分のみ働いている」が3.6%、「配偶者のみ働いている」が38.0%であるのに対し、男性は「自分のみ働いている」が37.0%、「配偶者のみ働いている」が2.8%となっています。(問9-1)
- ・ 家庭で行われている家事・育児・介護等の9項目について、主にだれが担当しているかたずねました。結婚の有無で大きく違いがあるため、性・未既婚別でみています。既婚者では、女性は8項目で「主に自分」が最も多くなっており、その割合は『掃除・洗濯』、『日用品の買い物』、『食事の支度』で8割を超えています。男性は、8項目で「主に配偶者」が最も多くなっています。未婚者では、女性は8項目で「主に母親」が最も多くなっており、男性は、7項目で「主に母親」が最も多くなっています。(問10)

4 仕事

- ・ 全体では、収入のある仕事をしている人は「正社員として雇用されている」が33.1%で最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が23.5%で続いています。女性は20代から50代まで年代が上がるほど「正社員として雇用されている」割合が低くなり、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」割合が高くなります。男性は、20代から50代まで「正社員として雇用されている」が最も多くなっています。(問11)
- ・ 「仕事をもっていない(主婦・主夫・学生・その他)」と回答した人に以前の働き方をたずねたところ、全体では91.3%が仕事の経験をもち、直近の働き方では「正社員として雇用されていた(48.5%)」が最も多くなっています。また、現在仕事をしていない理由は、女性は「育児や介護を必要とする家族・親族がいるから(27.2%)」が最も多く、男性は「働きたいが就職先が見つからないから(26.1%)」が最も多くなっています。(問11-1、問11-2)

- ・ 女性が再就職を希望する際に役立つものとして、全体では「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(67.7%)」、「企業の理解と協力(66.3%)」、「家族の理解と協力(64.8%)」、「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(64.6%)」が上位にあがっています。(問12)
- ・ 身近な地域の中で「新しい仕事づくり(コミュニティビジネスなどの活動)」を行うことについては、全体では34.7%が《やってみたい》と回答しています。その理由を性別にみると男女ともに「地域の人たちの役に立ちながら、収入を得ることができるから(女性:71.4%、男性:70.0%)」が最も多く、続いて女性は「地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから(49.6%)」、男性は「自分の知識・経験を十分生かせるから(36.2%)」となっています。具体的に新しい仕事づくりでしてみたいことは、女性は「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う(45.1%)」、男性は「まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う(53.8%)」が最も多くなっています。(問13、問13-1、問13-2)

5 地域とのつながり

- ・ 地域活動について、現在の参加の状況は、全体では『趣味、スポーツ、習い事(33.2%)』、『自己啓発のための学習活動(12.3%)』、『自治会・町内会の活動(11.9%)』が上位にあがっています。今後の参加意向については、全体では『趣味、スポーツ、習い事(66.8%)』、『自己啓発のための学習活動(46.4%)』、『子どもの見守りや子育て支援の活動(32.3%)』が上位にあがっており、現在の参加状況、今後の参加意向とも1位、2位は同じ項目となっています。(問14)

6 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

- ・ 「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の言葉の認知度については、女性は40.4%、男性は47.2%が見聞きしたことがあるとしています。とくに男性の30代は60.4%が見聞きしたことがあるとしています。(問15)
- ・ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度については、希望は、女性も男性も「<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて」が最も多くなっていますが、現実では、女性は「<家庭生活>を優先」が最も多く、男性は「<仕事>を優先」が最も多くなっています。また、全体の21.8%が希望と現実が一致しており、女性は20代から60代まで年代が上がるほど一致している割合が高くなっています。(問16)
- ・ 「仕事と生活の調和を推進する必要がある」と感じる人は、全体の78.8%を占め、とくに男性の30代(93.8%)は9割を超えています。(問17)

-
- ・ 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なこととして、女性は「保育・介護サービスが向上すること（61.6%）」、「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること（59.7%）」、「育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしやすさが整うこと（58.5%）」が上位にあがり、男性は「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること（50.8%）」、「男女とも残業や休日出勤を減らし、労働時間が短縮されること（50.0%）」が上位にあがっています。（問 17－1）

7 防災

- ・ 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこととして、全体では「備蓄品に女性の視点を活かす(59.9%)」が最も多く、「避難所設備に女性の意見を反映させる(57.0%)」、「災害や防災に関する知識の習得を進める(56.1%)」が上位にあがっています。（問 18）

8 人権

- ・ 配偶者等からの暴力を見聞きした経験は、全体では「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」が 5.2%、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が 11.8%、「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」が 34.8%、「見聞きしたことがない」が 48.9%となっています。（問 19）
- ・ 配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応としては、全体では「相談機関を紹介する(66.8%)」が最も多く、「相談にのる(47.8%)」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）についての情報を提供する(22.6%)」が続いています。（問 20）
- ・ 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度は、全体では「警察(73.9%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(32.0%)」、「東京都の相談窓口（女性相談センター）(31.5%)」が続いています。女性は 20 代から 60 代まで年代が上がるほど「西東京市の相談窓口」の認知度が高くなっています。（問 21）
- ・ 配偶者等から暴力を受けた経験は、「何度もあった」と「1、2 度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》割合は、全体では『大声でどなられたり、ののしられる（13.2%、101 人）』が最も多くなっています。性別にみると『命の危険を感じるくらいの暴力をうける』は、女性は 2.5%（11 人）、男性は 1.3%（4 人）となっています。前回調査と比較すると、女性はすべての項目において《暴力を受けた経験がある》割合が低くなっています。（問 22）
- ・ 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験について、「誰にも相談しなかった」は女性が 59.6%、男性が 77.1%となっています。相談した人については女性は「友人、知人に相談

した(22.8%)」、男性は「警察に相談した(11.4%)」が最も多くなっています。全体では「西東京市の相談窓口、民生委員などに相談した」は2.7%にとどまります。(問22-1)

- ・ 「誰にも相談しなかった」理由は、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから(女性：63.2%、男性：77.8%)」が最も多くなっていますが、女性は続いて、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから(27.9%)」となっています。(問22-2)

9 男女平等参画を進めるために必要な施策

- ・ 西東京市の取り組みに関しては、「内容まで知っている」と「名前くらい聞いたことがある」を合計した《知っている》割合は、全体では『西東京市「女性相談」』が23.0%、『西東京市男女平等参画推進計画』が21.9%、『西東京市男女平等推進センター パリテ』が16.6%、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』が13.5%となっています。男女平等に関する法律等に関して《知っている》割合は、全体では『男女雇用機会均等法』が76.8%、『育児・介護休業法』が68.0%、『男女共同参画社会基本法』が38.3%、『配偶者暴力防止法』が35.3%、『女子差別撤廃条約』が25.4%となっています。(問23)
- ・ 市の審議会と市議会における女性の割合については、男女ともに「女性の割合をもっと増やす必要がある(女性：46.7%、男性：41.4%)」が4割を超えています。(問24)
- ・ 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由としては、全体では「男性優位の組織運営であるから(55.9%)」が最も多く、「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから(40.7%)」、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(39.6%)」が上位にあがっています。(問25)
- ・ 男女平等推進条例の制定については、男女ともに約6割が「男女平等推進条例があったほうがいい(女性：60.7%、男性：59.2%)」としています。(問26)
- ・ 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策は、全体では「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(60.0%)」が最も多く、「保育サービスの多様化(59.5%)」、「雇用の場の平等な待遇の推進(46.7%)」が上位にあがっています。(問27)



Ⅲ 調查結果

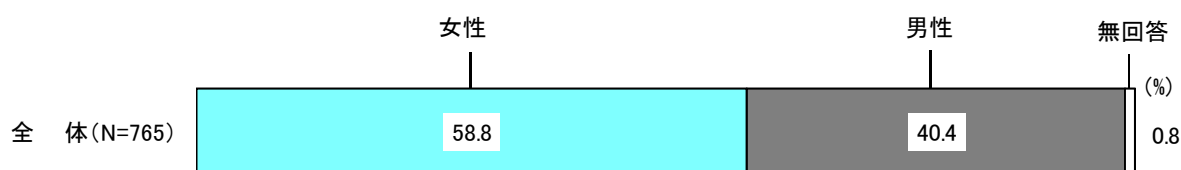
1 回答者の属性

1-1 性別

問1 あなたの性別は

「女性」が58.8%、「男性」が40.4%となっています。(図表1-1-①)

図表1-1-① 性別 (全体)

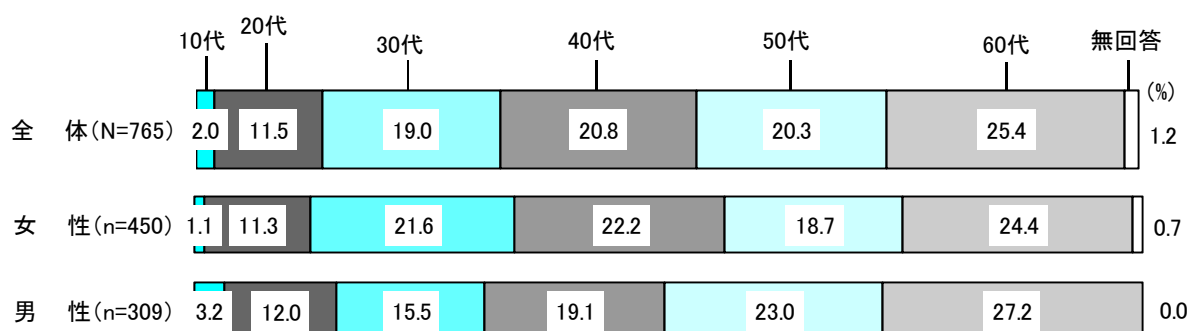


1-2 年齢

問2 あなたの年齢は

全体では、「60代(25.4%)」が最も多く、「40代(20.8%)」、「50代(20.3%)」が続いています。性別にみると、女性は「60代(24.4%)」、「40代(22.2%)」、「30代(21.6%)」が2割台となっています。男性は「60代(27.2%)」が2割台後半で最も多く、年齢が下がるほど少なくなっています。(図表1-2-①)

図表1-2-① 年齢 (全体、性別)



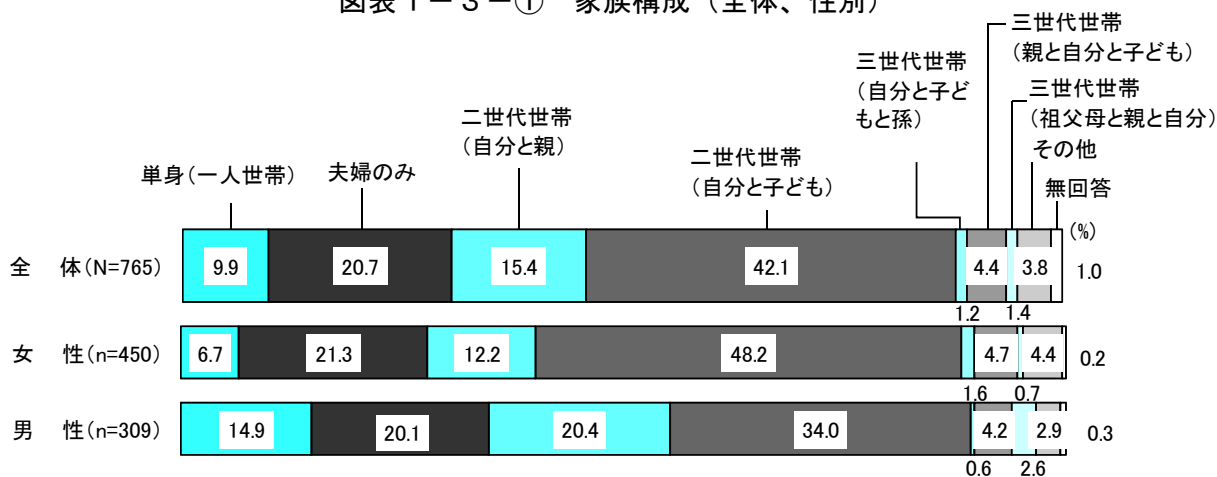
1-3 家族構成

問3 あなたのご家族の構成は次のどれにあたりますか。(1つに〇)

全体では、「二世世代世帯（自分と子ども）（42.1%）」が最も多く、「夫婦のみ（20.7%）」、「二世世代世帯（自分と親）（15.4%）」が続いています。

性別にみると、女性は「二世世代世帯（自分と子ども）（48.2%）」が5割弱を占め最も多く、「夫婦のみ（21.3%）」、「二世世代世帯（自分と親）（12.2%）」、「単身（一人世帯）（6.7%）」が続いています。男性は「二世世代世帯（自分と子ども）（34.0%）」が3割台で最も多く、「二世世代世帯（自分と親）（20.4%）」、「夫婦のみ（20.1%）」、「単身世帯（14.9%）」が続いています。（図表1-3-①）

図表1-3-① 家族構成（全体、性別）



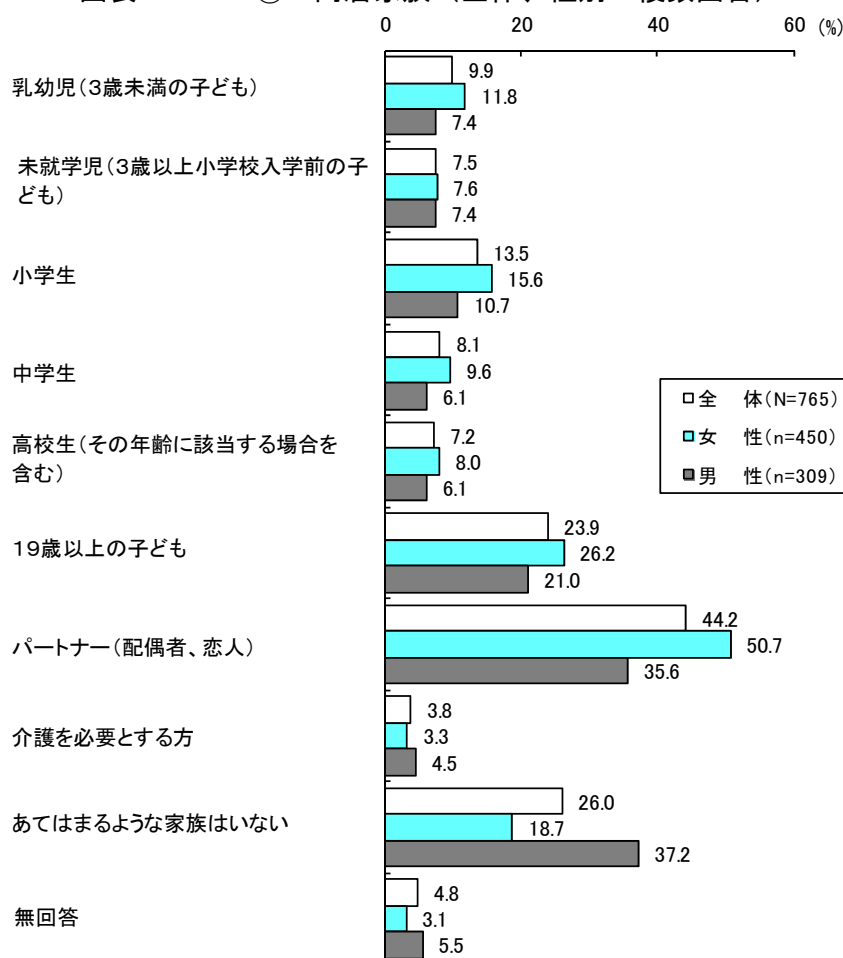
1-4 同居家族

問4 あなたは一緒に暮らしている次のようなご家族がいらっしゃいますか。ただしお子さんについてはあなたのお子さん（配偶者の子を含む）についてお答えください。(いくつでも〇)

全体では、「パートナー（配偶者、恋人）（44.2%）」が最も多く、「あてはまるような家族はいない（26.0%）」、「19歳以上の子ども（23.9%）」が続いています。

性別にみると、女性は「パートナー（配偶者、恋人）（50.7%）」が最も多くなっています。男性は「あてはまるような家族はいない（37.2%）」が最も多く、「パートナー（配偶者、恋人）（35.6%）」が続いています。（図表1-4-①）

図表 1-4-① 同居家族（全体、性別：複数回答）



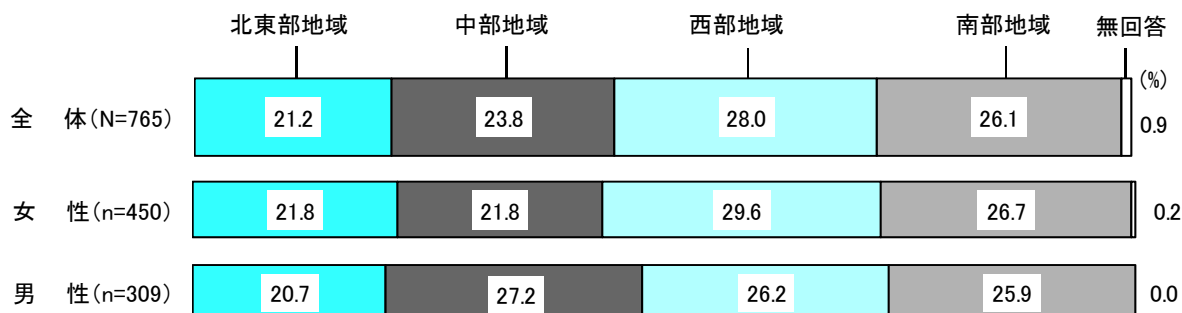
1-5 居住地域

問5 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1から4の1つに○)

全体では「西部地域 (28.0%)」が最も多く、「南部地域 (26.1%)」、「中部地域 (23.8%)」、「北東部地域 (21.2%)」が続いています。

性別にみると、「中部地域 (女性：21.8%、男性：27.2%)」は男性が女性を 5.4 ポイント上回っており、その他の地域は女性が男性を上回っています。(図表 1-5-①)

図表 1-5-① 居住地域（全体、性別）



2 男女平等参画の意識

2-1 男女の地位の平等感

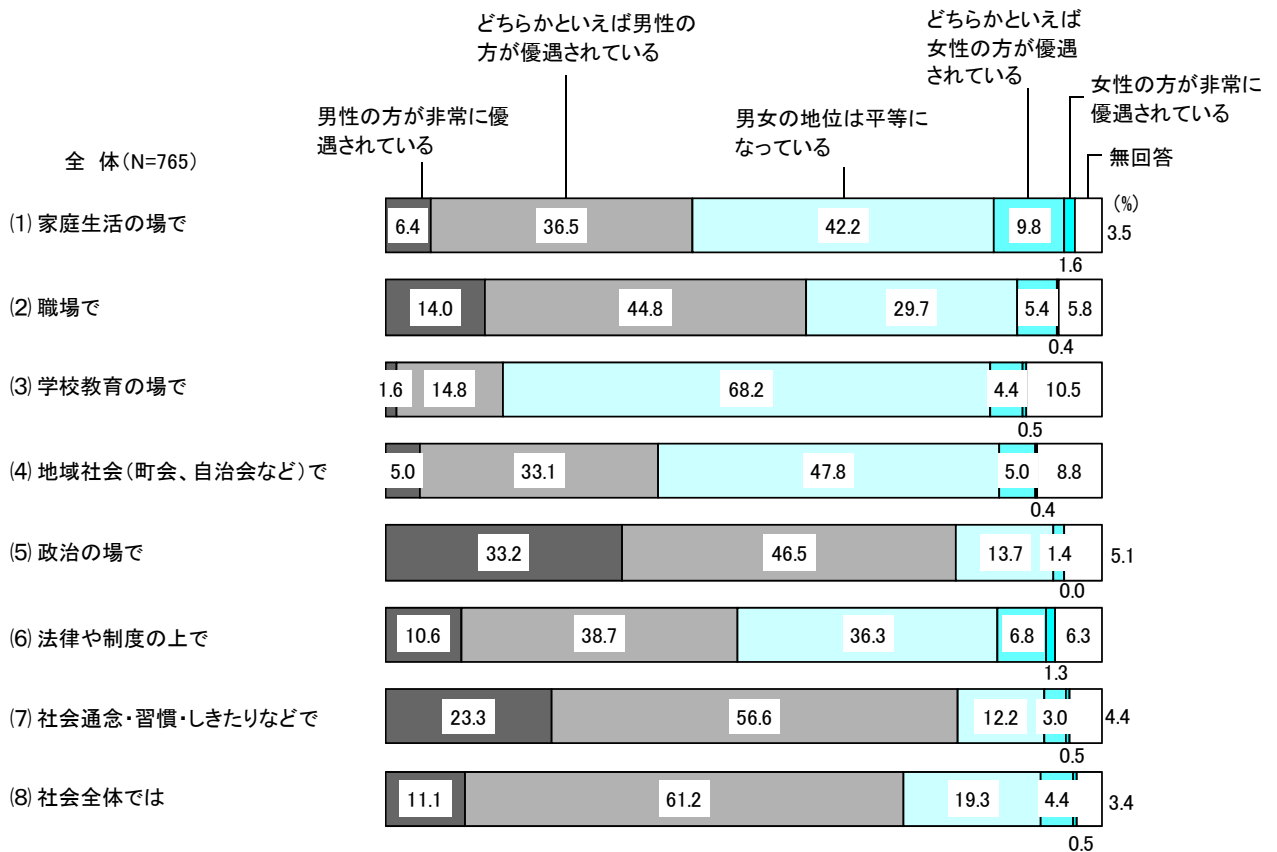
問6 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

7つの分野および『社会全体では』について、男女の地位の平等感をたずねました。

ここでは、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計を《男性優遇》とし、「男女の地位は平等になっている」を《平等》とし、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計を《女性優遇》としています。

全体では、『政治の場で (79.7%)』、『社会通念・習慣・しきたりなどで (79.9%)』で《男性優遇》が8割弱と高くなっています。また、『学校教育の場で』で《平等 (68.2%)》が7割弱であり、7つの分野の中で最も高くなっています。また、『社会全体では』では、《男性優遇 (72.3%)》が7割を超えています。(図表2-1-①)

図表2-1-① 男女の地位の平等感 (全体)

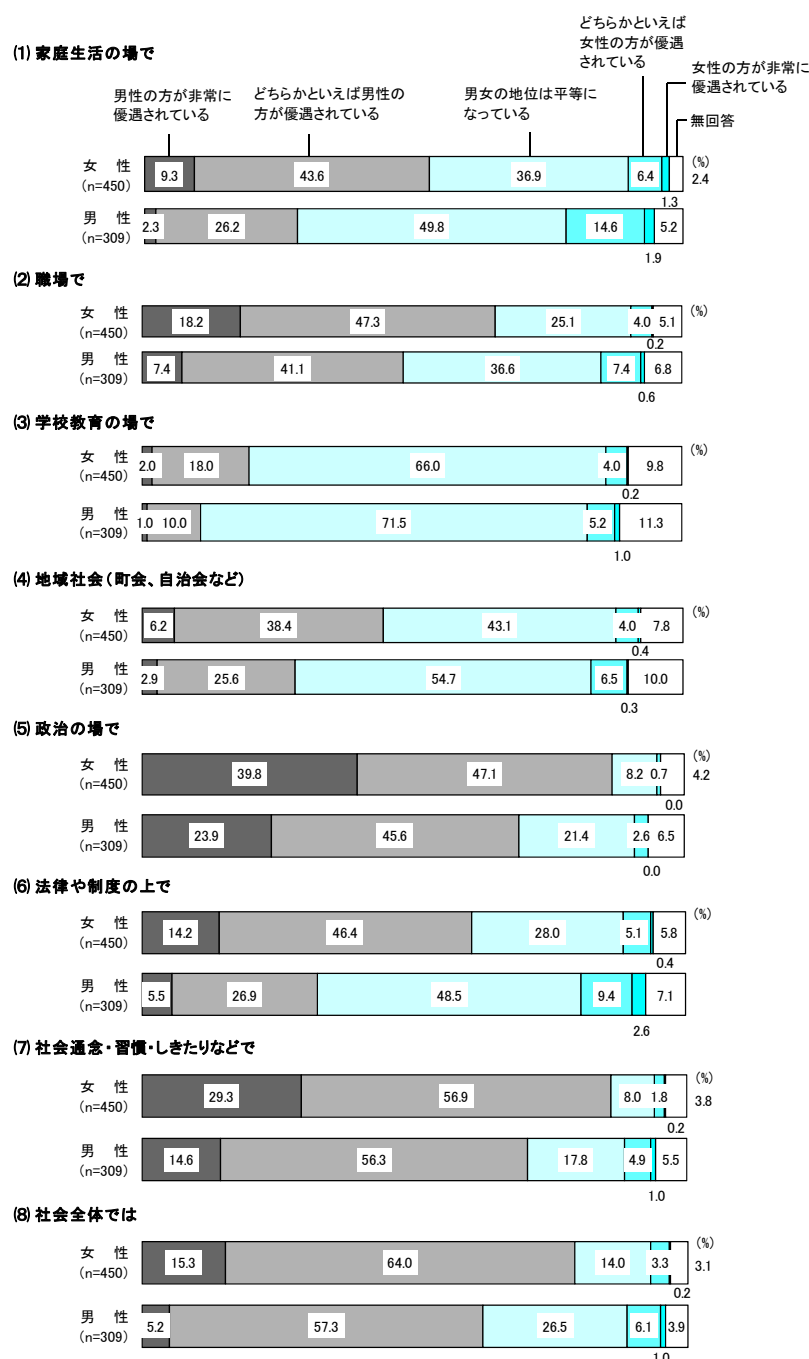


性別にみると、どの項目でも、女性は男性より《男性優遇》、男性は女性より《平等》、《女性優遇》と回答する割合が高くなっています。

また、女性は『学校教育の場で』以外の項目では、《男性優遇》が《平等》を上回っており、とくに『政治の場で (86.9%)』、『社会通念・習慣・しきたりなどで (86.2%)』、『社会全体では (79.3%)』で《男性優遇》の割合が8割弱から8割台と高くなっています。一方、男性は『家庭生活の場で』、『学校教育の場で』、『地域社会(町会、自治会など)で』、『法律や制度の上で』で《平等》が《男性優遇》を上回っています。

また、『法律や制度の上で』、『家庭生活の場で』では男女差が大きく、女性が男性を《男性優遇》で、それぞれ28.2ポイント、24.4ポイント上回っています。(図表2-1-②)

図表2-1-② 男女の地位の平等感(性別)



各分野における男女平等意識を性・年代別にみています。

(1) 家庭生活の場で

性・年代別にみると、女性は年代が上がるほど《男性優遇》の割合が高くなっており、20代では29.4%ですが、60代では67.2%となっています。男性は、20代では《平等》が6割台となっており、30代以上は《平等》が4割台後半となっています。(図表2-1-③)

図表2-1-③ 男女の地位の平等感『家庭生活の場で』(全体、性・年代別)

		優男性 遇さ れ方 が 非 常 に	れ男ど て性 いの ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 な つ の 地 位 は 平 等	れ女ど て性 いの ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 遇さ れ方 が 非 常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		6.4	36.5	42.2	9.8	1.6	3.5	
性・年代別	女	10 代 (n= 5)	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0
		20 代 (n= 51)	3.9	25.5	58.8	9.8	0.0	2.0
		30 代 (n= 97)	2.1	38.1	44.3	10.3	2.1	3.1
		40 代 (n= 100)	16.0	37.0	37.0	6.0	2.0	2.0
		50 代 (n= 84)	6.0	57.1	28.6	6.0	0.0	2.4
		60 代 (n= 110)	14.5	52.7	28.2	1.8	0.0	2.7
	男	10 代 (n= 10)	0.0	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	0.0	18.9	62.2	10.8	2.7	5.4
		30 代 (n= 48)	2.1	29.2	45.8	18.8	2.1	2.1
		40 代 (n= 59)	8.5	23.7	45.8	16.9	1.7	3.4
		50 代 (n= 71)	0.0	26.8	49.3	14.1	4.2	5.6
		60 代 (n= 84)	1.2	31.0	48.8	10.7	0.0	8.3

(2) 職場で

性・年代別にみると、女性の30代以上は《男性優遇》が6割から7割台となっています。男性の30代以上は、《男性優遇》が4割台後半から5割台となっています。(図表2-1-④)

図表2-1-④ 男女の地位の平等感『職場で』(全体、性・年代別)

		優男性 遇さ れ方 が 非 常 に	れ男ど て性 いの ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 な つ の 地 位 は 平 等	れ女ど て性 いの ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 遇さ れ方 が 非 常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		14.0	44.8	29.7	5.4	0.4	5.8	
性・年代別	女	10 代 (n= 5)	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	11.8	43.1	35.3	7.8	0.0	2.0
		30 代 (n= 97)	13.4	50.5	28.9	3.1	0.0	4.1
		40 代 (n= 100)	23.0	44.0	22.0	6.0	0.0	5.0
		50 代 (n= 84)	17.9	54.8	22.6	2.4	0.0	2.4
		60 代 (n= 110)	20.0	43.6	22.7	2.7	0.9	10.0
	男	10 代 (n= 10)	0.0	10.0	60.0	10.0	0.0	20.0
		20 代 (n= 37)	8.1	35.1	37.8	10.8	0.0	8.1
		30 代 (n= 48)	6.3	41.7	37.5	10.4	2.1	2.1
		40 代 (n= 59)	11.9	42.4	35.6	10.2	0.0	0.0
		50 代 (n= 71)	4.2	40.8	43.7	4.2	1.4	5.6
		60 代 (n= 84)	8.3	46.4	27.4	4.8	0.0	13.1

(3) 学校教育の場で

性・年代別にみると、女性の60代は《平等(57.3%)》が全体(68.2%)を10.9ポイント下回っています。男性の30代、40代は《平等》が8割台と多くなっています。(図表2-1-⑤)

図表2-1-⑤ 男女の地位の平等感『学校教育の場で』(全体、性・年代別)

			優男 遇性 さの れ方 てが い非 常に	れ男 ど 性 の ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 な つ て の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女 遇性 さの れ方 てが い非 常に	無 回 答
全		体 (N= 765)	1.6	14.8	68.2	4.4	0.5	10.5
性・年代別	女	10代 (n= 5)	0.0	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0
		20代 (n= 51)	3.9	9.8	76.5	5.9	0.0	3.9
		30代 (n= 97)	0.0	23.7	61.9	4.1	0.0	10.3
		40代 (n= 100)	3.0	16.0	72.0	3.0	0.0	6.0
		50代 (n= 84)	1.2	11.9	71.4	3.6	0.0	11.9
		60代 (n= 110)	2.7	20.9	57.3	3.6	0.9	14.5
	男	10代 (n= 10)	0.0	10.0	50.0	30.0	0.0	10.0
		20代 (n= 37)	2.7	10.8	73.0	2.7	5.4	5.4
		30代 (n= 48)	2.1	6.3	87.5	2.1	0.0	2.1
		40代 (n= 59)	1.7	6.8	81.4	6.8	0.0	3.4
		50代 (n= 71)	0.0	14.1	67.6	4.2	1.4	12.7
		60代 (n= 84)	0.0	10.7	60.7	4.8	0.0	23.8

(4) 地域社会(町会、自治会など)で

性・年代別にみると、女性の20代は《平等》が5割を超え、30代、40代、50代は《男性優遇》、《平等》ともに4割台、60代は《平等》が3割台となっています。男性は20代、30代、40代は《平等》が6割弱から6割台、50代、60代は《平等》が4割台となっています。(図表2-1-⑥)

図表2-1-⑥ 男女の地位の平等感『地域社会(町会、自治会など)で』(全体、性・年代別)

			優男 遇性 さの れ方 てが い非 常に	れ男 ど 性 の ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 な つ て の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女 遇性 さの れ方 てが い非 常に	無 回 答
全		体 (N= 765)	5.0	33.1	47.8	5.0	0.4	8.8
性・年代別	女	10代 (n= 5)	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
		20代 (n= 51)	5.9	31.4	54.9	3.9	2.0	2.0
		30代 (n= 97)	3.1	38.1	44.3	5.2	0.0	9.3
		40代 (n= 100)	7.0	34.0	41.0	6.0	1.0	11.0
		50代 (n= 84)	6.0	39.3	46.4	3.6	0.0	4.8
		60代 (n= 110)	7.3	44.5	37.3	1.8	0.0	9.1
	男	10代 (n= 10)	0.0	10.0	80.0	0.0	0.0	10.0
		20代 (n= 37)	2.7	21.6	62.2	8.1	0.0	5.4
		30代 (n= 48)	8.3	14.6	66.7	6.3	0.0	4.2
		40代 (n= 59)	3.4	23.7	59.3	8.5	1.7	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	33.8	49.3	8.5	0.0	7.0
		60代 (n= 84)	1.2	29.8	42.9	3.6	0.0	22.6

(5) 政治の場で

性・年代別にみると、女性はすべての年代で《男性優遇》が8割を超えており、とくに40代、50代では約9割となっています。男性は20代から50代で《男性優遇》が7割台、60代では《男性優遇》が6割台となっています。(図表2-1-⑦)

図表2-1-⑦ 男女の地位の平等感『政治の場で』(全体、性・年代別)

		優男性 遇され 方が 非常 に	れ男 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 女 の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 遇され 方が 非常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		33.2	46.5	13.7	1.4	0.0	5.1	
性・年代別	女性	10 代 (n= 5)	60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	31.4	54.9	9.8	2.0	0.0	2.0
		30 代 (n= 97)	40.2	44.3	9.3	2.1	0.0	4.1
		40 代 (n= 100)	45.0	46.0	3.0	0.0	0.0	6.0
		50 代 (n= 84)	39.3	50.0	8.3	0.0	0.0	2.4
		60 代 (n= 110)	36.4	47.3	10.9	0.0	0.0	5.5
	男性	10 代 (n= 10)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	27.0	43.2	21.6	2.7	0.0	5.4
		30 代 (n= 48)	31.3	41.7	20.8	4.2	0.0	2.1
		40 代 (n= 59)	27.1	49.2	22.0	0.0	0.0	1.7
		50 代 (n= 71)	19.7	52.1	19.7	2.8	0.0	5.6
		60 代 (n= 84)	22.6	40.5	19.0	3.6	0.0	14.3

(6) 法律や制度の上で

性・年代別にみると、女性の20代は《男性優遇》、《平等》ともに4割台となっており、30代から60代は《男性優遇》が6割弱から6割台となっています。男性の20代は、《女性優遇(29.7%)》が《男性優遇(21.6%)》を上回っています。また、男性の30代から60代は《平等》が4割台後半から5割であり、《男性優遇》を上回っています。(図表2-1-⑧)

図表2-1-⑧ 男女の地位の平等感『法律や制度の上で』(全体、性・年代別)

		優男性 遇され 方が 非常 に	れ男 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 女 の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 遇され 方が 非常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		10.6	38.7	36.3	6.8	1.3	6.3	
性・年代別	女性	10 代 (n= 5)	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	5.9	37.3	41.2	15.7	0.0	0.0
		30 代 (n= 97)	19.6	46.4	25.8	2.1	1.0	5.2
		40 代 (n= 100)	16.0	42.0	27.0	7.0	0.0	8.0
		50 代 (n= 84)	10.7	54.8	25.0	4.8	1.2	3.6
		60 代 (n= 110)	12.7	50.9	26.4	0.9	0.0	9.1
	男性	10 代 (n= 10)	0.0	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	0.0	21.6	43.2	21.6	8.1	5.4
		30 代 (n= 48)	4.2	33.3	45.8	12.5	2.1	2.1
		40 代 (n= 59)	10.2	25.4	49.2	11.9	1.7	1.7
		50 代 (n= 71)	7.0	23.9	50.7	4.2	4.2	9.9
		60 代 (n= 84)	4.8	29.8	47.6	4.8	0.0	13.1

(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで

性・年代別にみると、女性は50代までは年代が上がるほど《男性優遇》の割合が高くなっており、50代では9割を超えています。男性は年代によりばらつきがあり、20代は《男性優遇》が5割台、30代は《男性優遇》が8割台、40代、50代が《男性優遇》が7割台となっています。(図表2-1-9)

図表2-1-9 男女の地位の平等感『社会通念・習慣・しきたりなどで』(全体、性・年代別)

		優男性 さ れ 方 が 非 常 に	れ男 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 女 の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 さ れ 方 が 非 常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		23.3	56.6	12.2	3.0	0.5	4.4	
性・年代別	女性	10 代 (n= 5)	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	29.4	47.1	15.7	7.8	0.0	0.0
		30 代 (n= 97)	33.0	52.6	9.3	0.0	0.0	5.2
		40 代 (n= 100)	32.0	55.0	8.0	1.0	0.0	4.0
		50 代 (n= 84)	26.2	64.3	6.0	1.2	1.2	1.2
		60 代 (n= 110)	24.5	63.6	4.5	0.9	0.0	6.4
	男性	10 代 (n= 10)	0.0	50.0	40.0	10.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	13.5	40.5	24.3	10.8	5.4	5.4
		30 代 (n= 48)	16.7	66.7	8.3	4.2	0.0	4.2
		40 代 (n= 59)	22.0	54.2	20.3	1.7	0.0	1.7
		50 代 (n= 71)	14.1	57.7	14.1	5.6	1.4	7.0
		60 代 (n= 84)	10.7	58.3	19.0	3.6	0.0	8.3

(8) 社会全体では

性・年代別にみると、女性は20代以上で《男性優遇》が7割を超えており、とくに40代以上では8割を超えています。男性は、20代では《男性優遇》が5割弱であり、30代以上は《男性優遇》が6割台となっています。(図表2-1-10)

図表2-1-10 男女の地位の平等感『社会全体では』(全体、性・年代別)

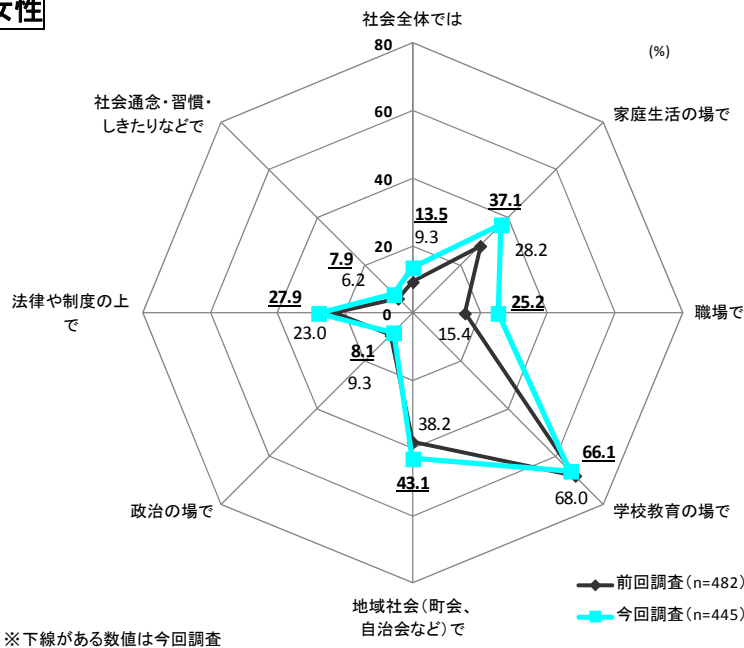
		優男性 さ れ 方 が 非 常 に	れ男 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	に男 女 の 地 位 は 平 等	れ女 ど 性 の ち ら か と 優 い 遇 え さ ば	優女性 さ れ 方 が 非 常 に	無 回 答	
全 体 (N= 765)		11.1	61.2	19.3	4.4	0.5	3.4	
性・年代別	女性	10 代 (n= 5)	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	11.8	58.8	17.6	11.8	0.0	0.0
		30 代 (n= 97)	13.4	64.9	13.4	2.1	0.0	6.2
		40 代 (n= 100)	18.0	65.0	11.0	2.0	1.0	3.0
		50 代 (n= 84)	9.5	72.6	11.9	4.8	0.0	1.2
		60 代 (n= 110)	19.1	60.9	15.5	0.9	0.0	3.6
	男性	10 代 (n= 10)	0.0	40.0	50.0	10.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	2.7	45.9	35.1	8.1	2.7	5.4
		30 代 (n= 48)	8.3	54.2	27.1	8.3	0.0	2.1
		40 代 (n= 59)	6.8	59.3	27.1	6.8	0.0	0.0
		50 代 (n= 71)	2.8	62.0	23.9	4.2	2.8	4.2
		60 代 (n= 84)	6.0	60.7	21.4	4.8	0.0	7.1

『前回調査(平成 19 年調査)との比較』

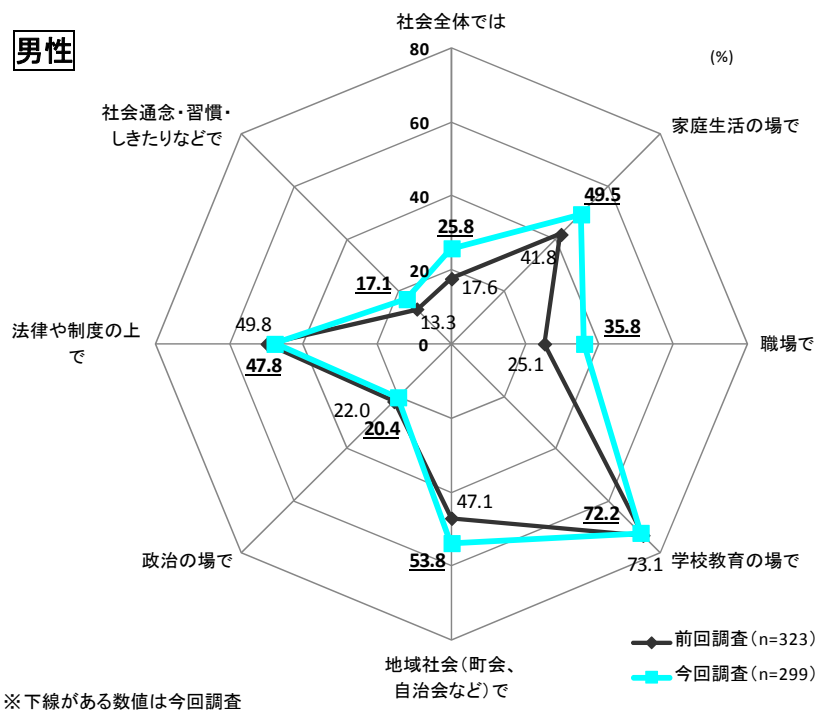
男女の地位の平等感について、性別に《平等》と回答した割合を今回調査と前回調査で比較しています。女性は『政治の場で』、『学校教育の場で』以外で今回調査が前回調査を上回っています。男性は『法律や制度の上で』、『政治の場で』、『学校教育の場で』以外では、今回調査が前回調査を上回っています。(図表 2-1-①)

図表 2-1-① 男女の地位の平等感(性別)【前回比較】
 < 《平等》と回答した割合 >

女性



男性



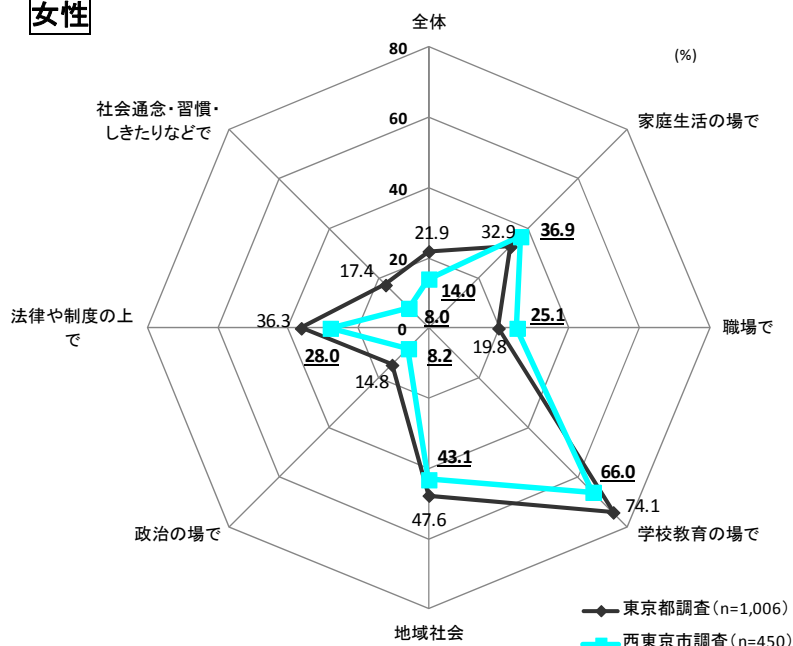
※前回調査は対象者の年齢が 20 歳以上 70 歳未満のため、今回調査も 20 歳以上 70 歳未満で再集計しています。

『東京都調査との比較』

男女の地位の平等感について、性別に《平等》と回答した割合を今回の西東京市調査と東京都調査で比較しています。男女とも『家庭生活の場で』、『職場で』のみ西東京市が東京都を上回っています。(図表2-1-⑫)

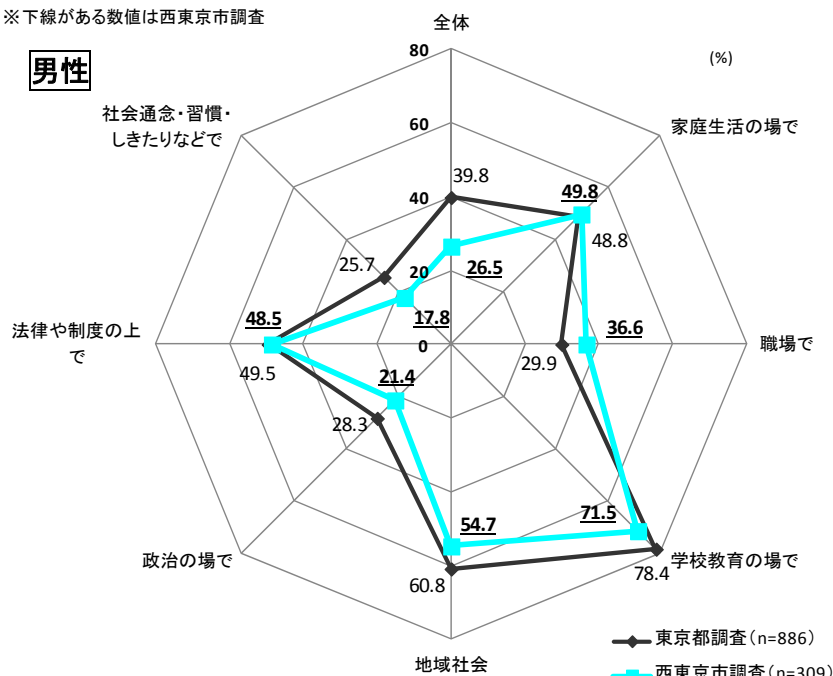
図表2-1-⑫ 男女の地位の平等感(性別)【東京都比較】
 <《平等》と回答した割合>

女性



※下線がある数値は西東京市調査

男性



※下線がある数値は西東京市調査

※東京都調査は「男女平等参画に関する調査(平成23年1月)」

※調査対象者の年齢は、西東京市では18歳から70歳未満、東京都では20歳以上です。

※『全体』は西東京市が『社会全体では』、東京都が『全体として』でたずねています。『地域社会』は西東京市が『地域社会(町会、自治会など)で』、東京都が『自治会やNPOなどの地域活動の場』でたずねています。

2-2 結婚・家庭・離婚などについての考え

問7 結婚・家庭・離婚などについて多様な考えがありますが、次にあげるようなことについて、あなたはどのように思いますか。(1)から(4)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに〇)

結婚・家庭・離婚などについて4つの考え方をたずねました。

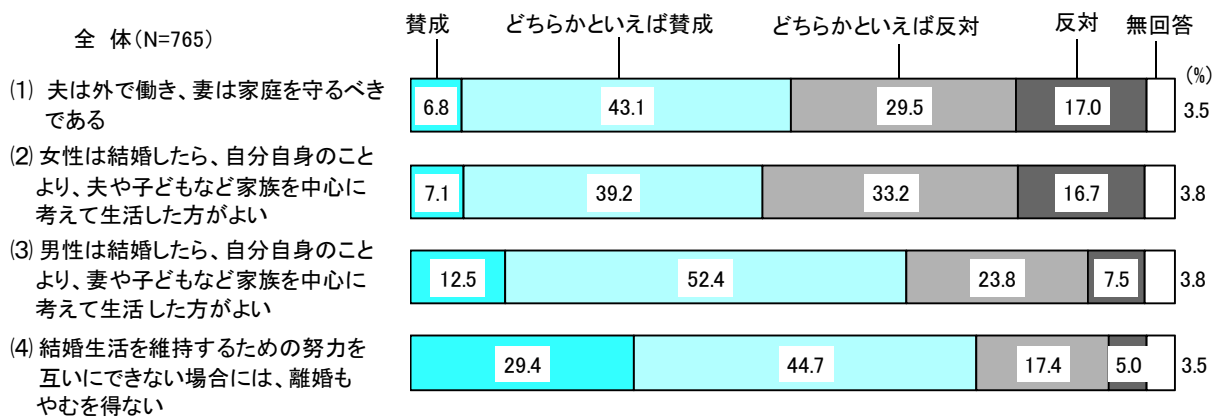
ここでは、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計を《賛成》とし、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計を《反対》としています。

全体では、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、《賛成(49.9%)》が《反対(46.5%)》を3.4ポイント上回っています。

『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』では、《反対(49.9%)》が《賛成(46.3%)》を3.6ポイント上回っています。一方、『男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』では、《賛成(64.9%)》が《反対(31.3%)》を33.6ポイントと大幅に上回っています。

『結婚生活を維持するための努力を互いにできない場合には、離婚もやむを得ない』では、《賛成(74.1%)》が7割を超えています。(図表2-2-①)

図表2-2-① 結婚・家庭・離婚などについての考え(全体)



性別にみると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』では、女性は《反対（49.7%）》が《賛成（47.3%）》を2.4ポイント上回っていますが、男性は《賛成（53.4%）》が《反対（42.1%）》を11.3ポイント上回っています。

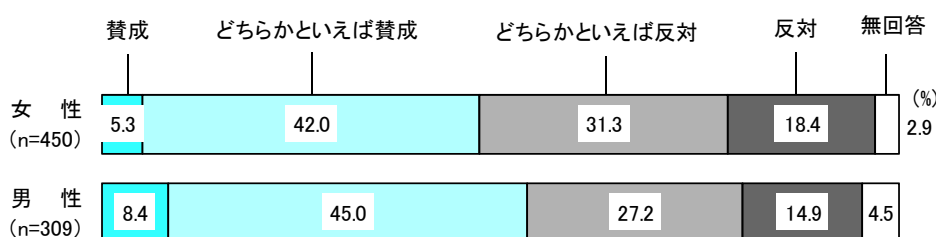
『結婚生活を維持するための努力を互いにできない場合には、離婚もやむを得ない』では、女性は《賛成（77.1%）》の割合で男性（70.2%）を6.9ポイント上回っています。

また、『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』、『男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』では、男女で《賛成》、《反対》の割合に差はあまりない状況です。

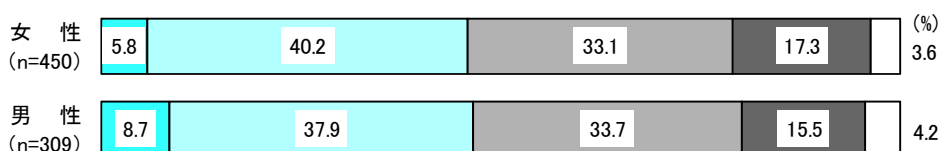
項目間でみると、男女ともに『男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』の《賛成（女性 65.1%、男性 64.4%）》の割合は、『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』の《賛成（女性 46.0%、男性 46.6%）》の割合よりも高く、女性は19.1ポイント、男性は17.8ポイント上回っています。（図表2-2-②）

図表2-2-② 結婚・家庭・離婚などについての考え（性別）

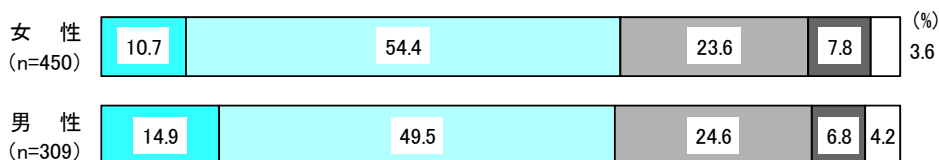
(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



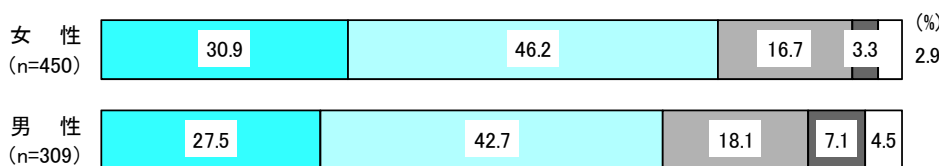
(2) 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



(3) 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい



(4) 結婚生活を維持するための努力を互いにできない場合には、離婚もやむを得ない



結婚・家庭・離婚などについての考え方を性・年代別にみえています。

(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

性・年代別にみると、女性は30代、60代で《賛成》が《反対》を上回っています。男性は30代以上で《賛成》が《反対》を上回っています。(図表2-2-③)

図表2-2-③ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(全体、性・年代別)

			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無 回 答
全 体 (N= 765)			6.8	43.1	29.5	17.0	3.5
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0
		20代 (n= 51)	5.9	39.2	39.2	15.7	0.0
		30代 (n= 97)	8.2	49.5	28.9	10.3	3.1
		40代 (n= 100)	4.0	36.0	29.0	26.0	5.0
		50代 (n= 84)	7.1	31.0	39.3	20.2	2.4
		60代 (n= 110)	2.7	50.9	28.2	16.4	1.8
	男性	10代 (n= 10)	10.0	30.0	50.0	10.0	0.0
		20代 (n= 37)	2.7	40.5	27.0	21.6	8.1
		30代 (n= 48)	2.1	52.1	27.1	16.7	2.1
		40代 (n= 59)	10.2	45.8	30.5	13.6	0.0
		50代 (n= 71)	8.5	42.3	29.6	12.7	7.0
60代 (n= 84)		13.1	46.4	20.2	14.3	6.0	

(2) 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

性・年代別にみると、女性は30代のみ《賛成》が《反対》を上回っています。男性は30代、60代で《賛成》が《反対》を上回っています。(図表2-2-④)

図表2-2-④ 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい(全体、性・年代別)

			賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無 回 答
全 体 (N= 765)			7.1	39.2	33.2	16.7	3.8
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0
		20代 (n= 51)	3.9	31.4	43.1	21.6	0.0
		30代 (n= 97)	8.2	45.4	29.9	10.3	6.2
		40代 (n= 100)	6.0	41.0	29.0	21.0	3.0
		50代 (n= 84)	7.1	38.1	28.6	22.6	3.6
		60代 (n= 110)	3.6	40.9	38.2	13.6	3.6
	男性	10代 (n= 10)	0.0	10.0	70.0	20.0	0.0
		20代 (n= 37)	10.8	29.7	29.7	21.6	8.1
		30代 (n= 48)	8.3	52.1	22.9	14.6	2.1
		40代 (n= 59)	6.8	28.8	47.5	16.9	0.0
		50代 (n= 71)	7.0	36.6	38.0	12.7	5.6
60代 (n= 84)		11.9	44.0	23.8	14.3	6.0	

(3) 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
性・年代別にみると、女性の10代をのぞく男女すべての年代で、《賛成》が《反対》を上回って
おり、とくに女性の30代・40代、男性の30代で《賛成》が7割を超え多くなっています。(図
表2-2-⑤)

図表2-2-⑤ 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
(全体、性・年代別)

		賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無回 答	
全 体 (N= 765)		12.5	52.4	23.8	7.5	3.8	
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 51)	15.7	41.2	31.4	11.8	0.0
		30 代 (n= 97)	14.4	55.7	21.6	2.1	6.2
		40 代 (n= 100)	13.0	58.0	17.0	10.0	2.0
		50 代 (n= 84)	4.8	57.1	22.6	10.7	4.8
		60 代 (n= 110)	7.3	55.5	27.3	6.4	3.6
	男 性	10 代 (n= 10)	20.0	30.0	40.0	10.0	0.0
		20 代 (n= 37)	13.5	45.9	24.3	8.1	8.1
		30 代 (n= 48)	25.0	54.2	14.6	4.2	2.1
		40 代 (n= 59)	11.9	49.2	30.5	8.5	0.0
		50 代 (n= 71)	5.6	54.9	25.4	8.5	5.6
		60 代 (n= 84)	19.0	46.4	23.8	4.8	6.0

(4) 結婚生活を維持するための努力を互いにできない場合には、離婚もやむを得ない

性・年代別にみると、どの年代も《賛成》が《反対》を上回っており、とくに女性の20代・
40代、男性の40代で《賛成》が8割を超え多くなっています。(図表2-2-⑥)

図表2-2-⑥ 結婚生活を維持するための努力を互いにできない場合には、離婚もやむを得ない
(全体、性・年代別)

		賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無回 答	
全 体 (N= 765)		29.4	44.7	17.4	5.0	3.5	
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 51)	45.1	41.2	9.8	3.9	0.0
		30 代 (n= 97)	32.0	46.4	16.5	1.0	4.1
		40 代 (n= 100)	31.0	50.0	14.0	1.0	4.0
		50 代 (n= 84)	29.8	44.0	21.4	2.4	2.4
		60 代 (n= 110)	22.7	47.3	20.0	7.3	2.7
	男 性	10 代 (n= 10)	30.0	30.0	40.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	24.3	37.8	21.6	8.1	8.1
		30 代 (n= 48)	25.0	41.7	22.9	8.3	2.1
		40 代 (n= 59)	33.9	50.8	11.9	1.7	1.7
		50 代 (n= 71)	26.8	47.9	11.3	8.5	5.6
		60 代 (n= 84)	26.2	36.9	21.4	9.5	6.0

結婚・家庭などについての考え方を性・未既婚・夫婦の働き方別に分析しました。

(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

性・未既婚別にみると、女性の既婚は《賛成 (48.6%)》と《反対 (49.8%)》がどちらも5割弱であり、未婚は《反対 (55.0%)》が5割台で《賛成 (44.9%)》を上回っています。男性の既婚は《賛成 (57.4%)》が5割台で《反対 (40.9%)》を上回り、未婚は《賛成 (49.5%)》と《反対 (47.5%)》がどちらも4割台後半となっています。

既婚者について、夫婦の働き方別にみると、女性の共働きは《反対 (61.1%)》が6割を超えています。男性の共働きは《賛成 (53.7%)》が《反対 (45.3%)》を上回っています。また、女性の配偶者のみ働いている人は《賛成 (64.9%)》が6割を超えており、男性の自分のみ働いている人も《賛成 (61.1%)》が6割を超えています。(図表2-2-⑦)

図表2-2-⑦ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(全体、性・未既婚・夫婦の働き方別)

		賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反対	無 回 答	
全 体 (N= 765)		6.8	43.1	29.5	17.0	3.5	
性・未既婚・夫婦の働き方別	女 性	既 婚 (n= 337)	5.9	42.7	32.0	17.8	1.5
		共 働 き (n= 162)	3.7	32.7	34.6	26.5	2.5
		自分のみ働いている (n= 12)	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
		配偶者のみ働いている (n= 128)	9.4	55.5	26.6	7.8	0.8
		どちらも働いていない (n= 34)	5.9	47.1	38.2	8.8	0.0
	男 性	未 婚 (n= 69)	4.3	40.6	33.3	21.7	0.0
		離 ・ 死 別 (n= 39)	2.6	43.6	25.6	20.5	7.7
		既 婚 (n= 181)	7.7	49.7	26.5	14.4	1.7
		共 働 き (n= 95)	6.3	47.4	29.5	15.8	1.1
		自分のみ働いている (n= 67)	10.4	50.7	25.4	10.4	3.0
性	配偶者のみ働いている (n= 5)	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	
	どちらも働いていない (n= 13)	7.7	61.5	15.4	15.4	0.0	
	未 婚 (n= 99)	8.1	41.4	28.3	19.2	3.0	
	離 ・ 死 別 (n= 21)	19.0	38.1	28.6	4.8	9.5	

(2) 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
 性・未既婚別にみると、女性の既婚は《賛成 (49.8%)》と《反対 (48.3%)》がどちらも5割弱であり、未婚は《反対 (65.2%)》が6割台となっています。男性の既婚、未婚ともに《反対》が5割を少し超えています。

既婚者について、夫婦の働き方別にみると、男女ともに共働きは《反対 (女性：54.9%、男性：54.7%)》が5割台であり、《賛成》を上回っています。また、女性の配偶者のみ働いている人は《賛成 (63.3%)》が6割を超えていますが、男性の自分のみ働いている人は《賛成 (47.8%)》と《反対 (49.2%)》がどちらも5割弱となっています。(図表2-2-⑧)

図表2-2-⑧ 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
 (全体、性・未既婚・夫婦の働き方別)

		賛成	い ど え ち ら ば ら 賛 成 と	い ど え ち ら ば ら 反 対 と	反対	無 回 答	
全 体 (N= 765)		7.1	39.2	33.2	16.7	3.8	
性・未既婚・夫婦の働き方別	女 性	既 婚 (n= 337)	6.2	43.6	32.0	16.3	1.8
		共 働 き (n= 162)	6.2	37.0	32.7	22.2	1.9
		自分のみ働いている (n= 12)	0.0	41.7	41.7	16.7	0.0
		配偶者のみ働いている (n= 128)	7.8	55.5	26.6	8.6	1.6
		どちらも働いていない (n= 34)	2.9	32.4	47.1	17.6	0.0
	男 性	未 婚 (n= 69)	4.3	29.0	42.0	23.2	1.4
		離 ・ 死 別 (n= 39)	5.1	35.9	30.8	17.9	10.3
		既 婚 (n= 181)	7.2	40.3	34.8	16.0	1.7
		共 働 き (n= 95)	5.3	38.9	38.9	15.8	1.1
		自分のみ働いている (n= 67)	7.5	40.3	32.8	16.4	3.0
性	配偶者のみ働いている (n= 5)	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	
	どちらも働いていない (n= 13)	15.4	46.2	30.8	7.7	0.0	
	未 婚 (n= 99)	12.1	34.3	36.4	14.1	3.0	
	離 ・ 死 別 (n= 21)	9.5	42.9	19.0	23.8	4.8	

(3) 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

性・未既婚別にみると、女性の既婚は《賛成 (68.0%)》が6割台ですが、未婚は《賛成 (56.5%)》が5割台にとどまっています。男性は既婚、未婚ともに《賛成》が6割台となっています。

既婚者について、夫婦の働き方別にみると、男女ともに共働きは《賛成 (女性：65.5%、男性：62.1%)》が6割台となっています。また、女性の配偶者のみ働いている人、男性の自分のみ働いている人ともに《賛成 (女性：73.5%、男性：71.6%)》が7割を超えています。(図表2-2-⑨)

図表2-2-⑨ 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
(全体、性・未既婚・夫婦の働き方別)

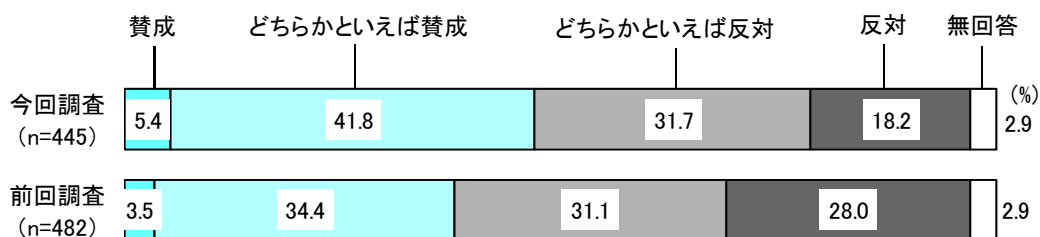
			賛成	い ど え ち ば ら 賛 成 と	い ど え ち ば ら 反 対 と	反 対	無 回 答
全 体 (N= 765)			12.5	52.4	23.8	7.5	3.8
性・未既婚・夫婦の働き方別	女 性	既 婚 (n= 337)	9.8	58.2	22.0	7.4	2.7
		共 働 き (n= 162)	9.9	55.6	22.2	8.6	3.7
		自分のみ働いている (n= 12)	0.0	58.3	41.7	0.0	0.0
		配偶者のみ働いている (n= 128)	10.2	63.3	20.3	4.7	1.6
		どちらも働いていない (n= 34)	11.8	52.9	20.6	14.7	0.0
	男 性	未 婚 (n= 69)	14.5	42.0	31.9	10.1	1.4
		離 ・ 死 別 (n= 39)	12.8	51.3	25.6	7.7	2.6
		既 婚 (n= 181)	13.8	52.5	24.9	7.2	1.7
		共 働 き (n= 95)	8.4	53.7	29.5	7.4	1.1
		自分のみ働いている (n= 67)	14.9	56.7	20.9	4.5	3.0
女 性	配偶者のみ働いている (n= 5)	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	
	どちらも働いていない (n= 13)	38.5	30.8	23.1	7.7	0.0	
	未 婚 (n= 99)	20.2	44.4	25.3	7.1	3.0	
離 ・ 死 別 (n= 21)	4.8	66.7	19.0	4.8	4.8		

『前回調査(平成 19 年調査)との比較』

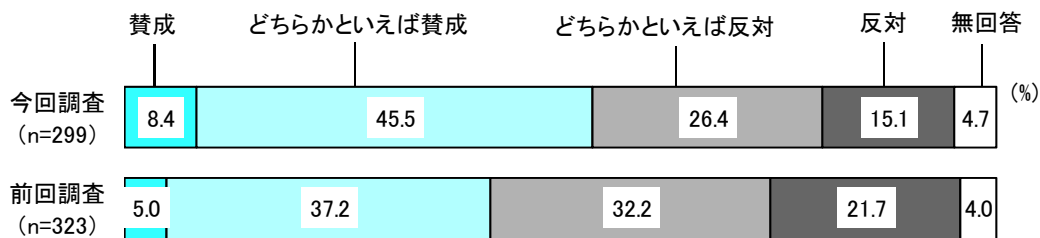
『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、今回調査と前回調査を比較すると、女性は今回調査が《賛成 (47.2%)》で前回調査 (37.9%) を 9.3 ポイント上回っています。男性は今回調査が《賛成 (53.9%)》で前回調査 (42.2%) を 11.7 ポイント上回っています。(図表 2-2-⑩)

図表 2-2-⑩ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (性別)
【前回比較】

女性



男性

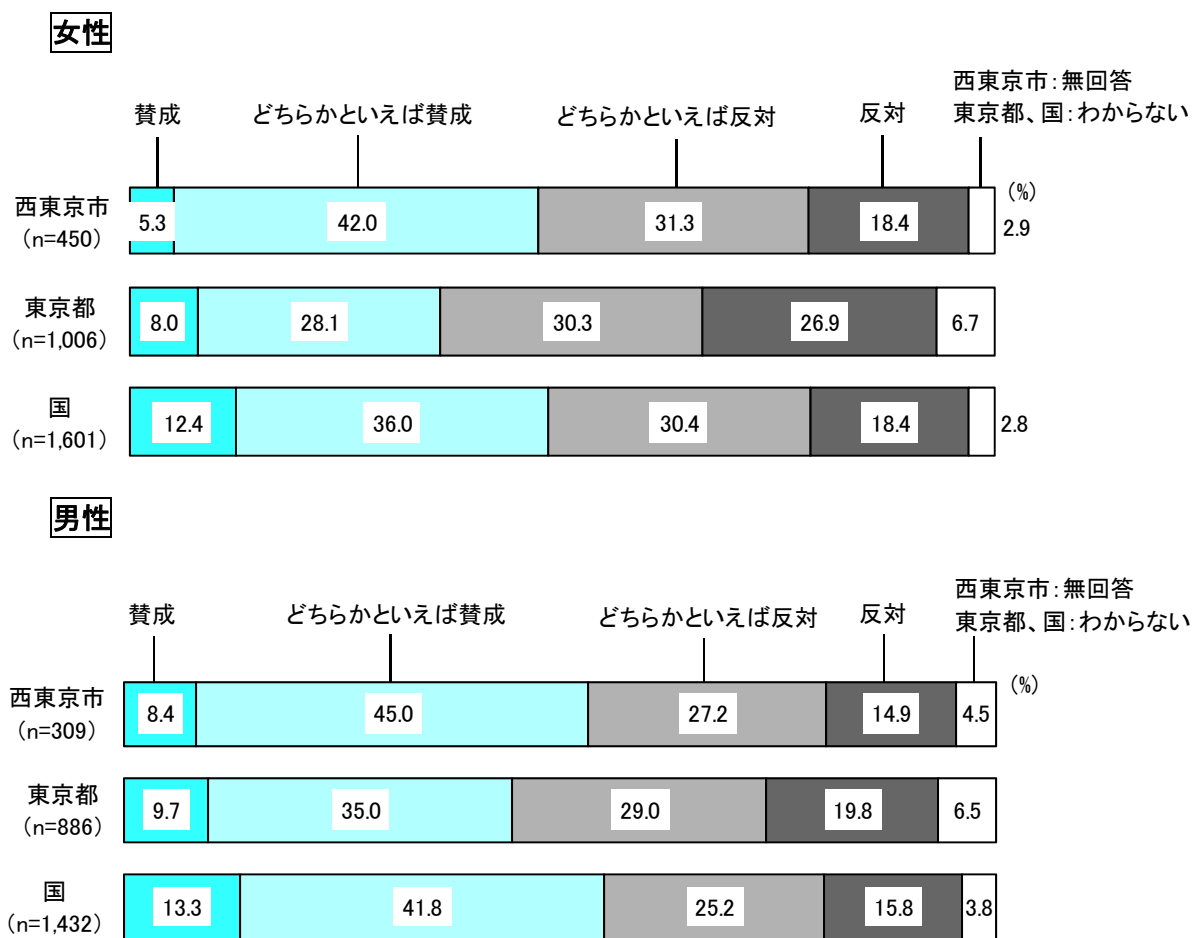


※前回調査は対象者の年齢が 20 歳以上 70 歳未満のため、今回調査も 20 歳以上 70 歳未満で再集計しています。

『東京都調査、国調査との比較』

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、西東京市調査と東京都調査、国調査を比較すると、女性は西東京市が《賛成（47.3%）》で東京都（36.1%）を11.2ポイント上回っていますが、国（48.4%）を1.1ポイント下回っています。男性は西東京市が《賛成（53.4%）》で東京都（44.7%）を8.7ポイント上回っていますが、国（55.1%）を1.7ポイント下回っています。（図表2-2-①）

図表2-2-① 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである（性別）
【東京都、国比較】



※東京都調査は「男女平等参画に関する調査(平成23年1月)」

※国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査(平成24年10月) 内閣府男女共同参画局」

※調査対象者の年齢は、西東京市では18歳から70歳未満、東京都、国では20歳以上です。

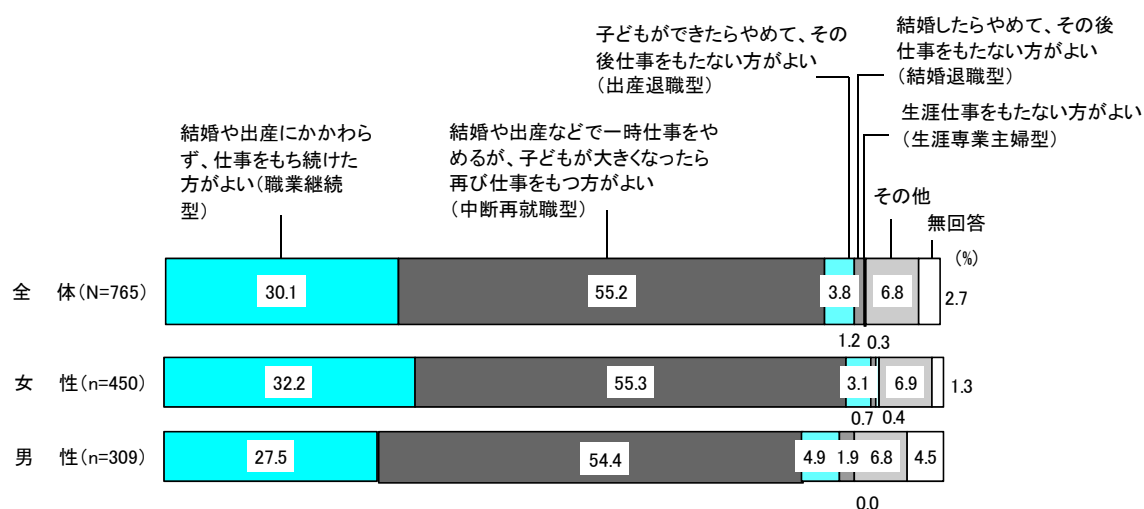
2-3 女性が仕事をもつことについての考え

問8 女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(1つに〇)

全体では、「中断再就職型(55.2%)」が最も多く、「職業継続型(30.1%)」、「出産退職型(3.8%)」が続いています。

性別にみると、女性は「職業継続型(32.2%)」で男性(27.5%)を4.7ポイント上回っています。(図表2-3-①)

図表2-3-① 女性が仕事をもつことについての考え(全体、性別)



性・年代別にみると、女性の10代をのぞく男女すべての年代で「中断再就職型」が最も多く、とくに女性の60代で6割を超え高くなっています。また、女性の40代(36.0%)、男性の30代(37.5%)で「職業継続型」が全体を5ポイント以上上回っています。(図表2-3-②)

図表2-3-② 女性が仕事をもつことについての考え(全体、性・年代別)

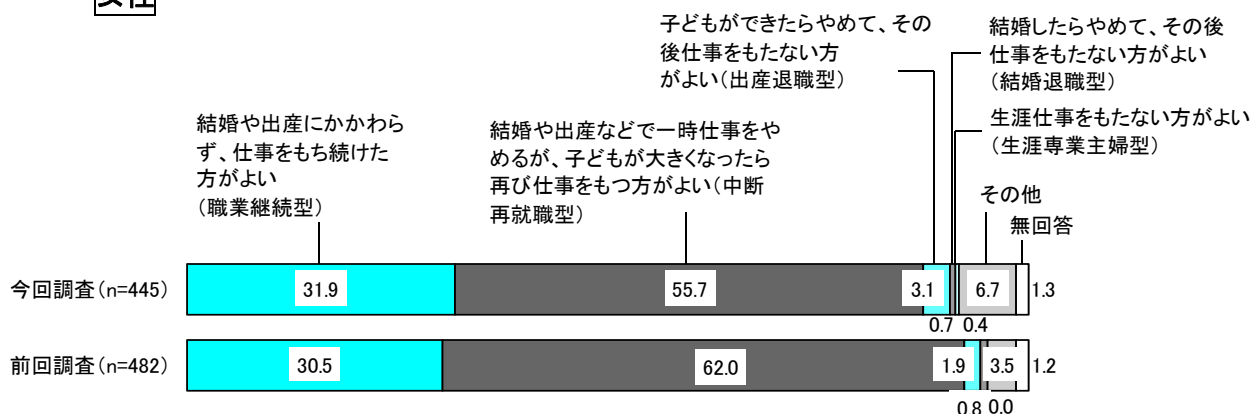
		職業継続型 (職業継続型)	中断再就職型 (中断再就職型)	出産退職型 (出産退職型)	結婚退職型 (結婚退職型)	生涯専業主婦型 (生涯専業主婦型)	その他	無回答
全	体 (N=765)	30.1	55.2	3.8	1.2	0.3	6.8	2.7
女	性							
	10代 (n=5)	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	20代 (n=51)	33.3	51.0	3.9	2.0	0.0	9.8	0.0
	30代 (n=97)	26.8	57.7	6.2	0.0	1.0	5.2	3.1
	40代 (n=100)	36.0	50.0	1.0	0.0	1.0	10.0	2.0
	50代 (n=84)	32.1	56.0	4.8	0.0	0.0	6.0	1.2
60代 (n=110)	31.8	60.9	0.9	1.8	0.0	4.5	0.0	
男	性							
	10代 (n=10)	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	20代 (n=37)	24.3	56.8	2.7	0.0	0.0	10.8	5.4
	30代 (n=48)	37.5	45.8	6.3	0.0	0.0	8.3	2.1
	40代 (n=59)	25.4	55.9	3.4	3.4	0.0	10.2	1.7
	50代 (n=71)	32.4	54.9	4.2	0.0	0.0	2.8	5.6
60代 (n=84)	21.4	56.0	7.1	4.8	0.0	3.6	7.1	

『前回調査(平成 19 年調査)との比較』

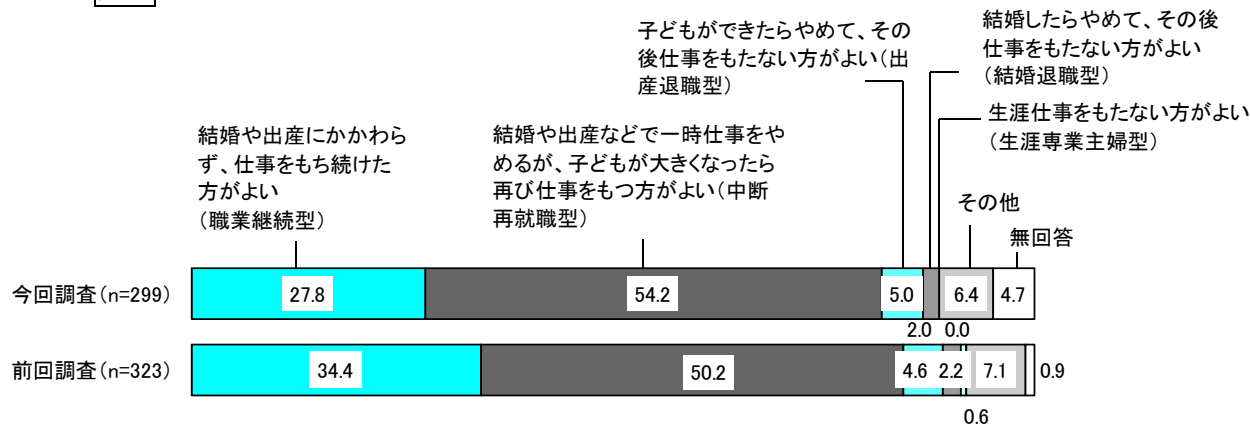
女性が仕事をもつことについての考えについて、今回調査と前回調査を比較すると、女性は前回調査を「職業継続型」が 1.4 ポイント上回り、「中断再就職型」が 6.3 ポイント下回っています。男性は前回調査を「職業継続型」が 6.6 ポイント下回り、「中断再就職型」が 4.0 ポイント上回っています。(図表 2-3-③)

図表 2-3-③ 女性が仕事をもつことについての考え (性別)
【前回比較】

女性



男性

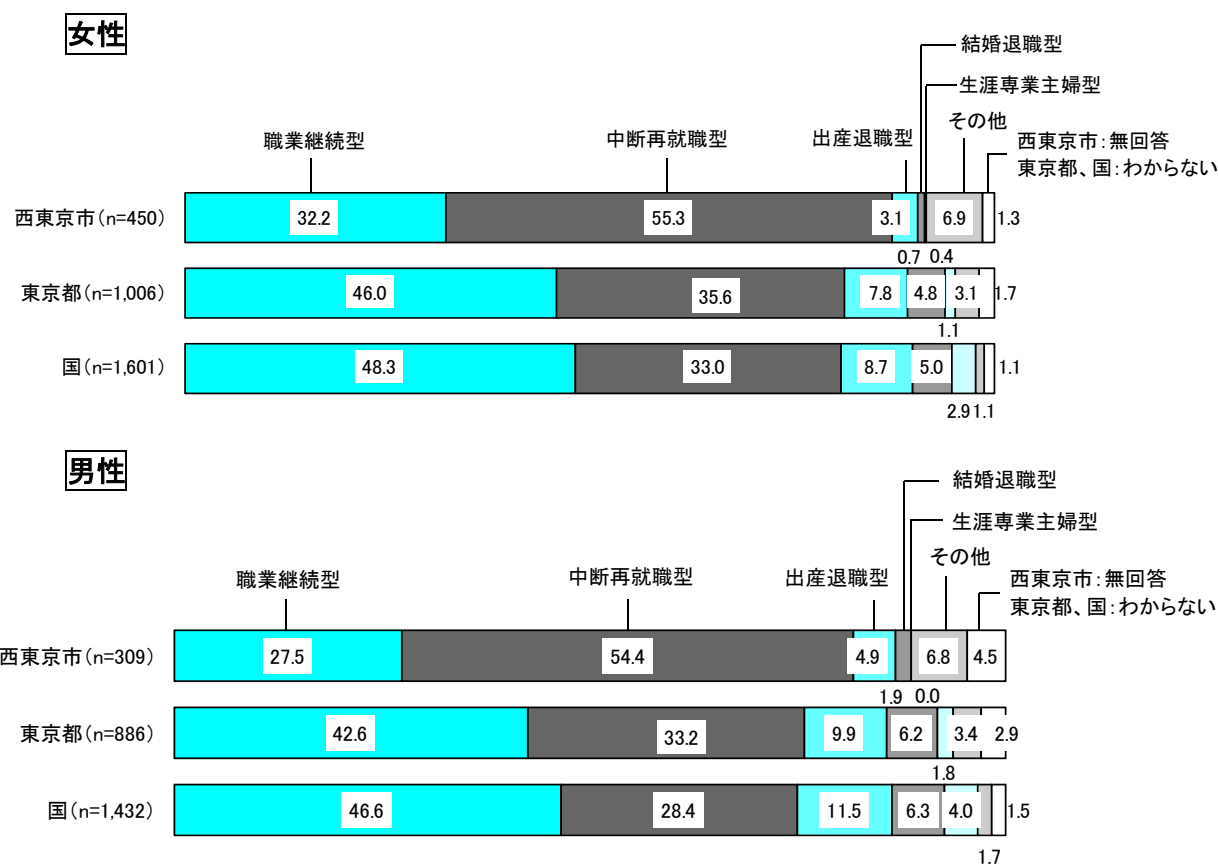


※前回調査は対象者の年齢が 20 歳以上 70 歳未満のため、今回調査も 20 歳以上 70 歳未満で再集計しています。

『東京都調査、国調査との比較』

女性が仕事をもつことについての考えについて、西東京市調査と東京都調査、国調査を比較すると、選択肢が異なるため、一概には言えませんが、西東京市は男女ともに「職業継続型」と「出産退職型」が東京都、国を下回り、「中断再就職型」が東京都、国を上回っています。
(図表 2-3-④)

図表 2-3-④ 女性が仕事をもつことについての考え（性別）
【東京都、国比較】



※東京都調査は「男女平等参画に関する調査(平成 23 年 1 月)」

※国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査(平成 24 年 10 月) 内閣府男女共同参画局」

※調査対象者の年齢は、西東京市では 18 歳から 70 歳未満、東京都、国では 20 歳以上です。

※東京都、国調査の選択肢は以下の通りであり、グラフに表記している文言とは以下のように対応しています。

東京都、国の選択肢の文言	本報告書のグラフの文言
東京都: 継続して職業をもつ方がよい 国: 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	職業継続型
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	中断再就職型
子どもができるまでは職業をもつ方がよい	出産退職型
結婚するまでは職業をもつ方がよい	結婚退職型
東京都: 職業をもたない方がよい 国: 女性は職業をもたない方がよい	生涯専業主婦型

3 日ごろの生活

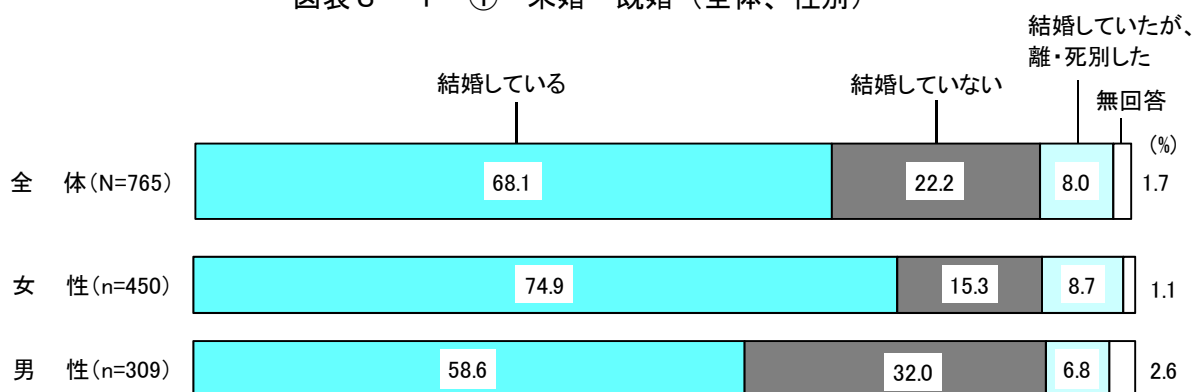
3-1 未婚・既婚

問9 あなたは結婚されていますか（結婚は事実婚も含みます）。（1つに〇）

全体では、「結婚している」が68.1%、「結婚していない」が22.2%、「結婚していたが、離・死別した」が8.0%となっています。

性別にみると、女性は「結婚している」が74.9%、男性は58.6%となっています。（図表3-1-①）

図表3-1-① 未婚・既婚（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の30代以上、男性の50代以上で「結婚している」が7割を超えており、とくに女性の40代、50代では8割を超えています。（図表3-1-②）

図表3-1-② 未婚・既婚（全体、性・年代別）

		結婚している (%)	結婚していない (%)	結婚していたが、離・死別した (%)	無回答 (%)	
全体 (N= 765)		68.1	22.2	8.0	1.7	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代 (n= 51)	45.1	54.9	0.0	0.0
		30代 (n= 97)	74.2	20.6	2.1	3.1
		40代 (n= 100)	83.0	6.0	9.0	2.0
		50代 (n= 84)	84.5	3.6	11.9	0.0
		60代 (n= 110)	77.3	6.4	16.4	0.0
	男性	10代 (n= 10)	0.0	100.0	0.0	0.0
		20代 (n= 37)	13.5	83.8	0.0	2.7
		30代 (n= 48)	50.0	45.8	0.0	4.2
		40代 (n= 59)	67.8	27.1	5.1	0.0
		50代 (n= 71)	74.6	11.3	11.3	2.8
		60代 (n= 84)	70.2	14.3	11.9	3.6

3-2 共働きの状況

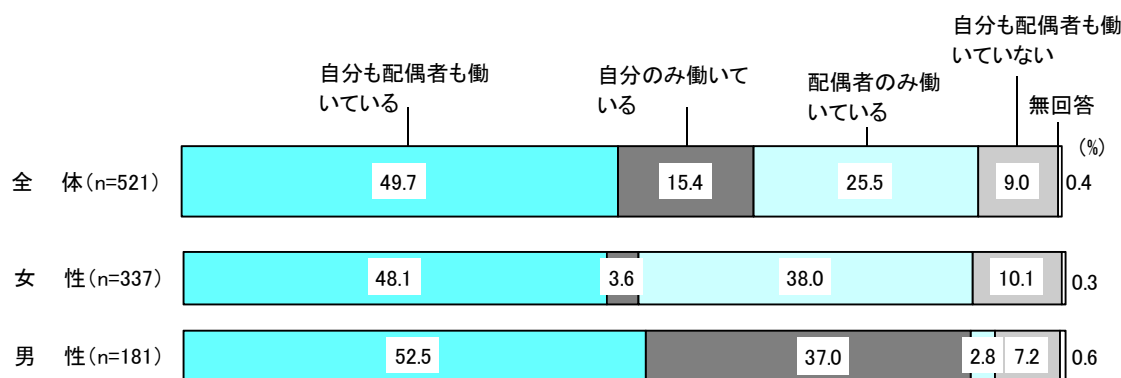
問9-1 問9で「1 結婚している」と答えた方におたずねします。
ご夫婦は共働きですか（パート等も含みます）。（1つに〇）

問9で、「結婚している」と回答した人に、夫婦の就労状況をたずねました。

全体では、「自分も配偶者も働いている」が49.7%、「自分のみ働いている」が15.4%、「配偶者のみ働いている」が25.5%、「自分も配偶者も働いていない」が9.0%となっています。

性別にみると、女性は「自分のみ働いている」が3.6%、「配偶者のみ働いている」が38.0%であるのに対し、男性は「自分のみ働いている」が37.0%、「配偶者のみ働いている」が2.8%となっています。（図表3-2-①）

図表3-2-① 共働きの状況（全体、性別）＜結婚している人＞



性・年代別にみると、女性は50代までは年代が上がるほど、「自分も配偶者も働いている」の割合が高くなり、「配偶者のみが働いている」の割合が低くなっています。男性では「自分も配偶者も働いている」の割合は、50代の69.8%で最も高くなっています。（図表3-2-②）

図表3-2-② 共働きの状況（全体、性・年代別）＜結婚している人＞

		自分も配偶者も働いている (%)	自分のみ働いている (%)	配偶者のみ働いている (%)	自分も配偶者も働いていない (%)	無回答 (%)
全体 (n= 521)		49.7	15.4	25.5	9.0	0.4
女性	10代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代 (n= 23)	30.4	0.0	69.6	0.0	0.0
	30代 (n= 72)	40.3	0.0	59.7	0.0	0.0
	40代 (n= 83)	63.9	1.2	33.7	1.2	0.0
	50代 (n= 71)	66.2	2.8	26.8	4.2	0.0
	60代 (n= 85)	29.4	10.6	23.5	35.3	1.2
男性	10代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代 (n= 5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	30代 (n= 24)	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0
	40代 (n= 40)	47.5	52.5	0.0	0.0	0.0
	50代 (n= 53)	69.8	28.3	1.9	0.0	0.0
	60代 (n= 59)	37.3	32.2	6.8	22.0	1.7

3-3 主に家事・育児・介護を担っている人

問10 あなたのご家庭では、次にあげるような家事・育児・介護等を主にどなたがしていますか。(1)から(9)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

家庭で行われている家事・育児・介護等の9項目について、主にだれが担当しているかたずねました。結婚の有無で大きく違いがあるため、性・未既婚別でみています。

既婚者では、女性は『家具・家電品などの修理』以外で「主に自分」が最も多くなっており、その割合は『掃除・洗濯』、『日用品の買い物』、『食事の支度』で8割を超えています。『家具・家電品などの修理』では、「主に自分(22.6%)」が2割台にとどまり、「主に配偶者(54.9%)」が5割を超えています。

男性は、『家具・家電品などの修理』以外で「主に配偶者」が最も多くなっており、その割合は『食事の支度』で8割を超えています。『家具・家電品などの修理』では、「主に自分(70.2%)」が約7割となっています。なお、『高額商品の購入・預貯金の管理』では、「主に自分(39.2%)」と「主に配偶者(40.3%)」がどちらも約4割となっています。(図表3-3-①)

図表3-3-① 主に家事・育児・介護を担っている人(既婚者、性別)

既婚・女性(n=337)

(%)

	主に自分	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で分担	その他の人	無回答
掃除・洗濯	81.9	2.1	0.9	0.0	0.0	0.0	11.6	0.0	3.6
日用品の買い物	83.4	2.4	1.2	0.0	0.0	0.0	10.4	0.0	2.7
食事の支度	86.4	2.7	0.9	0.0	0.3	0.0	6.5	0.0	3.3
食事の後かたづけ、食器洗い	76.6	5.6	1.2	0.0	0.3	0.0	13.1	0.0	3.3
子どもの世話やしつけ	64.7	1.2	0.9	0.0	0.0	0.3	14.8	0.9	17.2
日常の家計管理	73.6	14.2	0.6	0.6	0.0	0.0	7.7	0.0	3.3
家具・家電品などの修理	22.6	54.9	0.3	0.9	0.0	0.9	10.4	5.9	4.2
高齢者や病人の世話	44.5	2.4	2.7	0.0	0.0	0.0	16.3	5.6	28.5
高額商品の購入・預貯金の管理	45.1	28.8	0.3	0.6	0.0	0.0	20.5	0.3	4.5

既婚・男性(n=181)

(%)

	主に自分	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で分担	その他の人	無回答
掃除・洗濯	5.0	70.7	1.7	0.6	0.0	0.0	19.3	0.6	2.2
日用品の買い物	5.5	67.4	1.1	0.6	0.0	0.0	22.7	0.6	2.2
食事の支度	4.4	82.3	1.7	0.6	0.0	0.0	8.8	0.0	2.2
食事の後かたづけ、食器洗い	7.2	64.6	1.1	1.1	0.6	0.0	22.1	0.0	3.3
子どもの世話やしつけ	2.8	49.7	2.2	0.6	0.0	0.0	22.1	1.1	21.5
日常の家計管理	18.2	64.6	2.2	1.1	0.0	0.0	9.4	0.0	4.4
家具・家電品などの修理	70.2	12.2	0.0	2.8	0.0	0.6	5.5	5.5	3.3
高齢者や病人の世話	3.3	33.7	2.2	0.0	0.0	0.0	21.5	9.4	29.8
高額商品の購入・預貯金の管理	39.2	40.3	0.6	0.6	0.0	0.0	16.0	0.0	3.3

※項目ごとに最も高い割合の選択肢に網かけをしています。

Ⅲ 調査結果

未婚者では、女性は『家具・家電品などの修理』以外で「主に母親」が最も多くなっており、その割合は『食事の支度』、『日常の家計管理』で5割を超えています。『家具・家電品などの修理』では、「主に自分（30.4%）」が最も多く、「主に父親（23.2%）」が続いています。

男性は、『家具・家電品などの修理』、『高額商品の購入・預貯金の管理』以外の項目では「主に母親」が最も多くなっており、その割合は『掃除・洗濯』、『食事の支度』で5割を超えています。『高額商品の購入・預貯金の管理』では、「主に自分（26.3%）」、「主に母親（25.3%）」、「主に父親（23.2%）」はいずれも2割台となっています。（図表3-3-②）

図表3-3-② 主に家事・育児・介護を担っている人（未婚者、性別）

未婚・女性(n=69)

(%)

	主に自分	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で分担	その他の人	無回答
掃除・洗濯	33.3	0.0	44.9	0.0	0.0	0.0	10.1	0.0	11.6
日常品の買い物	30.4	0.0	47.8	1.4	0.0	0.0	8.7	0.0	11.6
食事の支度	26.1	0.0	53.6	1.4	0.0	0.0	5.8	1.4	11.6
食事の後かたづけ、食器洗い	29.0	0.0	42.0	1.4	0.0	0.0	13.0	2.9	11.6
子どもの世話やしつけ	2.9	0.0	30.4	0.0	0.0	0.0	5.8	2.9	58.0
日常の家計管理	31.9	0.0	52.2	2.9	0.0	0.0	1.4	0.0	11.6
家具・家電品などの修理	30.4	0.0	13.0	23.2	1.4	0.0	8.7	8.7	14.5
高齢者や病人の世話	7.2	0.0	24.6	2.9	0.0	0.0	8.7	5.8	50.7
高額商品の購入・預貯金の管理	26.1	0.0	33.3	15.9	0.0	0.0	10.1	0.0	14.5

未婚・男性(n=99)

(%)

	主に自分	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で分担	その他の人	無回答
掃除・洗濯	24.2	0.0	54.5	0.0	0.0	0.0	8.1	2.0	11.1
日常品の買い物	23.2	1.0	48.5	2.0	0.0	0.0	12.1	2.0	11.1
食事の支度	22.2	1.0	57.6	1.0	0.0	0.0	4.0	3.0	11.1
食事の後かたづけ、食器洗い	26.3	0.0	46.5	2.0	0.0	0.0	13.1	1.0	11.1
子どもの世話やしつけ	10.1	0.0	38.4	1.0	0.0	0.0	9.1	6.1	35.4
日常の家計管理	24.2	1.0	45.5	11.1	0.0	0.0	3.0	2.0	13.1
家具・家電品などの修理	37.4	1.0	4.0	27.3	0.0	0.0	10.1	4.0	16.2
高齢者や病人の世話	10.1	0.0	29.3	2.0	0.0	0.0	14.1	12.1	32.3
高額商品の購入・預貯金の管理	26.3	1.0	25.3	23.2	0.0	0.0	6.1	2.0	16.2

※項目ごとに最も高い割合の選択肢に網かけをしています。

4 仕事

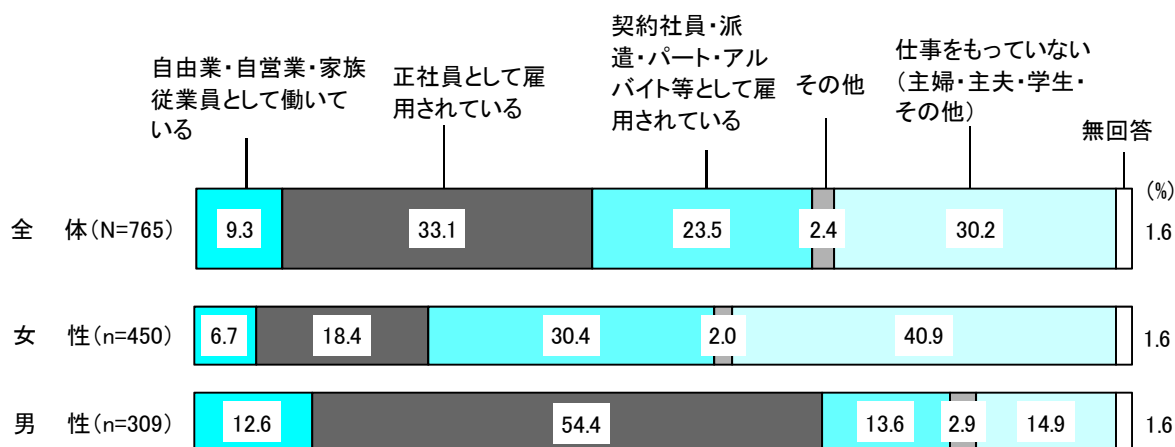
4-1 収入を伴う仕事の有無

問11 あなたは、今、収入を伴う仕事をしていますか。
出産や育児・介護のために休んでいる場合（育児・介護休業）は働いていると考えてください。
（ただし、学生でアルバイトをしている場合は5です）（1つに〇）

全体では、収入のある仕事をしている人は「正社員として雇用されている」が33.1%で最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が23.5%で続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」は30.2%です。

性別にみると収入のある仕事をしている人は、女性は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている（30.4%）」が最も多く、「正社員として雇用されている（18.4%）」が続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」は40.9%です。男性は、「正社員として雇用されている」が54.4%で最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が13.6%で続いています。「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」は14.9%です。（図表4-1-①）

図表4-1-① 収入を伴う仕事の有無（全体、性別）



性・年代別にみると、収入のある仕事をしている人は、女性は20代から50代まで年代が上がるにしたがって「正社員として雇用されている」割合が低くなり、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」割合が高くなります。また、50代まで年代が上がるほど「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」の割合が低くなり、50代は「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）（27.4%）」が2割台となっています。

男性は、20代から50代まで「正社員として雇用されている」が最も多くなっていますが、20代は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている」が18.9%と多くなっています。

（図表4-1-②）

図表4-1-② 収入を伴う仕事の有無（全体、性・年代別）

		(%)						
		員自	る正	れア契	そ	婦仕	無	
		と由	社社	てル約	他	・事	回	
		とし	員と	いてバ		主を	答	
		働い	して	イト・		もっ		
		てい	雇	等と		てい		
		る	用	し・		ない		
		る	さ	パ		い		
		る	れ	ー		（主		
		る	い	ト		他）		
		る	い	さ				
		る	い	さ				
全	体 (N= 765)	9.3	33.1	23.5	2.4	30.2	1.6	
性・年代別	女	10代 (n= 5)	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	35.3	17.6	0.0	47.1	0.0
		30代 (n= 97)	4.1	27.8	22.7	0.0	44.3	1.0
		40代 (n= 100)	12.0	24.0	32.0	1.0	30.0	1.0
		50代 (n= 84)	6.0	13.1	47.6	3.6	27.4	2.4
		60代 (n= 110)	8.2	2.7	29.1	4.5	52.7	2.7
	男	10代 (n= 10)	0.0	0.0	30.0	0.0	70.0	0.0
		20代 (n= 37)	2.7	51.4	18.9	0.0	27.0	0.0
		30代 (n= 48)	10.4	77.1	8.3	2.1	0.0	2.1
		40代 (n= 59)	15.3	71.2	8.5	1.7	1.7	1.7
		50代 (n= 71)	15.5	76.1	1.4	1.4	4.2	1.4
		60代 (n= 84)	15.5	19.0	26.2	7.1	29.8	2.4

4-2 以前の仕事の経験

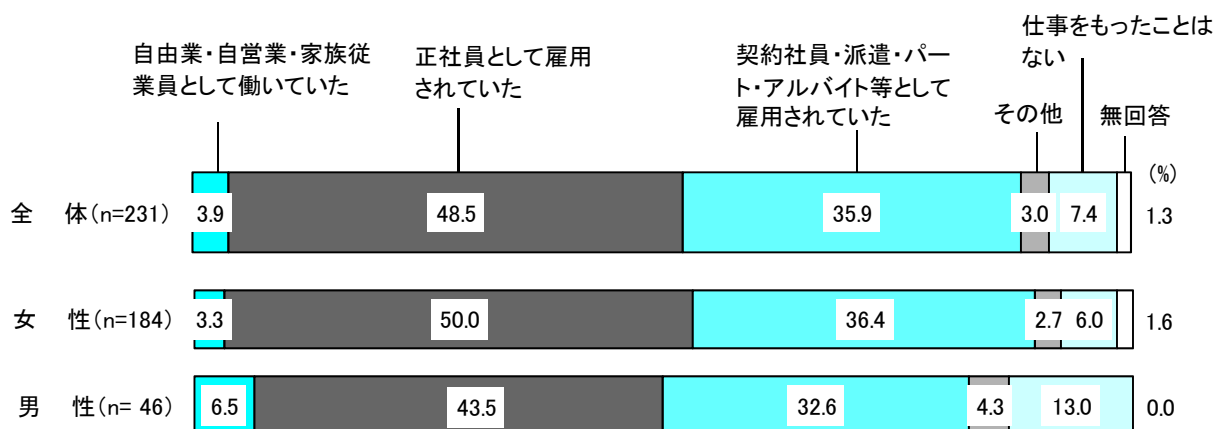
問 11-1 問 11 で「5 仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」と答えた方におたずねします。あなたは、以前どのような働き方をされていましたか。複数の働き方をされた場合は、直近の働き方をお選びください。（1つに〇）

問 11 で、「仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」と回答した人に、以前の働き方をたずねました。

全体では、91.3%の人が何らかの仕事の経験をしており、直近の働き方では「正社員として雇用されていた」が48.5%で最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されていた」が35.9%で続いています。

性別にみると、男女ともに「正社員として雇用されていた（女性：50.0%、男性：43.5%）」が最も多く、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されていた（女性：36.4%、男性：32.6%）」が続いています。（図表4-2-①）

図表4-2-① 以前の仕事の経験（全体、性別）＜仕事をもっていない人＞



性・年代別にみると、女性の30代、40代、60代は「正社員として雇用されていた」が最も多くなっていますが、20代、50代は「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されていた」が最も多くなっています。(図表4-2-②)

図表4-2-② 以前の仕事の経験(全体、性・年代別) <仕事をもっていない人>

			(%)					
			自由業・自営業・家族従業員として働いていた	正社員として雇用されていた	アルバイト・派遣として雇用された	その他	仕事をもったことはない	無回答
全体 (n=231)			3.9	48.5	35.9	3.0	7.4	1.3
性・年代別	女性	10代 (n= 4)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 24)	0.0	41.7	45.8	0.0	12.5	0.0
		30代 (n= 43)	2.3	60.5	34.9	0.0	2.3	0.0
		40代 (n= 30)	3.3	50.0	43.3	0.0	0.0	3.3
		50代 (n= 23)	8.7	39.1	47.8	0.0	0.0	4.3
		60代 (n= 58)	3.4	53.4	27.6	8.6	5.2	1.7
	男性	10代 (n= 7)	0.0	0.0	71.4	0.0	28.6	0.0
		20代 (n= 10)	0.0	10.0	50.0	0.0	40.0	0.0
		30代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		40代 (n= 1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		50代 (n= 3)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
		60代 (n= 25)	12.0	68.0	12.0	8.0	0.0	0.0

4-3 現在仕事をしていない理由

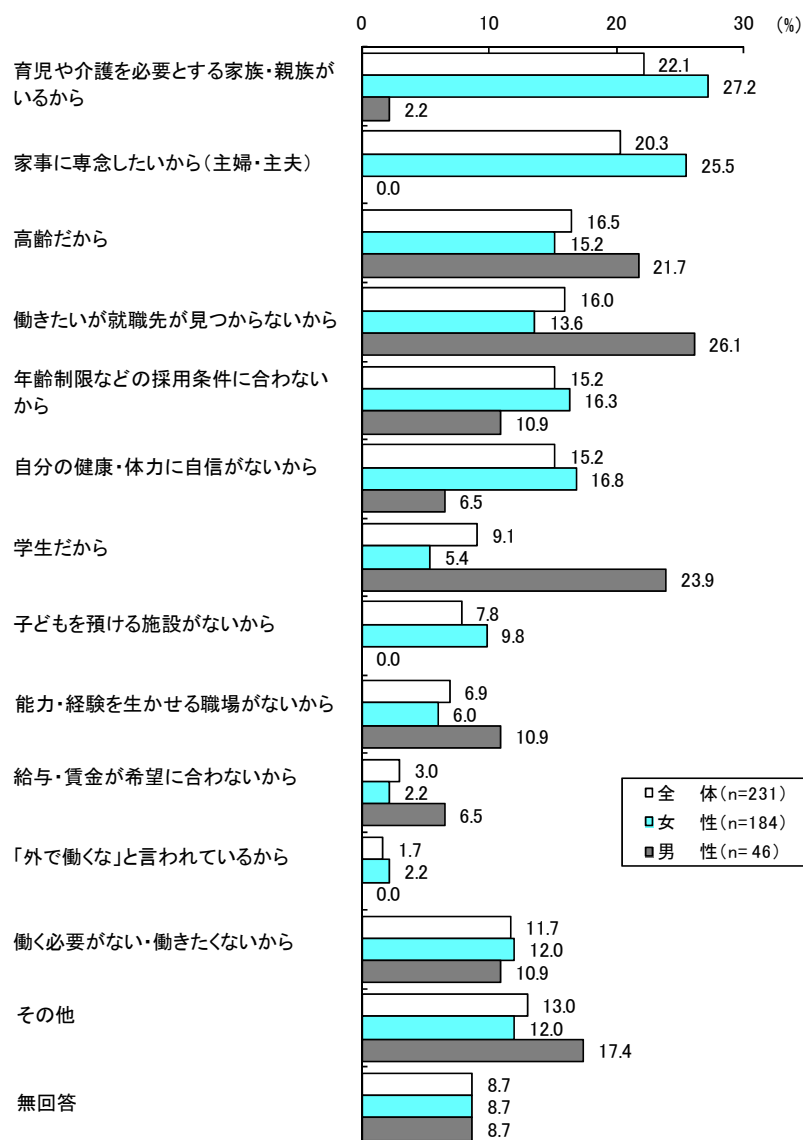
問11-2 問11で「5 仕事をもっていない(主婦・主夫・学生・その他)」と答えた方におたずねします。あなたが現在仕事をしていないのは、どのような理由からですか。(いくつでも〇)

問11で、「仕事をもっていない(主婦・主夫・学生・その他)」と回答した人に、現在仕事をしていない理由をたずねました。

全体では、「育児や介護を必要とする家族・親族がいるから(22.1%)」が最も多く、「家事に専念したいから(主婦・主夫)(20.3%)」、「高齢だから(16.5%)」が続いています。

性別にみると、女性の上位2位は全体と同じですが、3位に「自分の健康・体力に自信がないから(16.8%)」があげられ、僅差で「年齢制限などの採用条件に合わないから(16.3%)」が続いています。男性は、「働きたいが就職先が見つからないから(26.1%)」が最も多く、「学生だから(23.9%)」、「高齢だから(21.7%)」が続いています。(図表4-3-①)

図表4-3-① 現在仕事をしていない理由(全体、性別：複数回答) <仕事をもっていない人>



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性の20代と40代は「家事に専念したいから(主婦・主夫)(20代:33.3%、40代:40.0%)」、30代は「育児や介護を必要とする家族・親族がいるから(58.1%)」、50代は「自分の健康・体力に自信がないから(52.2%)」、60代は「高齢だから(48.3%)」が最も多くなっています。(図表4-3-②)

図表4-3-② 現在仕事をしていない理由(全体、性・年代別:複数回答)
 <仕事をもっていない人>

		族・親 育・親 見や介 護を必 要とす る家	婦家事 ・主夫 に専念 したい から(主	高 齢だ から	働 きたい が就 職先 が見 つか	年 齢制 限な どの 採用 条件 に	自 分の 健康 ・体 力に 自信 が	働 く必 要が ない ・働 きたく	学 生だ から	子 ども を預 ける 施設 がな い	能 力・経 験を 生か せる 職場	給 与・賃 金が 希望 に合 わな	「外 で働 くな 」と 言わ れて	そ の他	無 回 答	
全 体 (n=231)		22.1	20.3	16.5	16.0	15.2	15.2	11.7	9.1	7.8	6.9	3.0	1.7	13.0	8.7	
性 ・ 年 代 別	女															
	10代 (n= 4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代 (n= 24)	16.7	33.3	0.0	20.8	0.0	8.3	8.3	20.8	8.3	8.3	4.2	0.0	25.0	4.2	
	30代 (n= 43)	58.1	25.6	0.0	18.6	11.6	2.3	9.3	2.3	27.9	4.7	0.0	2.3	9.3	4.7	
	40代 (n= 30)	36.7	40.0	0.0	16.7	20.0	20.0	13.3	0.0	10.0	13.3	10.0	6.7	20.0	0.0	
	50代 (n= 23)	17.4	39.1	0.0	13.0	21.7	52.2	21.7	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3	4.3	8.7	
60代 (n= 58)	8.6	10.3	48.3	6.9	22.4	17.2	12.1	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	8.6	19.0		
男																
10代 (n= 7)	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	
20代 (n= 10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0	
30代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
40代 (n= 1)	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
50代 (n= 3)	0.0	0.0	33.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	
60代 (n= 25)	4.0	0.0	32.0	28.0	20.0	12.0	20.0	0.0	0.0	0.0	8.0	4.0	0.0	8.0	8.0	

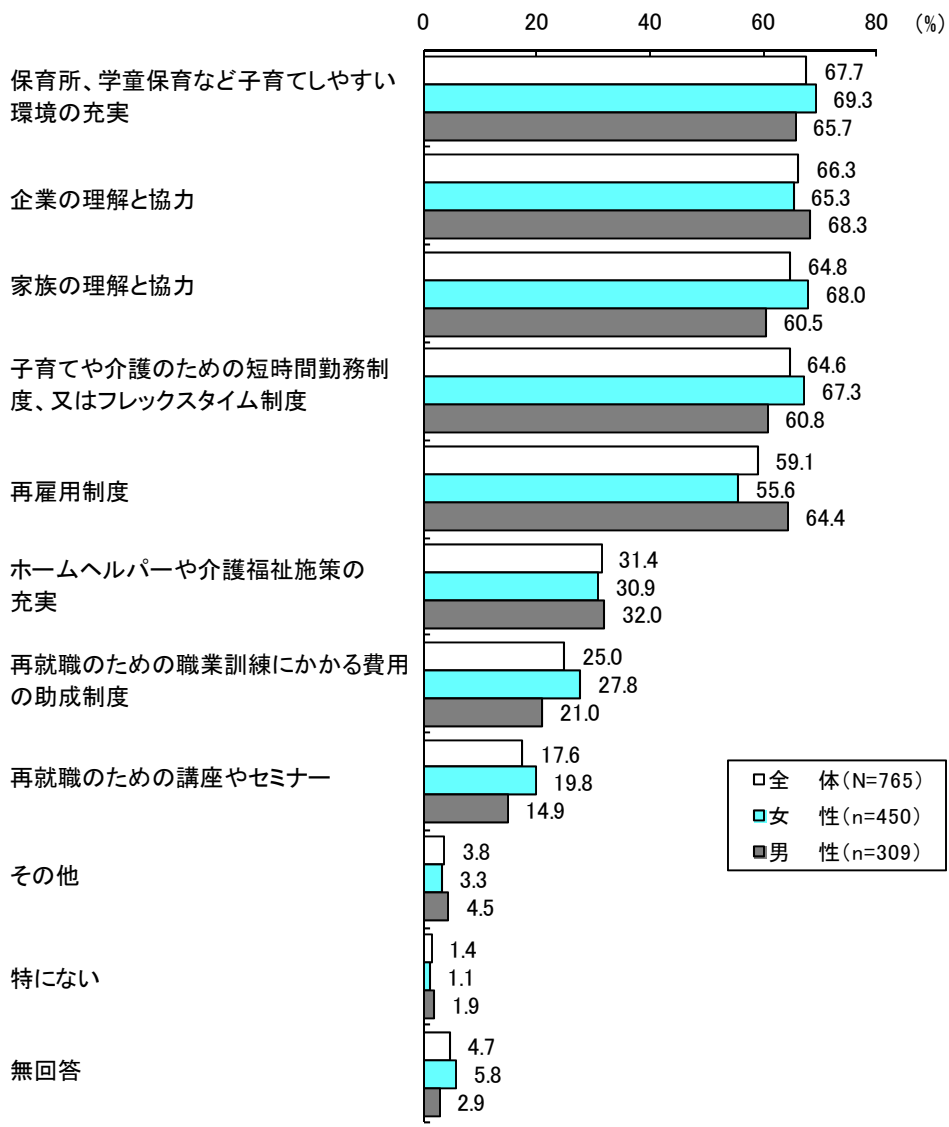
4-4 女性が再就職を希望する際に役に立つもの

問12 子育て、介護、家事などのために一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、役立つものは何だと思えますか。(いくつでも○)

全体では、「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(67.7%)」が最も多く、「企業の理解と協力(66.3%)」、「家族の理解と協力(64.8%)」、「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(64.6%)」が続いています。

性別にみると、女性は、「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(69.3%)」が最も多く、「家族の理解と協力(68.0%)」、「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(67.3%)」、「企業の理解と協力(65.3%)」が続いています。男性は「企業の理解と協力(68.3%)」が最も多く、「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(65.7%)」、「再雇用制度(64.4%)」が続いています。(図表4-4-①)

図表4-4-① 女性が再就職を希望する際に役に立つもの(全体、性別：複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性の20代は「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(80.4%)」、「企業の理解と協力(82.4%)」、「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(86.3%)」が8割を超え、30代も「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(81.4%)」が8割を超えて多くなっています。40代は「家族の理解と協力(76.0%)」が7割を超え、50代は「ホームヘルパーや介護福祉施策の充実(46.4%)」が4割を超えています。

男性は、20代と40代は「子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(20代:70.3%、40代:74.6%)」が7割を超え、30代は「保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実(81.3%)」が8割を超えて多くなっています。また、40代、50代は「再雇用制度(40代:72.9%、50代:70.4%)」が7割を超えて多くなっています。(図表4-4-②)

図表4-4-② 女性が再就職を希望する際に役に立つもの(全体、性・年代別:複数回答)

		て保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実	企業の理解と協力	家族の理解と協力	間子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度	再雇用制度	ホームヘルパーや介護福祉施策の充実	か再就職のための助成職業訓練に	ナ再就職のための講座やセミナー	その他	特にない	無回答	
全 体 (N=765)		67.7	66.3	64.8	64.6	59.1	31.4	25.0	17.6	3.8	1.4	4.7	
性・年代別	女	10代 (n= 5)	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0
		20代 (n= 51)	80.4	82.4	68.6	86.3	68.6	25.5	39.2	19.6	3.9	0.0	2.0
		30代 (n= 97)	79.4	71.1	66.0	81.4	47.4	24.7	29.9	19.6	7.2	1.0	3.1
		40代 (n=100)	71.0	65.0	76.0	69.0	53.0	30.0	25.0	20.0	2.0	1.0	2.0
		50代 (n= 84)	65.5	65.5	65.5	61.9	51.2	46.4	31.0	23.8	3.6	0.0	9.5
		60代 (n=110)	58.2	54.5	66.4	50.0	62.7	28.2	22.7	17.3	0.9	1.8	8.2
	男	10代 (n= 10)	50.0	70.0	40.0	40.0	70.0	20.0	20.0	10.0	10.0	0.0	10.0
		20代 (n= 37)	59.5	67.6	59.5	70.3	48.6	24.3	21.6	16.2	2.7	0.0	2.7
		30代 (n= 48)	81.3	77.1	62.5	62.5	68.8	27.1	22.9	12.5	10.4	2.1	0.0
		40代 (n= 59)	69.5	69.5	64.4	74.6	72.9	42.4	25.4	23.7	5.1	3.4	1.7
		50代 (n= 71)	67.6	73.2	69.0	67.6	70.4	39.4	18.3	15.5	2.8	0.0	1.4
		60代 (n= 84)	57.1	58.3	52.4	42.9	57.1	26.2	19.0	9.5	2.4	3.6	6.0

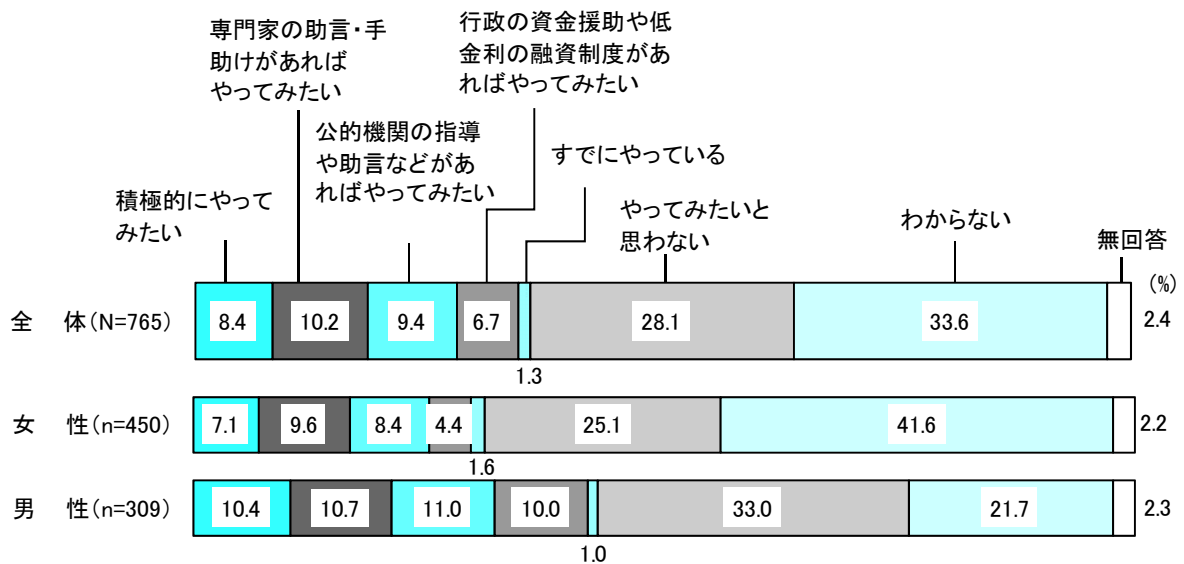
4-5 新しい仕事づくり（コミュニティビジネス等）への意向

問 13 近年、コミュニティビジネスのような新しい仕事のかたちで働く人が見かけられるようになってきました。
あなたは、身近な地域の中で「新しい仕事づくり（コミュニティビジネスなどの活動）」をやってみたいと思いますか。（1つに○）

全体では、「積極的にやってみたい」が 8.4%となっており、「専門家の助言・手助けがあればやってみたい」が 10.2%、「公的機関の指導や助言などあればやってみたい」が 9.4%、「行政の資金援助や低金利の融資制度があればやってみたい」が 6.7%となっており、この4つを合計した《やってみたい》は 34.7%となっています。「すでにやっている」は 1.3%です。

性別にみると、《やってみたい》は、女性は 29.5%、男性は 42.1%で、男性が女性を 12.6 ポイント上回っています。（図表 4-5-①）

図表 4-5-① 新しい仕事づくり（コミュニティビジネス等）への意向（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の20代は「専門家の助言・手助けがあればやってみたい」が17.6%、30代は「公的機関の指導や助言などあればやってみたい」が16.5%と多くなっています。男性の30代、40代は《やってみたい(30代:48.0%、40代:49.2%)》が5割弱で多くなっています。また男性の30代は「行政の資金援助や低金利の融資制度があればやってみたい」が20.8%と多くなっています。

地域別にみると、北東部地域は「積極的にやってみたい」が12.3%で1割を超えて多くなっています。中部地域は《やってみたい(40.6%)》が4割を超えて多くなっています。(図表4-5-②)

図表4-5-② 新しい仕事づくり(コミュニティビジネス等)への意向
(全体、性・年代別、地域別)

			積極的にやってみたい	専門家の助言・手助けがあればやってみたい	公的機関の指導や助言などあればやってみたい	行政の資金援助や低金利の融資制度があればやってみたい	すでにやっている	やってみたいと思わない	わからない	無回答
全 体 (N=765)			8.4	10.2	9.4	6.7	1.3	28.1	33.6	2.4
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
		20 代 (n= 51)	9.8	17.6	2.0	3.9	0.0	27.5	39.2	0.0
		30 代 (n= 97)	8.2	8.2	16.5	3.1	0.0	17.5	44.3	2.1
		40 代 (n=100)	7.0	6.0	8.0	7.0	1.0	23.0	46.0	2.0
		50 代 (n= 84)	7.1	11.9	7.1	7.1	3.6	22.6	38.1	2.4
		60 代 (n=110)	5.5	9.1	4.5	0.9	2.7	35.5	38.2	3.6
	男 性	10 代 (n= 10)	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 37)	8.1	16.2	8.1	0.0	0.0	29.7	37.8	0.0
		30 代 (n= 48)	14.6	6.3	6.3	20.8	0.0	37.5	12.5	2.1
		40 代 (n= 59)	10.2	16.9	10.2	11.9	0.0	33.9	16.9	0.0
		50 代 (n= 71)	8.5	7.0	12.7	11.3	1.4	23.9	29.6	5.6
		60 代 (n= 84)	10.7	8.3	14.3	7.1	2.4	38.1	16.7	2.4
地域別	北 東 部 地 域 (n= 54)	12.3	6.2	11.1	3.7	1.2	29.6	34.6	1.2	
	中 部 地 域 (n= 74)	9.3	14.8	11.0	5.5	1.1	23.6	32.4	2.2	
	西 部 地 域 (n= 70)	5.1	8.9	9.3	9.3	2.3	31.8	31.3	1.9	
	南 部 地 域 (n= 65)	8.0	10.0	7.0	7.5	0.5	28.0	35.5	3.5	

4-6 新しい仕事づくりをしてみたい理由

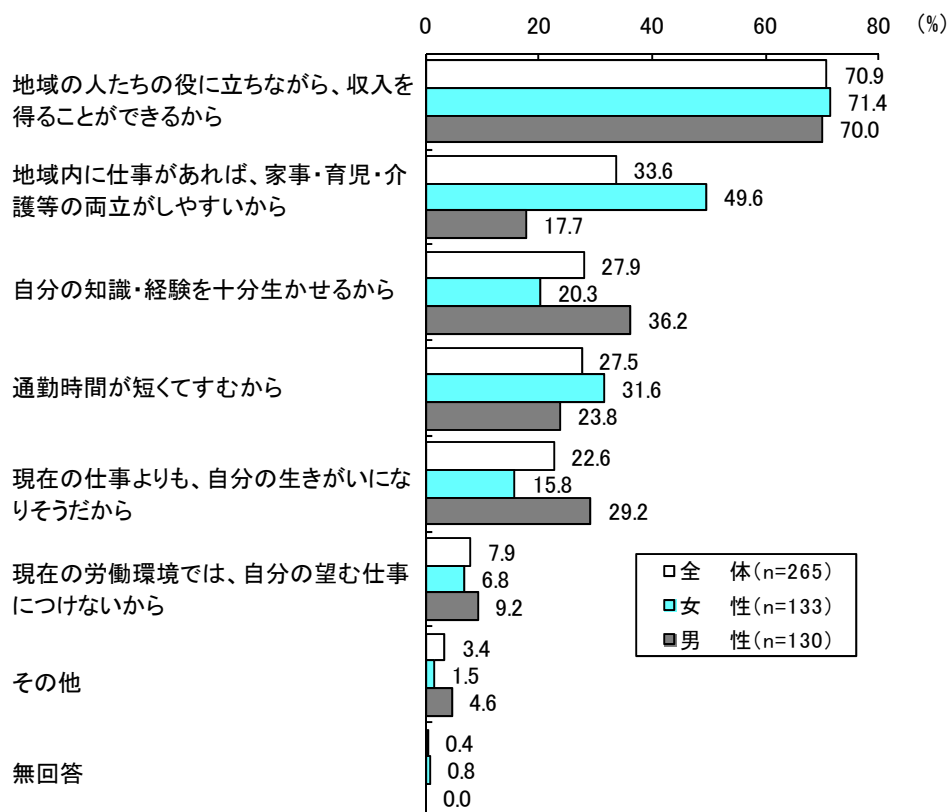
問 13-1 問 13 で「1」「2」「3」「4」と答えた方におたずねします。
あなたが「新しい仕事づくり」をしてみたい理由は何ですか。(いくつでも○)

問 13 で、「やってみたい」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「地域の人たちの役に立ちながら、収入を得ることができるから(70.9%)」が最も多く、「地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから(33.6%)」、「自分の知識・経験を十分生かせるから(27.9%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「地域の人たちの役に立ちながら、収入を得ることができるから(女性：71.4%、男性：70.0%)」が7割を超えて最も多く、続いて女性は「地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから(49.6%)」、男性は「自分の知識・経験を十分生かせるから(36.2%)」となっています。(図表4-6-①)

図表4-6-① 新しい仕事づくりをしてみたい理由(全体、性別：複数回答)
＜新しい仕事づくりをしてみたい人＞



性・年代別にみると、女性の30代は「地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから（85.7%）」が8割を超えて多くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も「地域の人たちの役に立ちながら、収入を得ることができるから」が最も多くなっています。北東部地域と西部地域は「地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから（北東部地域：42.6%、西部地域：41.4%）」が4割を超えて多くなっています。（図表4-6-②）

図表4-6-② 新しい仕事づくりをしてみたい理由（全体、性・年代別、地域別：複数回答）
 <新しい仕事づくりをしてみたい人>

			収入を 得ること ができる から	地域内 に仕事 があれば、 家事・ 育児・ 介護等 の両立 がしや すい・	自分 の知識 ・経験 を十分 生かせ	通勤 時間 が短 くて すむ から	現在 に なり そう だか ら	現在 の 労働 環境 では、 自分 の望 む	その他	無 回 答
全 体 (n=265)			70.9	33.6	27.9	27.5	22.6	7.9	3.4	0.4
性・年代別	女 性	10 代 (n= 3)	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
		20 代 (n= 17)	70.6	47.1	5.9	52.9	5.9	0.0	5.9	0.0
		30 代 (n= 35)	51.4	85.7	22.9	40.0	22.9	5.7	2.9	0.0
		40 代 (n= 28)	75.0	46.4	21.4	21.4	10.7	21.4	0.0	3.6
		50 代 (n= 28)	78.6	32.1	10.7	25.0	28.6	0.0	0.0	0.0
		60 代 (n= 22)	86.4	27.3	40.9	22.7	4.5	0.0	0.0	0.0
	男 性	10 代 (n= 4)	50.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 12)	75.0	16.7	16.7	50.0	33.3	8.3	0.0	0.0
		30 代 (n= 23)	73.9	26.1	30.4	17.4	39.1	8.7	0.0	0.0
		40 代 (n= 29)	62.1	13.8	27.6	17.2	24.1	6.9	10.3	0.0
		50 代 (n= 28)	82.1	25.0	39.3	17.9	28.6	7.1	3.6	0.0
		60 代 (n= 34)	64.7	8.8	55.9	29.4	23.5	14.7	5.9	0.0
地域別	北 東 部 地 域 (n= 54)	66.7	42.6	18.5	31.5	24.1	7.4	5.6	0.0	
	中 部 地 域 (n= 74)	73.0	29.7	29.7	27.0	16.2	9.5	1.4	0.0	
	西 部 地 域 (n= 70)	70.0	41.4	31.4	31.4	22.9	11.4	4.3	0.0	
	南 部 地 域 (n= 65)	72.3	23.1	30.8	21.5	27.7	3.1	1.5	1.5	

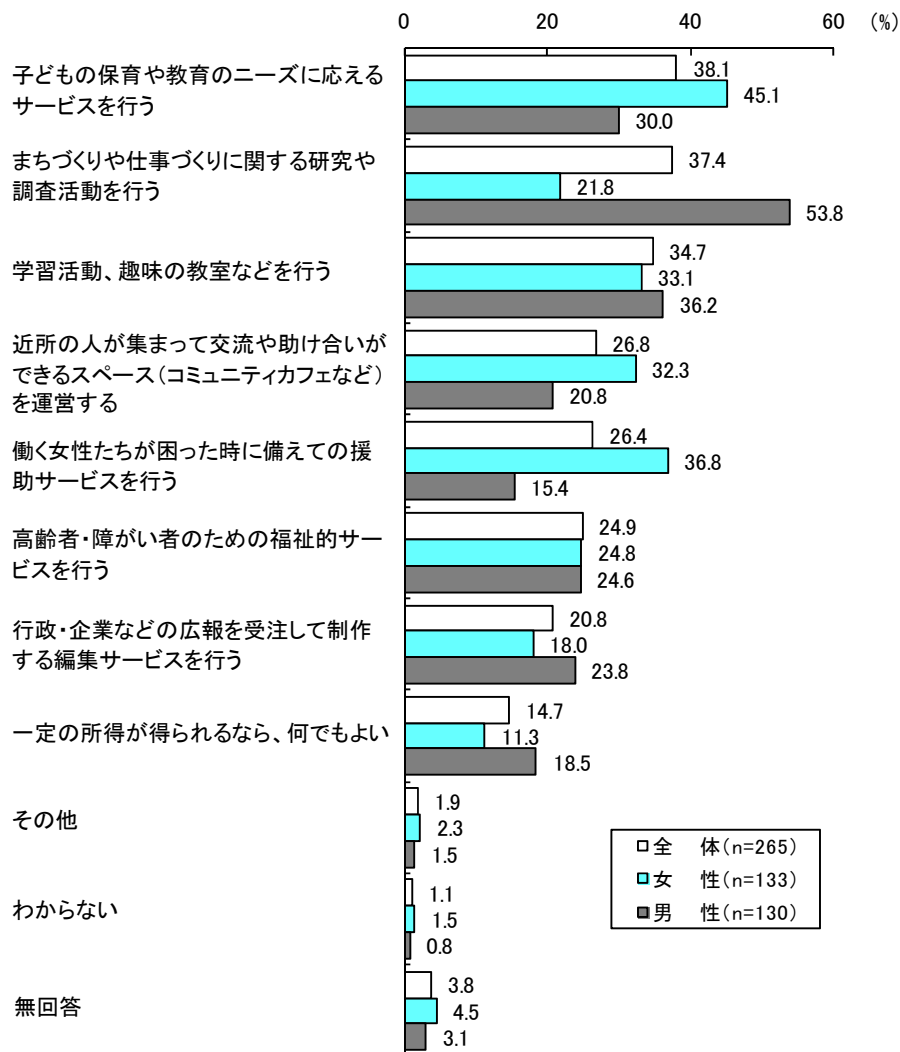
4-7 新しい仕事づくりでしてみたいこと

問 13-2 問 13 で「1」「2」「3」「4」と答えた方におたずねします。
もし、あなたが「新しい仕事づくり」を行うとしたら、どのようなことをしてみたいと思いますか。(いくつでも〇)

問 13 で、「やってみたい」と回答した人に、どのようなことをやってみたいかをたずねました。全体では、「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う(38.1%)」が最も多く、「まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う(37.4%)」、「学習活動、趣味の教室などを行う(34.7%)」が続いています。

性別にみると、女性は「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う(45.1%)」が最も多く、「働く女性たちが困った時に備えての援助サービスを行う(36.8%)」、「学習活動、趣味の教室などを行う(33.1%)」が続いています。男性は「まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う(53.8%)」が最も多く、「学習活動、趣味の教室などを行う(36.2%)」、「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う(30.0%)」が続いています。(図表 4-7-①)

図表 4-7-① 新しい仕事づくりでしてみたいこと (全体、性別：複数回答)
＜新しい仕事づくりをしてみたい人＞



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性の20代、30代は「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う（20代：70.6%、30代：60.0%）」が6割を超えて多くなっています。男性の30代、40代は「まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う（30代：60.9%、40代：69.0%）」が6割を超えて多くなっており、また30代は「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う（60.9%）」も6割を超えて多くなっています。

地域別にみると、北東部地域は「まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う（53.7%）」、中部地域は「近所の人が集まって交流や助け合いができるスペース（コミュニティカフェ）を運営する（32.4%）」、西部地域は「子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う（44.3%）」、「一定の所得が得られるなら、何でもよい（22.9%）」が他の地域に比べて多くなっています。（図表4-7-②）

図表4-7-② 新しい仕事づくりでしてみたいこと（全体、性・年代別、地域別：複数回答）
 <新しい仕事づくりをしてみたい人>

		子どもの保育や教育のニーズに応える	まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う	学習活動、趣味の教室などを行う	近所の人が集まって交流や助け合いができるスペース（コミュニティカフェなど）を運営する	働く女性たちが困った時に備えての援助サービスを行う	高齢者・障がい者のための福祉的サービスを行う	行政・企業などの広報を受注して制作する	一定の所得が得られるなら、何でもよい	その他	わからない	無回答	
全 体 (n=265)		38.1	37.4	34.7	26.8	26.4	24.9	20.8	14.7	1.9	1.1	3.8	
性・年代別	女 性	10 代 (n= 3)	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
		20 代 (n= 17)	70.6	29.4	29.4	35.3	29.4	23.5	35.3	23.5	0.0	0.0	0.0
		30 代 (n= 35)	60.0	22.9	28.6	34.3	45.7	17.1	20.0	11.4	2.9	2.9	8.6
		40 代 (n= 28)	35.7	21.4	50.0	28.6	32.1	14.3	14.3	17.9	0.0	0.0	7.1
		50 代 (n= 28)	35.7	10.7	35.7	28.6	28.6	25.0	14.3	3.6	3.6	3.6	3.6
		60 代 (n= 22)	27.3	27.3	18.2	40.9	45.5	50.0	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0
	男 性	10 代 (n= 4)	50.0	0.0	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 12)	33.3	41.7	50.0	25.0	33.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		30 代 (n= 23)	60.9	60.9	30.4	21.7	26.1	43.5	26.1	13.0	0.0	0.0	0.0
		40 代 (n= 29)	31.0	69.0	24.1	13.8	13.8	24.1	20.7	20.7	3.4	0.0	6.9
		50 代 (n= 28)	25.0	50.0	39.3	21.4	14.3	17.9	32.1	21.4	3.6	0.0	0.0
		60 代 (n= 34)	8.8	50.0	38.2	20.6	2.9	23.5	23.5	23.5	0.0	2.9	5.9
地域別	北 東 部 地 域 (n= 54)	37.0	53.7	37.0	16.7	22.2	20.4	25.9	9.3	1.9	0.0	7.4	
	中 部 地 域 (n= 74)	36.5	40.5	37.8	32.4	27.0	25.7	27.0	16.2	2.7	1.4	2.7	
	西 部 地 域 (n= 70)	44.3	22.9	30.0	28.6	27.1	25.7	15.7	22.9	1.4	2.9	1.4	
	南 部 地 域 (n= 65)	32.3	36.9	33.8	26.2	27.7	26.2	15.4	9.2	1.5	0.0	4.6	

5 地域とのつながり

5-1 地域活動への参加状況と参加意向

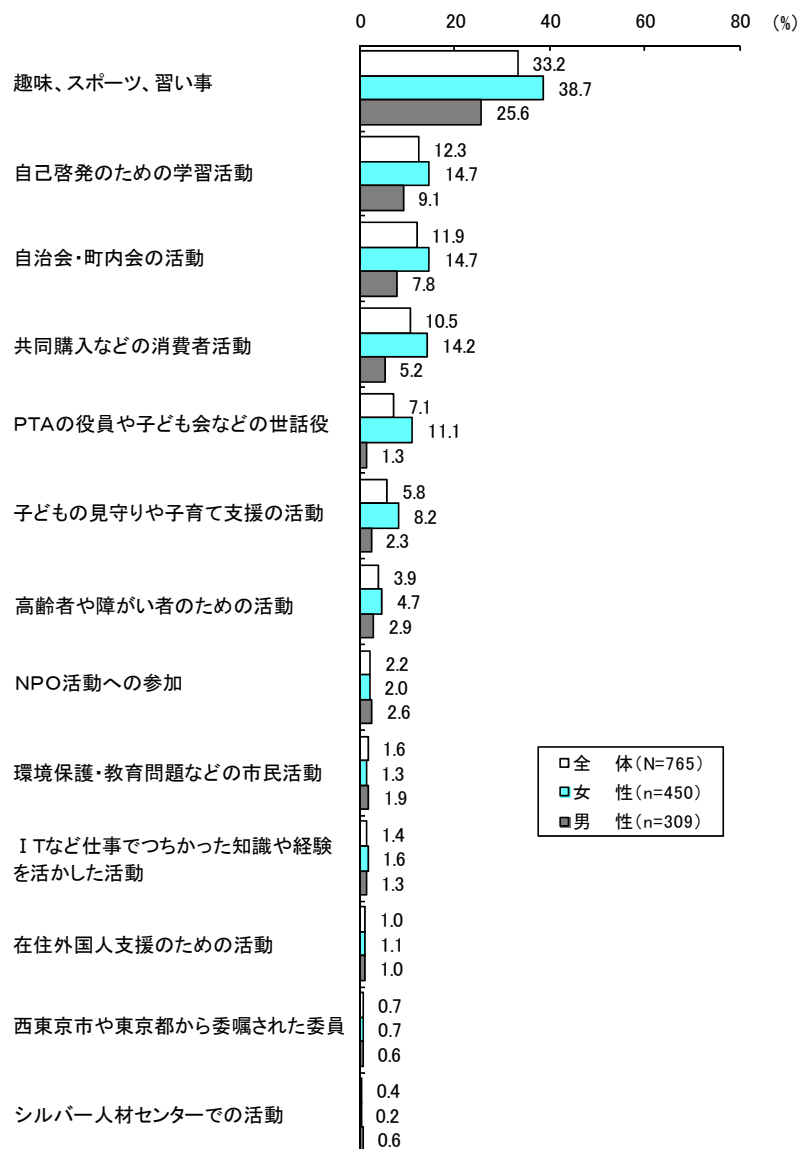
問 14 地域活動についておたずねします。現在の参加の有無と今後の参加意向を、(1) から (13) のそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つずつ〇)

地域活動について、現在の参加の状況をたずねました。

全体では、「現在参加している」割合は、『趣味、スポーツ、習い事 (33.2%)』が最も多く、『自己啓発のための学習活動 (12.3%)』、『自治会・町内会の活動 (11.9%)』が続いています。

性別にみると、「現在参加している」割合は、男女ともに上位3位は全体と同じですが、女性は男性を『趣味、スポーツ、習い事 (女性：38.7%、男性：25.6%)』で 13.1 ポイント、『自己啓発のための学習活動 (女性：14.7%、男性：9.1%)』で 5.6 ポイント、『自治会・町内会の活動 (女性：14.7%、男性：7.8%)』で 6.9 ポイント上回っています。(図表 5-1-①)

図表 5-1-① 地域活動への参加状況 (全体、性別)
 <「現在参加している」と回答した割合>



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、「現在参加している」割合は、女性の20代から60代まで年代が上がるほど『趣味、スポーツ、習い事』と『自治会・町内会の活動』が多くなります。また、女性の40代は『共同購入などの消費者活動(23.0%)』と『PTAの役員や子ども会などの世話役(28.0%)』、女性の50代は『自治会・町内会の活動(22.6%)』、女性の60代は『趣味、スポーツ、習い事(53.6%)』と『自治会・町内会の活動(24.5%)』がそれぞれ全体を10ポイント以上上回っています。男性の40代、50代は『趣味、スポーツ、習い事(40代:16.9%、50代:16.9%)』が1割台と低くなっています。

地域別にみると、いずれの地域も『趣味、スポーツ、習い事』が3割台で最も多くなっていますが、中部地域と西部地域は、『自治会・町内会の活動』の割合が1割を超えています。(図表5-1-②)

図表5-1-② 地域活動への参加状況(全体、性・年代別、地域別)
 <「現在参加している」と回答した割合>

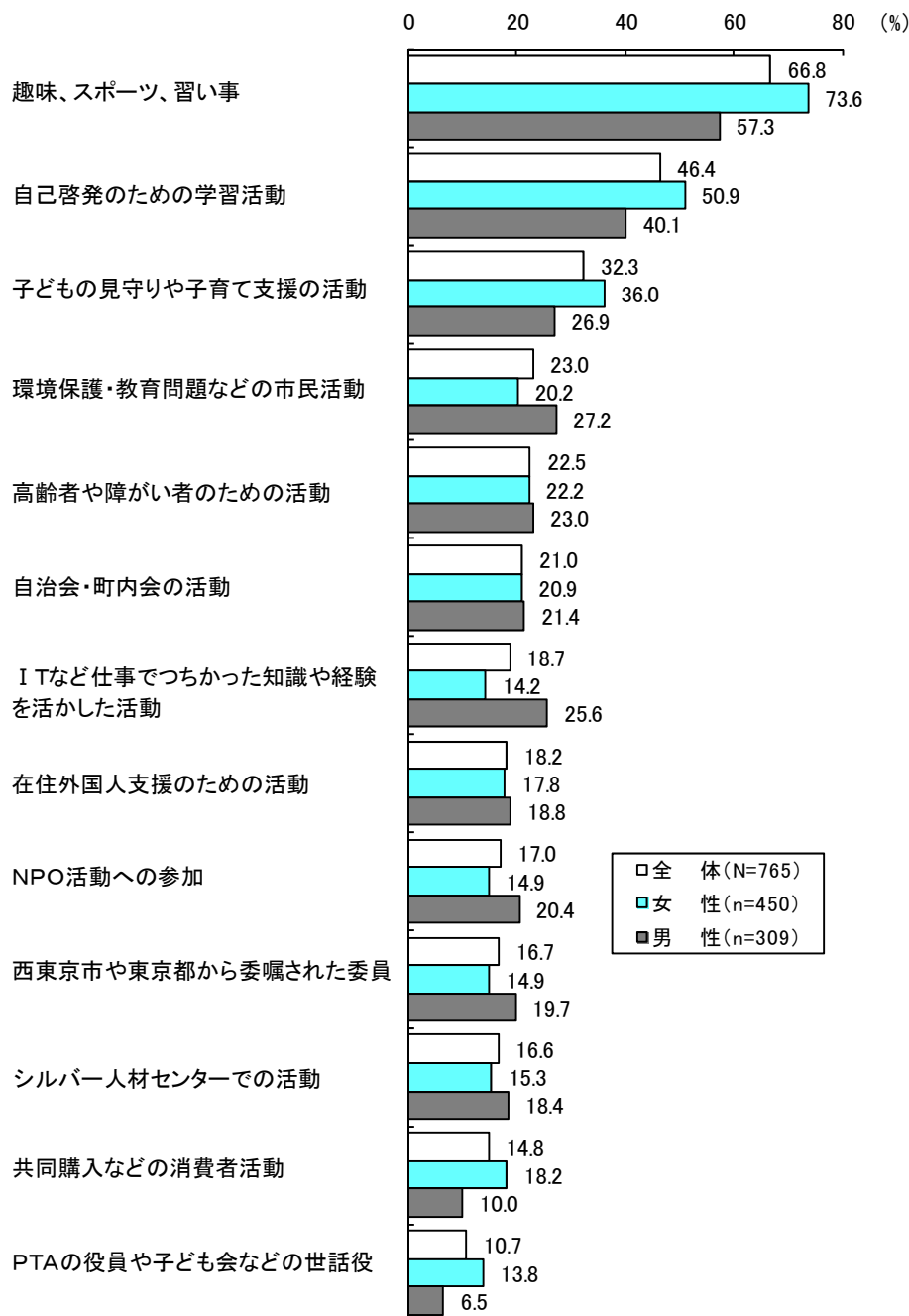
		趣味、スポーツ、習い事	自己啓発のための学習活動	自治会・町内会の活動	共同購入などの消費者活動	PTAの役員や子ども会などの世話役	子どもの見守りや子育て支援の活動	高齢者や障がい者のための活動	NPO活動への参加	環境保護・教育問題などの市民活動	ITなど仕事を活かした活動	在住外国人支援のための活動	西東京市や東京都から委嘱された委員	活動シルバー人材センターでの活動	
全	体 (N=765)	33.2	12.3	11.9	10.5	7.1	5.8	3.9	2.2	1.6	1.4	1.0	0.7	0.4	
性・年代別	女性	10代 (n=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代 (n=51)	13.7	13.7	3.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		30代 (n=97)	33.0	10.3	7.2	6.2	15.5	8.2	0.0	1.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0
		40代 (n=100)	38.0	16.0	11.0	23.0	28.0	17.0	3.0	2.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
		50代 (n=84)	42.9	8.3	22.6	20.2	3.6	6.0	10.7	3.6	3.6	0.0	1.2	2.4	0.0
		60代 (n=110)	53.6	21.8	24.5	16.4	1.8	5.5	8.2	2.7	2.7	3.6	3.6	0.0	0.9
	男性	10代 (n=10)	60.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代 (n=37)	35.1	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0
		30代 (n=48)	31.3	10.4	6.3	6.3	4.2	4.2	2.1	4.2	0.0	4.2	2.1	0.0	0.0
		40代 (n=59)	16.9	6.8	8.5	8.5	3.4	1.7	3.4	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		50代 (n=71)	16.9	8.5	11.3	7.0	0.0	2.8	2.8	1.4	4.2	1.4	1.4	0.0	0.0
		60代 (n=84)	27.4	7.1	9.5	3.6	0.0	2.4	4.8	4.8	2.4	0.0	1.2	2.4	2.4
地域別	北東部地域 (n=162)	31.5	11.1	8.0	11.1	4.3	3.7	3.1	2.5	0.6	1.9	1.2	0.6	0.6	
	中部地域 (n=182)	33.5	14.3	14.3	7.7	6.0	6.6	4.4	3.3	3.3	1.6	1.1	1.1	0.5	
	西部地域 (n=214)	34.6	7.9	15.4	10.7	10.3	6.1	5.1	1.9	1.4	2.3	0.9	0.9	0.5	
	南部地域 (n=200)	33.0	16.5	9.0	12.5	7.0	6.5	3.0	1.5	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	

地域活動について今後の参加意向をたずねました。

全体では、「今後参加したい」割合は、『趣味、スポーツ、習い事 (66.8%)』が最も多く、『自己啓発のための学習活動 (46.4%)』、『子どもの見守りや子育て支援の活動 (32.3%)』が続いています。

性別にみると、「今後参加したい」割合は、女性は『趣味、スポーツ、習い事 (73.6%)』が最も多く、『自己啓発のための学習活動 (50.9%)』と『子どもの見守りや子育て支援の活動 (36.0%)』が続いています。男性は『趣味、スポーツ、習い事 (57.3%)』が最も多く、『自己啓発のための学習活動 (40.1%)』、『環境保護・教育問題などの市民活動 (27.2%)』が続いています。(図表5-1-③)

図表5-1-③ 地域活動への参加意向 (全体、性別)
 <「今後参加したい」と回答した割合>



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、「今後参加したい」割合は、女性の30代は『趣味、スポーツ、習い事(78.4%)』、『子どもの見守りや子育て支援の活動(50.5%)』、『PTAの役員や子ども会などの世話役(25.8%)』、40代は『趣味、スポーツ、習い事(79.0%)』、『PTAの役員や子ども会などの世話役(24.0%)』がそれぞれ全体を10ポイント以上上回っています。また女性の60代は『自治会・町内会の活動(30.9%)』が3割台と多くなっています。男性の20代、40代、50代は『ITなど仕事でつちかった知識や経験を活かした活動(20代:32.4%、40代:35.6%、50代:33.8%)』、60代は『シルバー人材センターでの活動(28.6%)』がそれぞれ全体を10ポイント以上上回っています。

地域別にみると、いずれの地域も『趣味、スポーツ、習い事』が最も多く、『自己啓発のための学習活動』、『子どもの見守りや子育て支援の活動』が続いています。また、中部地域は、『ITなど仕事でつちかった知識や経験を活かした活動(28.0%)』、『NPO活動への参加(22.5%)』が2割台で他の地域に比べて多くなっています。(図表5-1-④)

図表5-1-④ 地域活動への参加意向(全体、性・年代別、地域別)
 <「今後参加したい」と回答した割合>

		趣味、スポーツ、習い事	自己啓発のための学習活動	子どもの見守りや子育て支援の活動	市民活動・環境保護・教育問題などの活動	高齢者や障がい者のための活動	自治会・町内会の活動	ITなど仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	在住外国人支援のための活動	NPO活動への参加	西東京市や東京都から委嘱された委員	シルバー人材センターでの活動	共同購入などの消費者活動	PTAの役員や子ども会などの世話役	
全 体 (N=765)		66.8	46.4	32.3	23.0	22.5	21.0	18.7	18.2	17.0	16.7	16.6	14.8	10.7	
性・年代別	女性	10代 (n=5)	40.0	20.0	60.0	40.0	40.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
		20代 (n=51)	68.6	45.1	35.3	17.6	17.6	9.8	19.6	21.6	13.7	9.8	9.8	11.8	7.8
		30代 (n=97)	78.4	55.7	50.5	20.6	16.5	19.6	15.5	15.5	14.4	15.5	6.2	13.4	25.8
		40代 (n=100)	79.0	52.0	37.0	21.0	21.0	11.0	17.0	19.0	19.0	22.0	17.0	22.0	24.0
		50代 (n=84)	71.4	56.0	34.5	20.2	26.2	29.8	13.1	20.2	16.7	11.9	19.0	23.8	8.3
		60代 (n=110)	70.0	45.5	22.7	19.1	26.4	30.9	8.2	13.6	10.9	13.6	21.8	18.2	0.9
	男性	10代 (n=10)	80.0	20.0	30.0	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代 (n=37)	59.5	37.8	16.2	24.3	8.1	13.5	32.4	18.9	13.5	10.8	2.7	10.8	2.7
		30代 (n=48)	60.4	33.3	33.3	27.1	22.9	22.9	16.7	16.7	14.6	22.9	10.4	14.6	16.7
		40代 (n=59)	59.3	47.5	35.6	30.5	22.0	22.0	35.6	23.7	23.7	22.0	15.3	13.6	11.9
		50代 (n=71)	56.3	45.1	25.4	29.6	28.2	22.5	33.8	21.1	25.4	25.4	25.4	9.9	4.2
		60代 (n=84)	51.2	38.1	22.6	25.0	27.4	23.8	14.3	15.5	20.2	17.9	28.6	6.0	1.2
地域別	北東部地域 (n=162)	67.3	45.1	29.6	21.0	19.8	17.3	13.6	15.4	16.0	18.5	19.8	16.0	11.1	
	中部地域 (n=182)	67.0	47.8	37.9	29.7	25.3	19.8	28.0	21.4	22.5	18.7	19.2	12.6	11.0	
	西部地域 (n=214)	69.2	47.2	31.3	22.4	26.2	25.2	15.9	16.8	14.0	18.7	15.4	15.0	12.6	
	南部地域 (n=200)	64.0	45.5	30.5	19.5	18.5	21.0	18.0	19.0	16.5	12.0	13.0	16.0	8.5	

6 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

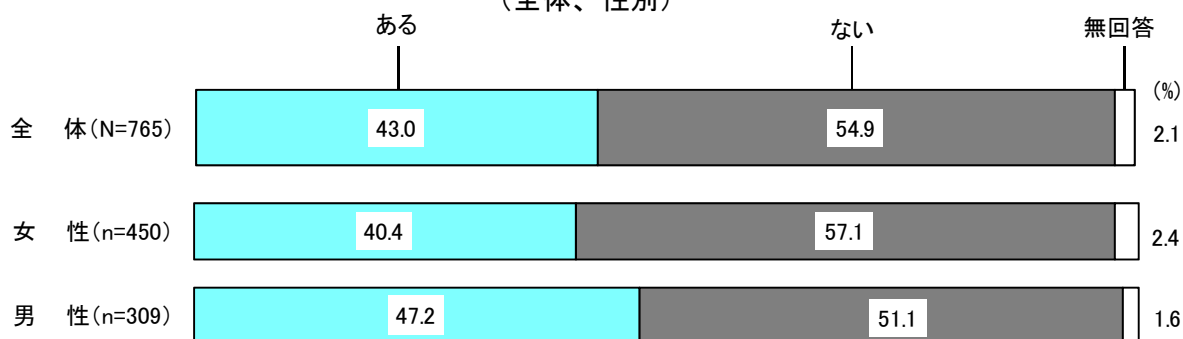
6-1 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度

問 15 あなたは「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を見聞きしたことがありますか。（1つに○）

全体では、見聞きしたことが「ある」は43.0%、「ない」は54.9%となっています。

性別にみると、見聞きしたことが「ある（女性：40.4%、男性：47.2%）」は男性が女性を6.8ポイント上回っています。（図表6-1-①）

図表6-1-① 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の20代は「ある（52.9%）」が5割を超えています。男性の30代は「ある（60.4%）」が6割を超え、50代も「ある（54.9%）」が5割を超えています。（図表6-1-②）

図表6-1-② 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の言葉の認知度（全体、性・年代別）

			ある (%)	ない (%)	無回答 (%)
全 体 (N= 765)			43.0	54.9	2.1
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	40.0	60.0	0.0
		20 代 (n= 51)	52.9	45.1	2.0
		30 代 (n= 97)	36.1	61.9	2.1
		40 代 (n= 100)	45.0	54.0	1.0
		50 代 (n= 84)	39.3	56.0	4.8
		60 代 (n= 110)	34.5	62.7	2.7
	男 性	10 代 (n= 10)	10.0	90.0	0.0
		20 代 (n= 37)	48.6	51.4	0.0
		30 代 (n= 48)	60.4	39.6	0.0
		40 代 (n= 59)	42.4	54.2	3.4
		50 代 (n= 71)	54.9	43.7	1.4
		60 代 (n= 84)	40.5	57.1	2.4

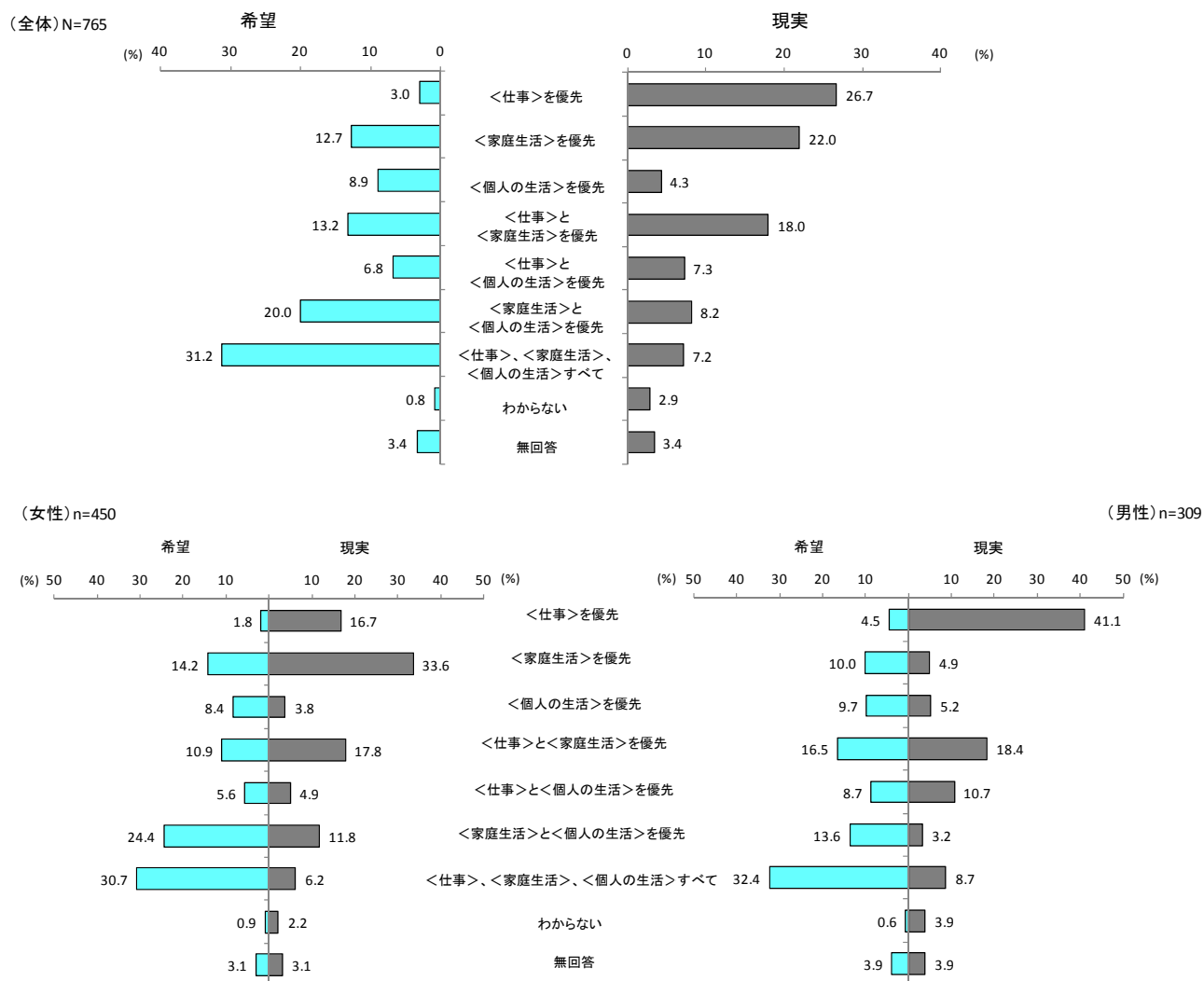
6-2 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）

問 16 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度についておうかがいします。
 (1)「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものを、1～8の中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。
 (2)「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものを、1～8の中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度について希望と現実を聞いたところ、全体では、希望は、「＜仕事＞、＜家庭生活＞、＜個人の生活＞すべて(31.2%)」が最も多く、「＜家庭生活＞と＜個人の生活＞を優先(20.0%)」、「＜仕事＞と＜家庭生活＞を優先(13.2%)」が続いています。現実には、「＜仕事＞を優先(26.7%)」が最も多く、「＜家庭生活＞を優先(22.0%)」、「＜仕事＞と＜家庭生活＞を優先(18.0%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに希望は、「＜仕事＞、＜家庭生活＞、＜個人の生活＞すべて(女性:30.7%、男性:32.4%)」が最も多くなっていますが、現実では、女性は「＜家庭生活＞を優先(33.6%)」、男性は「＜仕事＞を優先(41.1%)」が最も多くなっています。(図表6-2-①)

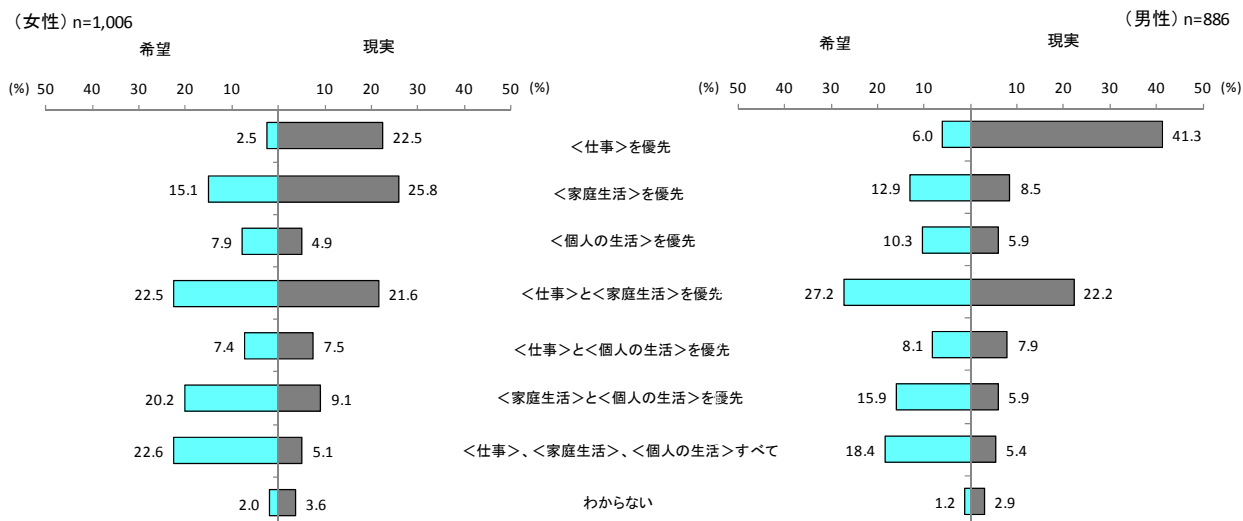
図表6-2-① 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）（全体、性別）



『東京都調査との比較』

「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度の希望と現実について、西東京市調査と東京都調査を比較すると、男女ともに希望は、「<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて」が東京都を上回り、現実では、女性は「<家庭生活>を優先」が東京都を上回っています。男性は「<仕事>を優先」は東京都調査とほとんど同じ割合となっています。(図表6-2-②)

図表6-2-② 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）（性別）【東京都】



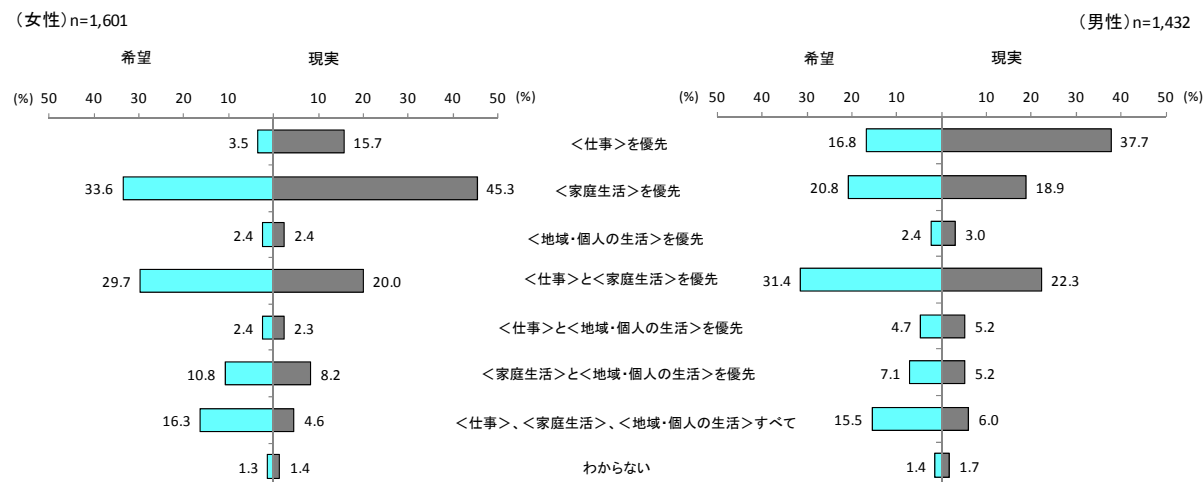
※東京都調査は「男女平等参画に関する調査(平成23年1月)」

※調査対象者の年齢は、西東京市では18歳から70歳未満、東京都では20歳以上です。

『国調査との比較』

西東京市調査と国調査を比較すると、現実で、女性は「<家庭生活>を優先」が国を下回り、男性は「<仕事>を優先」が国を上回っています。(図表6-2-③)

図表6-2-③ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実）（性別）【国】



※国調査は「男女共同参画社会に関する世論調査(平成24年10月) 内閣府男女共同参画局」

※調査対象者の年齢は、西東京市では18歳から70歳未満、国では20歳以上です。

※国調査は、「<個人の生活>」は「<地域・個人の生活>」となっています。

希望について性・年代別にみると、女性の20代、40代、50代、60代は「<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて」が最も多く、30代は「<家庭生活>と<個人の生活>を優先(33.0%)」が最も多くなっています。男性は20代で「<個人の生活>を優先(27.0%)」が最も多くなっていますが、そのほかの年代は「<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて」が最も多くなっています。

希望について性・未既婚別にみると、女性の既婚、未婚、離死別、男性の既婚、未婚はいずれも「<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて」が最も多くなっていますが、男性の離死別は「<家庭生活>と<個人の生活>を優先(28.6%)」が最も多くなっています。(図表6-2-④)

図表6-2-④ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度(希望)
(全体、性・年代別、性・未既婚別)

			〈仕事〉を優先	〈家庭生活〉を優先	〈個人の生活〉を優先	〈仕事〉と〈家庭生活〉を優先	〈仕事〉と〈個人の生活〉を優先	〈家庭生活〉と〈個人の生活〉を優先	〈仕事〉、〈家庭生活〉、〈個人の生活〉すべて	わからない	無回答
全 体 (N= 765)			3.0	12.7	8.9	13.2	6.8	20.0	31.2	0.8	3.4
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	11.8	7.8	7.8	5.9	27.5	33.3	0.0	3.9
		30代 (n= 97)	1.0	14.4	7.2	8.2	5.2	33.0	28.9	0.0	2.1
		40代 (n= 100)	2.0	15.0	10.0	15.0	2.0	20.0	34.0	1.0	1.0
		50代 (n= 84)	1.2	11.9	2.4	11.9	6.0	23.8	36.9	1.2	4.8
		60代 (n= 110)	2.7	16.4	13.6	10.9	7.3	20.0	22.7	1.8	4.5
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	10.0	10.0
		20代 (n= 37)	2.7	5.4	27.0	2.7	18.9	24.3	16.2	0.0	2.7
		30代 (n= 48)	4.2	12.5	6.3	18.8	12.5	10.4	33.3	0.0	2.1
		40代 (n= 59)	6.8	10.2	8.5	20.3	6.8	6.8	37.3	0.0	3.4
		50代 (n= 71)	2.8	11.3	2.8	23.9	5.6	11.3	38.0	0.0	4.2
		60代 (n= 84)	6.0	10.7	9.5	14.3	7.1	16.7	29.8	1.2	4.8
性・未既婚別	女性	既婚 (n= 337)	0.9	16.3	7.7	11.9	1.2	27.3	31.2	0.6	3
		未婚 (n= 69)	1.4	2.9	14.5	4.3	20.3	18.8	31.9	1.4	4.3
		離死別 (n= 39)	10.3	15.4	5.1	12.8	17.9	10.3	23.1	2.6	2.6
	男性	既婚 (n= 181)	3.9	13.8	3.9	22.1	3.3	13.8	35.9	0.6	2.8
		未婚 (n= 99)	5.1	3.0	20.2	6.1	19.2	11.1	28.3	1.0	6.1
		離死別 (n= 21)	4.8	4.8	9.5	14.3	9.5	28.6	23.8	0.0	4.8

現実について性・年代別にみると、女性は20代から60代まで「＜家庭生活＞を優先」が最も多くなっていますが、40代は「＜仕事＞と＜家庭生活＞を優先（31.0%）」も「＜家庭生活＞を優先（31.0%）」と同率となっています。男性は、20代から60代まで「＜仕事＞を優先」が最も多くなっています。

現実について性・未既婚別にみると、女性の既婚は「＜家庭生活＞を優先（41.2%）」が最も多く、未婚と離死別は「＜仕事＞を優先」が最も多くなっています。男性は既婚、未婚、離死別ともに「＜仕事＞を優先」が最も多くなっています。（図表6-2-⑤）

図表6-2-⑤ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（現実）
（全体、性・年代別、性・未既婚別）

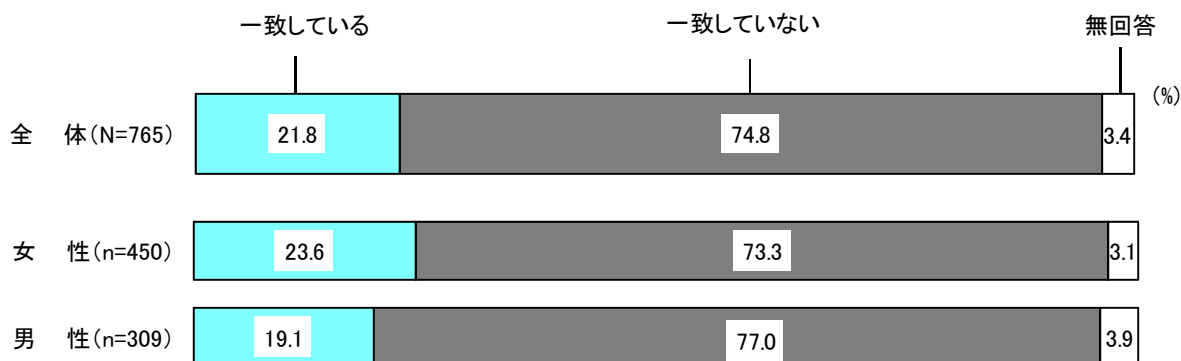
			（仕事）を優先	（家庭生活）を優先	（個人の生活）を優先	（仕事）と（家庭生活）を優先	（仕事）と（個人の生活）を優先	（家庭生活）と（個人の生活）を優先	（仕事）、（家庭生活）、（個人の生活）すべて	わからない	無回答
全体 (N=765)			26.7	22.0	4.3	18.0	7.3	8.2	7.2	2.9	3.4
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0
		20代 (n= 51)	19.6	21.6	7.8	7.8	15.7	13.7	5.9	3.9	3.9
		30代 (n= 97)	16.5	47.4	2.1	15.5	4.1	8.2	3.1	1.0	2.1
		40代 (n=100)	19.0	31.0	2.0	31.0	2.0	8.0	4.0	2.0	1.0
		50代 (n= 84)	16.7	34.5	2.4	22.6	2.4	9.5	4.8	2.4	4.8
		60代 (n=110)	13.6	30.0	5.5	10.0	5.5	17.3	11.8	1.8	4.5
	男性	10代 (n= 10)	20.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	10.0	30.0	10.0
		20代 (n= 37)	35.1	5.4	8.1	10.8	24.3	0.0	8.1	5.4	2.7
		30代 (n= 48)	43.8	2.1	6.3	22.9	14.6	0.0	8.3	0.0	2.1
		40代 (n= 59)	57.6	1.7	3.4	15.3	11.9	1.7	3.4	1.7	3.4
		50代 (n= 71)	50.7	4.2	0.0	16.9	7.0	1.4	14.1	1.4	4.2
		60代 (n= 84)	25.0	9.5	8.3	22.6	6.0	9.5	8.3	6.0	4.8
性・未既婚別	女性	既婚 (n=337)	11.0	41.2	1.5	21.1	1.2	13.4	6.2	1.5	3.0
		未婚 (n= 69)	31.9	5.8	13.0	7.2	18.8	8.7	5.8	4.3	4.3
		離死別 (n= 39)	38.5	15.4	7.7	10.3	12.8	2.6	7.7	2.6	2.6
	男性	既婚 (n=181)	42.0	5.0	0.6	28.2	3.9	5.5	9.9	2.2	2.8
		未婚 (n= 99)	41.4	4.0	10.1	4.0	21.2	0.0	6.1	7.1	6.1
		離死別 (n= 21)	33.3	4.8	23.8	4.8	19.0	0.0	4.8	4.8	4.8

希望と現実の一致についてみてみました。

全体では、希望と現実が「一致している」は21.8%です。

性別にみると、希望と現実が「一致している」割合は、女性が23.6%、男性が19.1%で女性が男性を4.5ポイント上回っています。(図表6-2-⑥)

図表6-2-⑥ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実の一致）
(全体、性・年代別)



図表6-2-⑦ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実の一致の内容）
(全体)

n = 711
(%)

希望	現実							計
	仕事優先	家庭生活優先	先個人生活優先	生活仕事と家庭生活	先仕事優先	先家庭生活優先	生活仕事と個人生活	
<仕事>を優先	1.5	0.3	0.1	0.3	0.6	0.1	0.3	3.2
<家庭生活>を優先	3.4	6.2	0.3	2.1	0.3	0.8	0.6	13.6
<個人の生活>を優先	2.8	1.5	1.7	1.5	0.7	0.6	0.3	9.1
<仕事>と<家庭生活>を優先	6.0	2.8	0.1	3.1	0.7	0.3	0.7	13.7
<仕事>と<個人の生活>を優先	2.8	0.6	0.7	0.7	1.7	0.0	0.7	7.1
<家庭生活>と<個人の生活>を優先	3.6	6.6	1.0	3.5	1.0	4.6	1.1	21.4
<仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて	8.4	5.5	0.7	8.1	2.8	2.4	4.1	31.9
計	28.5	23.5	4.6	19.3	7.8	8.8	7.8	100.0

希望と現実が一致 22.9%

※希望と現実の両方又はどちらかに「わからない」と回答した人、ならびに無回答の人を除いています。

性・年代別にみると、女性は20代から60代まで年代が上がるほど「希望と現実が一致している」割合が高くなります。男性は、20代、40代、50代で「希望と現実が一致している」割合がそれぞれ1割台と低くなっています。30代は「希望と現実が一致している」割合が27.1%となっています。

性・未既婚別にみると、「希望と現実が一致している」割合は、女性の既婚（24.0%）は男性の既婚（18.8%）を5.2ポイント、女性の離死別（35.9%）は男性の離死別（4.8%）を31.1ポイント上回りますが、女性の未婚（14.5%）は男性の未婚（22.2%）を7.7ポイント下回っています。（図表6-2-⑧）

図表6-2-⑧ 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（希望と現実の一致）
（全体、性・年代別、性・未既婚別）

			一希望して現実が	一希望して現実が	無回答
			一致している	一致していない	(%)
全 体 (N=765)			21.8	74.8	3.4
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	20.0	80.0	0.0
		20 代 (n= 51)	15.7	80.4	3.9
		30 代 (n= 97)	17.5	80.4	2.1
		40 代 (n=100)	23.0	76.0	1.0
		50 代 (n= 84)	23.8	71.4	4.8
		60 代 (n=110)	33.6	61.8	4.5
	男 性	10 代 (n= 10)	20.0	70.0	10.0
		20 代 (n= 37)	16.2	81.1	2.7
		30 代 (n= 48)	27.1	70.8	2.1
		40 代 (n= 59)	15.3	81.4	3.4
		50 代 (n= 71)	14.1	81.7	4.2
		60 代 (n= 84)	22.6	72.6	4.8
性・未既婚別	女 性	既 婚 (n=337)	24.0	73.0	3.0
		未 婚 (n= 69)	14.5	81.2	4.3
		離 死 別 (n= 39)	35.9	61.5	2.6
	男 性	既 婚 (n 181)	18.8	78.5	2.8
		未 婚 (n= 99)	22.2	71.7	6.1
		離 死 別 (n= 21)	4.8	90.5	4.8

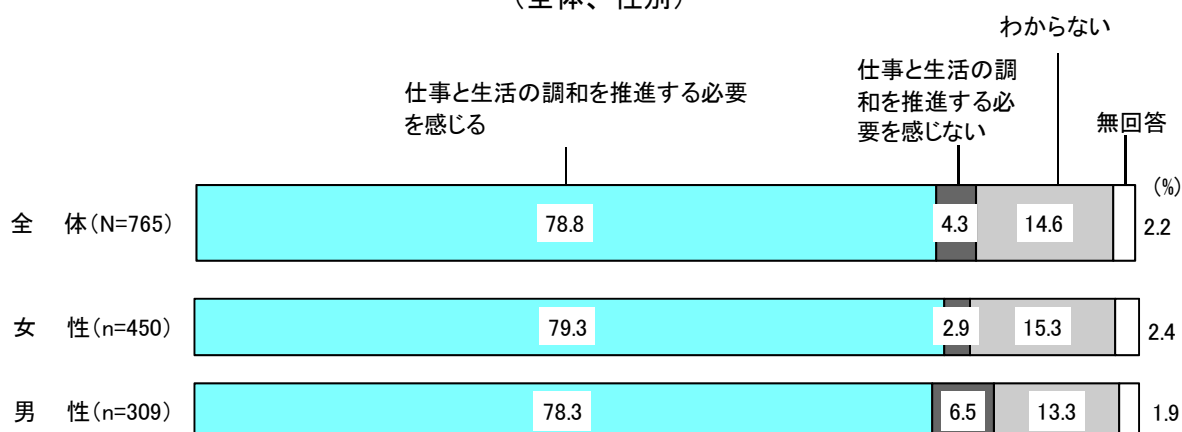
6-3 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を必要だと思うか

問17 あなたは「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は必要だと思いますか。（1つに○）

全体では、「仕事と生活の調和を推進する必要がある」と感じるが78.8%、「仕事と生活の調和を推進する必要を感じない」が4.3%、「わからない」が14.6%となっています。

性別にみると、「仕事と生活の調和を推進する必要がある」と感じるのは、女性が79.3%、男性が78.3%となっています。（図表6-3-①）

図表6-3-① 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を必要だと思うか（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の20代、30代は「仕事と生活の調和を推進する必要がある」と感じるが8割を超え、男性の30代は「仕事と生活の調和を推進する必要がある（93.8%）」が9割を超えています。（図表6-3-②）

図表6-3-② 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を必要だと思うか（全体、性・年代別）

		感を感じ推進する生活の必要調和	感を感じ推進しない生活の必要調和	わからない	無回答	
全 体 (N= 765)		78.8	4.3	14.6	2.2	
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	100.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	84.3	0.0	13.7	2.0
		30 代 (n= 97)	86.6	1.0	10.3	2.1
		40 代 (n= 100)	79.0	3.0	17.0	1.0
		50 代 (n= 84)	78.6	6.0	11.9	3.6
		60 代 (n= 110)	70.0	3.6	22.7	3.6
	男 性	10 代 (n= 10)	60.0	10.0	30.0	0.0
		20 代 (n= 37)	78.4	8.1	13.5	0.0
		30 代 (n= 48)	93.8	2.1	4.2	0.0
		40 代 (n= 59)	78.0	10.2	10.2	1.7
		50 代 (n= 71)	76.1	7.0	12.7	4.2
		60 代 (n= 84)	73.8	4.8	19.0	2.4

6-4 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なもの

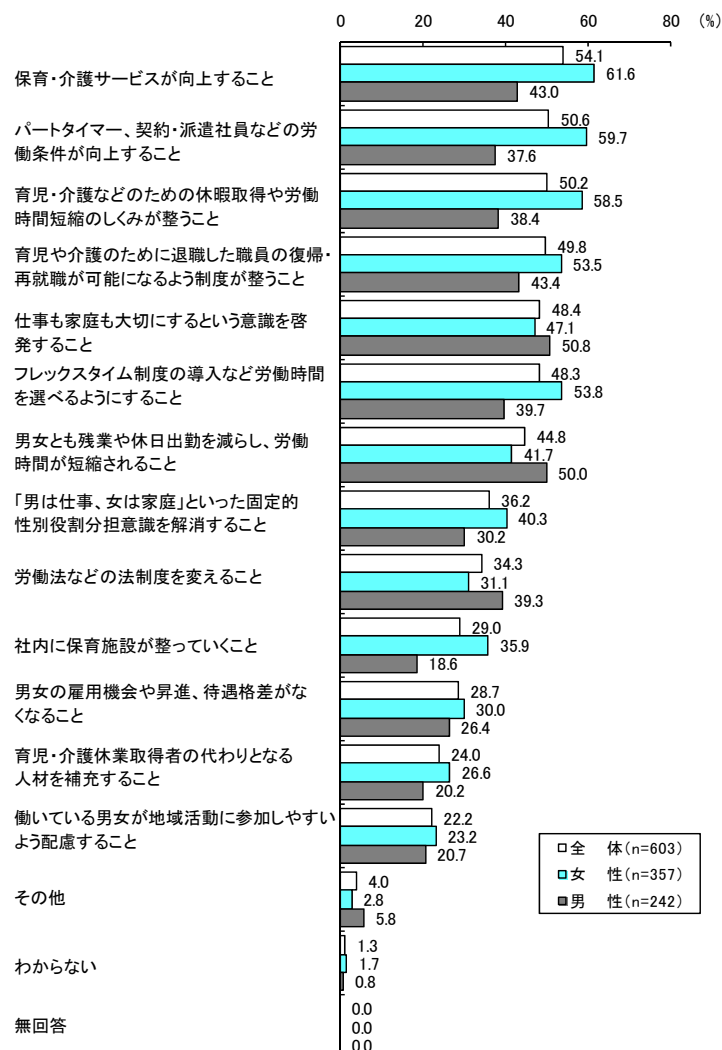
問 17-1 問 17で「1 仕事と生活の調和を推進する必要がある」と答えた方におたずねします。
「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なものは何だと思えますか。
(いくつでもO)

問 17で、「仕事と生活の調和を推進する必要がある」と回答した人に、推進に必要なことをたずねました。

全体では、「保育・介護サービスが向上すること(54.1%)」が最も多く、「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること(50.6%)」、「育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと(50.2%)」が続いています。

性別にみると、女性は「保育・介護サービスが向上すること(61.6%)」が最も多く、「パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること(59.7%)」、「育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと(58.5%)」が続いています。男性は「仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること(50.8%)」が最も多く、「男女とも残業や休日出勤を減らし、労働時間が短縮されること(50.0%)」が続いています。(図表6-4-①)

図表6-4-① 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なもの
(全体、性別：複数回答) <仕事と生活の調和を推進する必要がある人>



性・年代別にみると、女性の20代は「育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと（79.1%）」、「育児や介護のために退職した職員の復帰・再就職が可能になるよう制度が整うこと（69.8%）」、「フレックスタイム制度の導入など労働時間を選べるようにすること（76.7%）」において、30代は「育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと（71.4%）」、「社内に保育施設が整っていくこと（51.2%）」においてそれぞれ全体を20ポイント以上上回っています。

男性の30代は「男女とも残業や休日出勤を減らし、労働時間が短縮されること（60.0%）」が全体を15.2ポイント上回っていますが、「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること（15.6%）」が全体を20.6ポイント下回っています。（図表6-4-②）

図表6-4-② 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なもの
（全体、性・年代別：複数回答）＜仕事と生活の調和を推進する必要がある人＞

		保育・介護サービスが向上すること	パートタイム、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること	育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと	育児・介護のために退職した職員の復帰・再就職が可能になるよう制度が整うこと	仕事も家庭も大切にしよう意識を啓発すること	フレックスタイム制度の導入など労働時間を選べるようにすること	男女とも残業や休日出勤を減らし、労働時間が短縮されること	「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること	労働法などの法制度を変えること	社内に保育施設が整っていくこと	男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	育児・介護休業取得者の代わりとなる人材を補充すること	働いている男女が地域活動に参加しやすいよう配慮すること	その他	無回答	
全体 (n= 603)		54.1	50.6	50.2	49.8	48.4	48.3	44.8	36.2	34.3	29.0	28.7	24.0	22.2	4.0	0.0	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	80.0	60.0	20.0	60.0	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0
		20代 (n= 43)	62.8	51.2	79.1	69.8	46.5	76.7	60.5	41.9	41.9	41.9	39.5	41.9	16.3	9.3	0.0
		30代 (n= 84)	65.5	70.2	71.4	59.5	50.0	64.3	53.6	32.1	33.3	51.2	22.6	28.6	22.6	2.4	0.0
		40代 (n= 79)	49.4	51.9	45.6	39.2	46.8	46.8	43.0	44.3	35.4	27.8	26.6	19.0	20.3	5.1	0.0
		50代 (n= 66)	69.7	62.1	53.0	50.0	43.9	48.5	28.8	39.4	31.8	31.8	28.8	21.2	25.8	0.0	0.0
		60代 (n= 77)	62.3	58.4	51.9	54.5	46.8	41.6	29.9	42.9	18.2	28.6	35.1	27.3	29.9	0.0	0.0
	男性	10代 (n= 6)	33.3	16.7	16.7	50.0	0.0	33.3	50.0	16.7	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
		20代 (n= 29)	41.4	41.4	51.7	44.8	55.2	44.8	55.2	44.8	34.5	27.6	41.4	31.0	24.1	0.0	0.0
		30代 (n= 45)	44.4	33.3	40.0	33.3	48.9	46.7	60.0	15.6	48.9	28.9	20.0	15.6	8.9	4.4	0.0
		40代 (n= 46)	41.3	23.9	45.7	47.8	58.7	37.0	56.5	32.6	45.7	19.6	26.1	28.3	23.9	6.5	0.0
		50代 (n= 54)	48.1	35.2	38.9	50.0	50.0	38.9	48.1	35.2	40.7	7.4	24.1	11.1	27.8	9.3	0.0
		60代 (n= 62)	40.3	53.2	27.4	40.3	50.0	35.5	37.1	29.0	29.0	14.5	25.8	21.0	21.0	6.5	0.0

7 防災

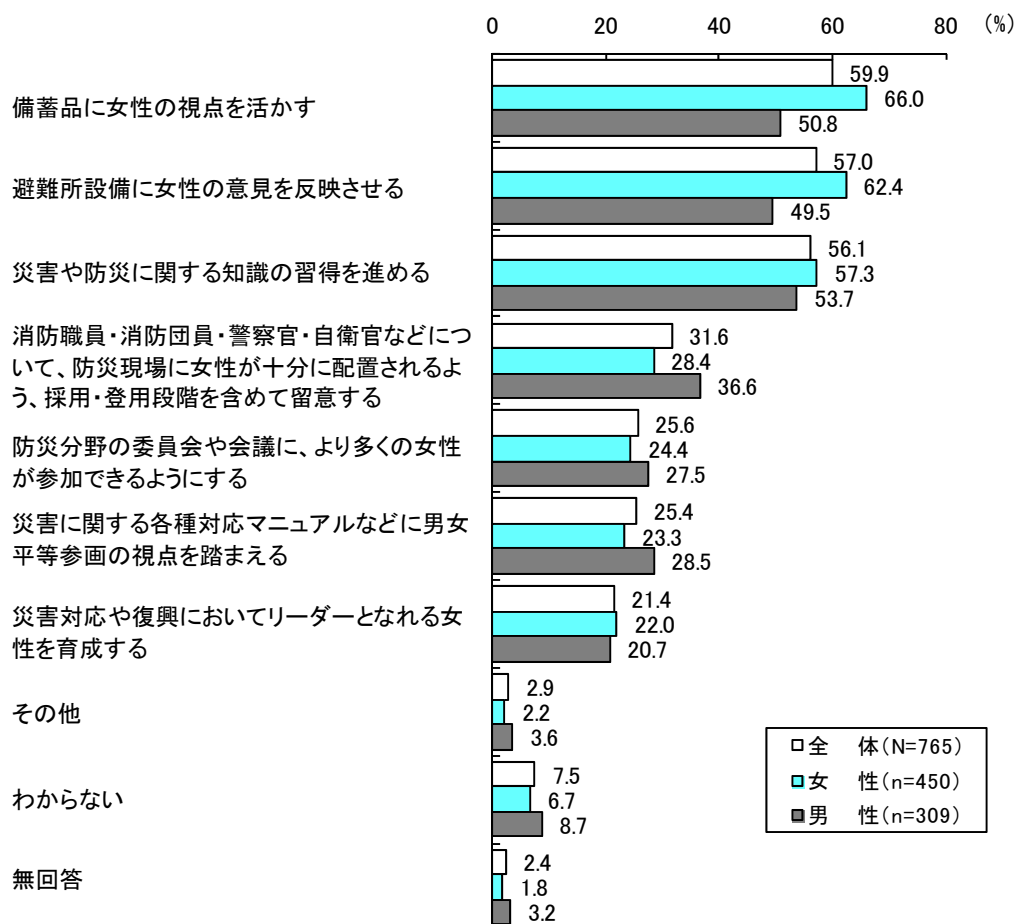
7-1 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと

問 18 平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生して以来、防災のまちづくりの一層の推進が課題となっています。あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(いくつでも〇)

全体では、「備蓄品に女性の視点を活かす(59.9%)」が最も多く、「避難所設備に女性の意見を反映させる(57.0%)」、「災害や防災に関する知識の習得を進める(56.1%)」が続いています。

性別にみると、女性の上位3位は、全体の上位3位と同じになっていますが、男性は「災害や防災に関する知識の習得を進める(53.7%)」が最も多くなっています。また、女性は男性を「備蓄品に女性の視点を活かす(女性：66.0%、男性：50.8%)」、「避難所設備に女性の意見を反映させる(女性：62.4%、男性：49.5%)」でそれぞれ15.2ポイント、12.9ポイント上回っています。(図表7-1-①)

図表7-1-① 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
(全体、性別：複数回答)



性・年代別にみると、女性の20代は「備蓄品に女性の視点を活かす(72.5%)」、「避難所設備に女性の意見を反映させる(76.5%)」でそれぞれ全体を12.6ポイント、19.5ポイント上回っています。

男性の50代、60代は「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を踏まえる(50代:36.6%、60代:40.5%)」でそれぞれ全体を11.2ポイント、15.1ポイント上回っています。また男性の30代は「災害や防災に関する知識の習得を進める(37.5%)」が3割台で全体を18.6ポイント下回っています。(図表7-1-②)

図表7-1-② 防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと
(全体、性・年代別:複数回答)

		備蓄品に女性の視点を活かす	避難所設備に女性の意見を反映させる	災害や防災に関する知識の習得を進める	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などに置いて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を踏まえる	災害対応や復興においてリーダーとなれる女性を育成する	その他	わからない	無回答	
全体 (N= 765)		59.9	57.0	56.1	31.6	25.6	25.4	21.4	2.9	7.5	2.4	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	80.0	80.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
		20代 (n= 51)	72.5	76.5	56.9	29.4	27.5	27.5	29.4	2.0	11.8	0.0
		30代 (n= 97)	66.0	56.7	51.5	28.9	18.6	18.6	16.5	4.1	9.3	2.1
		40代 (n= 100)	64.0	60.0	57.0	28.0	18.0	21.0	18.0	1.0	5.0	2.0
		50代 (n= 84)	66.7	63.1	52.4	29.8	23.8	29.8	28.6	2.4	8.3	1.2
		60代 (n= 110)	64.5	62.7	69.1	29.1	33.6	24.5	21.8	0.0	2.7	1.8
	男性	10代 (n= 10)	30.0	40.0	70.0	40.0	10.0	10.0	20.0	0.0	20.0	0.0
		20代 (n= 37)	56.8	45.9	56.8	35.1	27.0	18.9	21.6	8.1	10.8	2.7
		30代 (n= 48)	52.1	47.9	37.5	43.8	29.2	20.8	14.6	4.2	8.3	0.0
		40代 (n= 59)	45.8	49.2	52.5	33.9	16.9	16.9	15.3	3.4	11.9	1.7
		50代 (n= 71)	59.2	53.5	56.3	40.8	29.6	36.6	26.8	1.4	4.2	5.6
60代 (n= 84)	46.4	50.0	58.3	31.0	34.5	40.5	22.6	3.6	8.3	4.8		

8 人権

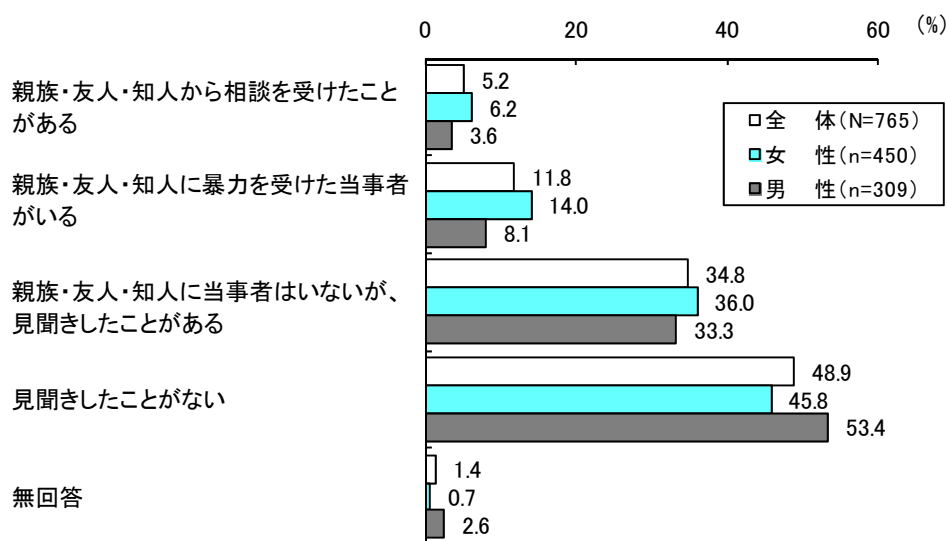
8-1 配偶者等からの暴力を見聞きした経験

問 19 パートナー（配偶者や恋人など）など親しい人からの暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。
あなたは、あなたの周囲でドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きしたことがありますか。（いくつでも〇）

全体では、「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」が 5.2%、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる」が 11.8%、「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」が 34.8%、「見聞きしたことがない」が 48.9%となっています。

性別にみると、女性は男性を「親族・友人・知人から相談を受けたことがある（女性：6.2%、男性：3.6%）」で 2.6 ポイント、「親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる（女性：14.0%、男性：8.1%）」で 5.9 ポイント上回っています。また、「見聞きしたことがない（女性：45.8%、男性 53.4%）」は、男性が女性を 7.6 ポイント上回っています。（図表 8-1-①）

図表 8-1-① 配偶者等からの暴力を見聞きした経験
（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、女性の20代、30代、40代と男性の40代、50代は「親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある」が4割前後となっています。また、男女ともに20代は「親族・友人・知人から相談を受けたことがある」が1割を超えて多くなっています。

なお、男性の30代、60代は「見聞きしたことがない」が6割を超えて多くなっています。(図表8-1-②)

図表8-1-② 配偶者等からの暴力を見聞きした経験
(全体、性・年代別：複数回答)

			を親族 受け た友 人・ 知 人 か ら 相 談 あ る	受親 族 た ・ 友 人 ・ 事 者 ・ 知 人 に 暴 力 を	と は 親 族 あ い な い 友 人 ・ 知 人 に 当 事 者	見 聞 き し た こ と が あ る	無 回 答
全 体 (N= 765)			5.2	11.8	34.8	48.9	1.4
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
		20 代 (n= 51)	13.7	17.6	39.2	35.3	0.0
		30 代 (n= 97)	6.2	7.2	41.2	47.4	0.0
		40 代 (n= 100)	5.0	18.0	42.0	40.0	0.0
		50 代 (n= 84)	4.8	16.7	33.3	46.4	1.2
		60 代 (n= 110)	5.5	12.7	27.3	52.7	1.8
	男 性	10 代 (n= 10)	0.0	10.0	10.0	80.0	0.0
		20 代 (n= 37)	13.5	0.0	29.7	51.4	5.4
		30 代 (n= 48)	2.1	10.4	27.1	60.4	0.0
		40 代 (n= 59)	3.4	13.6	39.0	44.1	1.7
		50 代 (n= 71)	4.2	9.9	39.4	43.7	5.6
		60 代 (n= 84)	0.0	4.8	32.1	61.9	1.2

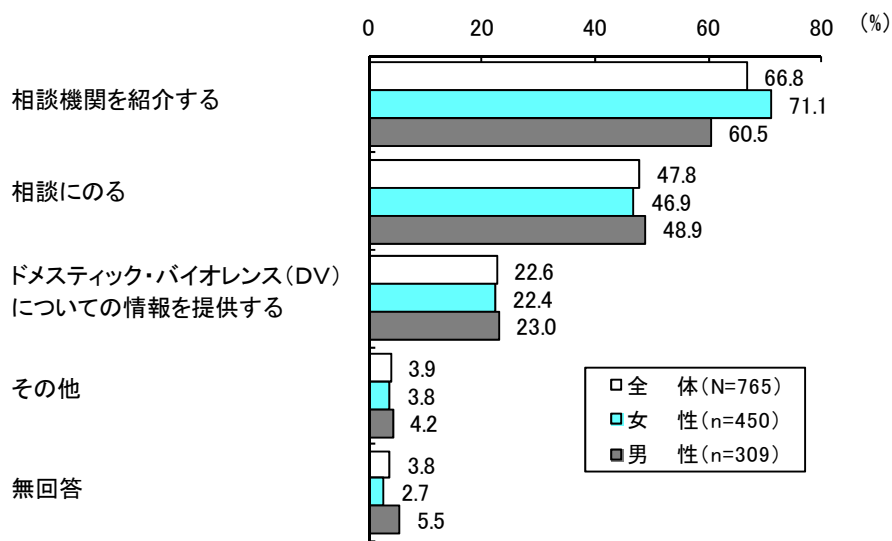
8-2 配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応

問20 あなたは、あなたの周囲でドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きした場合、どのような対応をすることが望ましいと思いますか。（いくつでも〇）

全体では、「相談機関を紹介する（66.8%）」が最も多く、「相談にのる（47.8%）」、「ドメスティック・バイオレンス（DV）についての情報を提供する（22.6%）」が続いています。

性別にみると、女性は「相談機関を紹介する」が71.1%で、男性（60.5%）を10.6ポイント上回っています。（図表8-2-①）

図表8-2-① 配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応（全体、性別：複数回答）



性・年代別にみると、「相談にのる」は、女性の20代（76.5%）は7割台ですが、女性の60代（34.5%）は3割台で、年代が上がるほど割合が低くなります。

男性の20代は「相談機関を紹介する（54.1%）」が5割台、男性の60代は「相談にのる（34.5%）」が3割台でそれぞれ全体を10ポイント以上下回っています。（図表8-2-②）

図表8-2-② 配偶者等からの暴力を見聞きした際の望ましい対応
（全体、性・年代別：複数回答）

			相談機関を紹介する	相談にのる	いオドレメの情ステイ（DツVク）にバツイ	その他	無回答
全 体 (N= 765)			66.8	47.8	22.6	3.9	3.8
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	80.0	80.0	60.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 51)	70.6	76.5	25.5	5.9	0.0
		30 代 (n= 97)	72.2	54.6	23.7	4.1	0.0
		40 代 (n= 100)	74.0	45.0	18.0	4.0	1.0
		50 代 (n= 84)	73.8	35.7	17.9	4.8	2.4
		60 代 (n= 110)	65.5	34.5	26.4	0.9	8.2
	男 性	10 代 (n= 10)	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0
		20 代 (n= 37)	54.1	56.8	27.0	0.0	8.1
		30 代 (n= 48)	60.4	58.3	22.9	6.3	0.0
		40 代 (n= 59)	59.3	57.6	22.0	3.4	1.7
		50 代 (n= 71)	62.0	46.5	28.2	4.2	5.6
		60 代 (n= 84)	63.1	34.5	20.2	6.0	10.7

8-3 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度

問21 パートナー（配偶者や恋人など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも○）

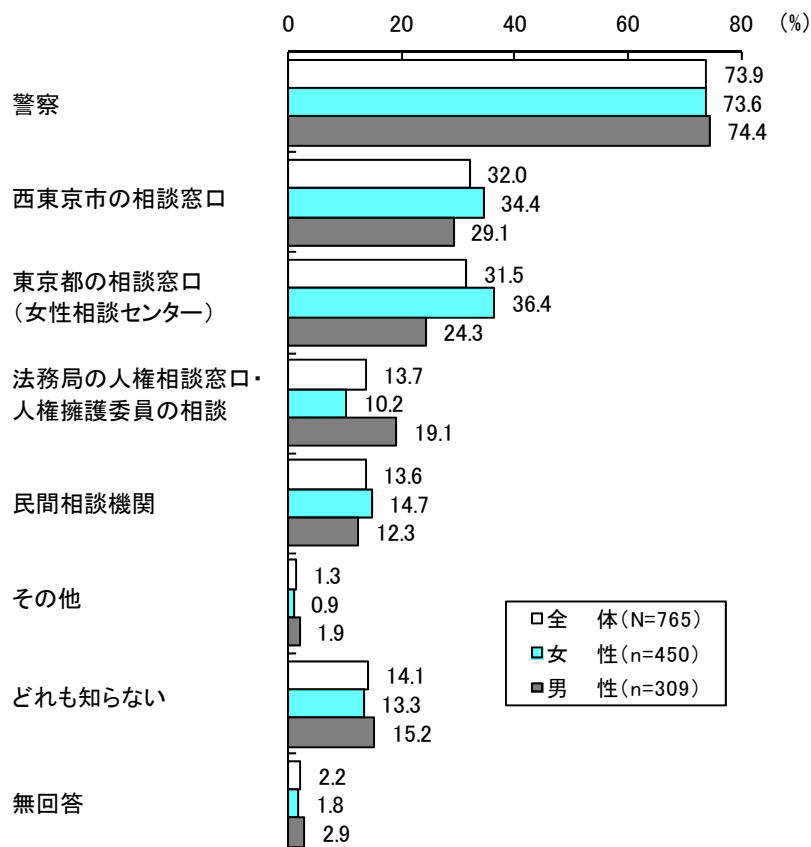
全体では、「警察(73.9%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(32.0%)」、「東京都の相談窓口（女性相談センター）(31.5%)」が続いています。

性別にみると、女性は「警察(73.6%)」が最も多く、「東京都の相談窓口（女性相談センター）(36.4%)」、「西東京市の相談窓口(34.4%)」が続いています。

男性は「警察(74.4%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(29.1%)」、「東京都の相談窓口（女性相談センター）(24.3%)」が続いています。

また、女性は「東京都の相談窓口（女性相談センター）(女性：36.4%、男性：24.3%)」で、男性を12.1ポイント上回り、男性は「法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談（女性：10.2%、男性：19.1%)」で、女性を8.9ポイント上回っています。（図表8-3-①）

図表8-3-① 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度（全体、性別：複数回答）



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性の20代から60代まで「西東京市の相談窓口」は年代が上がるほど割合が高くなっています。また、女性の20代は「民間相談機関（25.5%）」で全体を11.9ポイント上回っていますが、「どれも知らない（21.6%）」が2割台で全体に比べて高くなっています。

男性の30代は「西東京市の相談窓口（16.7%）」が1割台で全体を15.3ポイント下回っています。また、男性の50代は「法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談（29.6%）」が3割弱で全体を15.9ポイント上回っています。（図表8-3-②）

図表8-3-② 配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度（全体、性・年代別：複数回答）

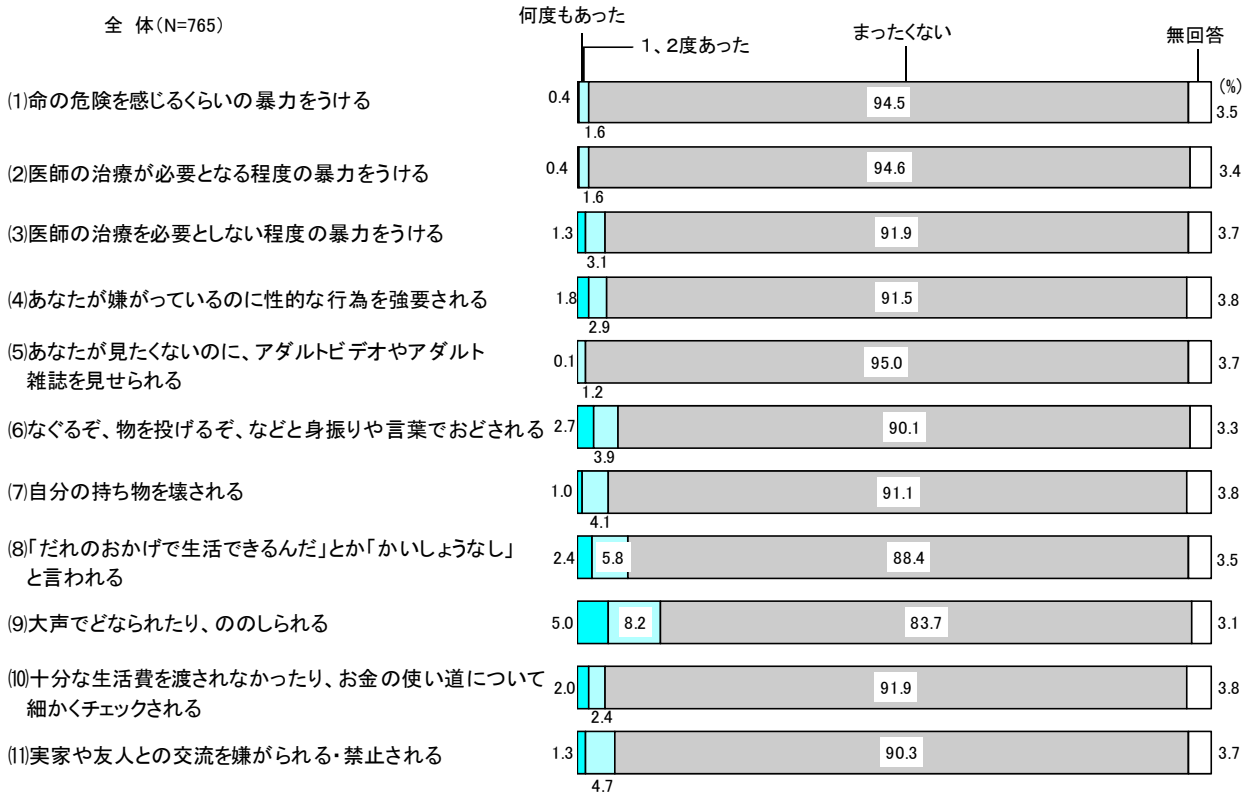
			警察	西東京市の相談窓口	東京都の相談センター（女性）	法務局の人権擁護委員の相談窓口	民間相談機関	その他	どれも知らない	無回答
全体 (N= 765)			73.9	32.0	31.5	13.7	13.6	1.3	14.1	2.2
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	60.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
		20代 (n= 51)	74.5	21.6	37.3	7.8	25.5	2.0	21.6	0.0
		30代 (n= 97)	71.1	28.9	32.0	5.2	11.3	0.0	15.5	0.0
		40代 (n= 100)	76.0	38.0	39.0	11.0	13.0	2.0	12.0	2.0
		50代 (n= 84)	76.2	38.1	36.9	9.5	17.9	0.0	10.7	3.6
		60代 (n= 110)	71.8	40.0	34.5	15.5	11.8	0.9	10.9	2.7
	男性	10代 (n= 10)	60.0	10.0	0.0	10.0	20.0	0.0	40.0	0.0
		20代 (n= 37)	78.4	27.0	21.6	16.2	21.6	2.7	13.5	5.4
		30代 (n= 48)	81.3	16.7	29.2	12.5	14.6	2.1	18.8	0.0
		40代 (n= 59)	67.8	30.5	23.7	11.9	13.6	3.4	15.3	1.7
		50代 (n= 71)	78.9	32.4	25.4	29.6	11.3	1.4	8.5	4.2
		60代 (n= 84)	71.4	35.7	25.0	21.4	6.0	1.2	16.7	3.6

8-4 配偶者等から暴力を受けた経験

問22 あなたは、これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）から、次のようなことをされたことがありますか。（1）から（11）までのそれぞれについて、お答えください。（それぞれについて、1つに〇）

全体では、「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》割合は、『大声でどなられたり、ののしられる（13.2%、101人）』が最も多く、『「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる（8.2%、62人）』、『なぐるぞ、物を投げるぞ、などと身振りや言葉でおどされる（6.6%、51人）』、『実家や友人との交流を嫌がられる・禁止される（6.0%、46人）』が続いています。（図表8-4-①）

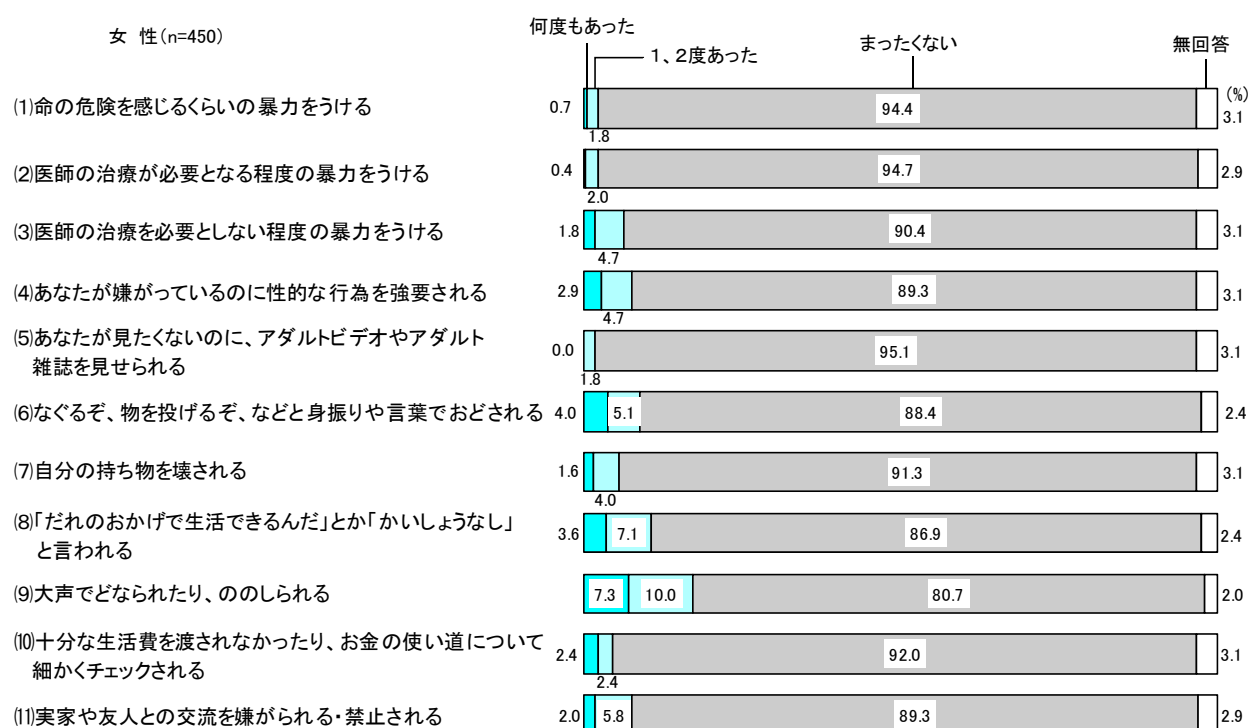
図表8-4-① 配偶者等から暴力を受けた経験（全体）



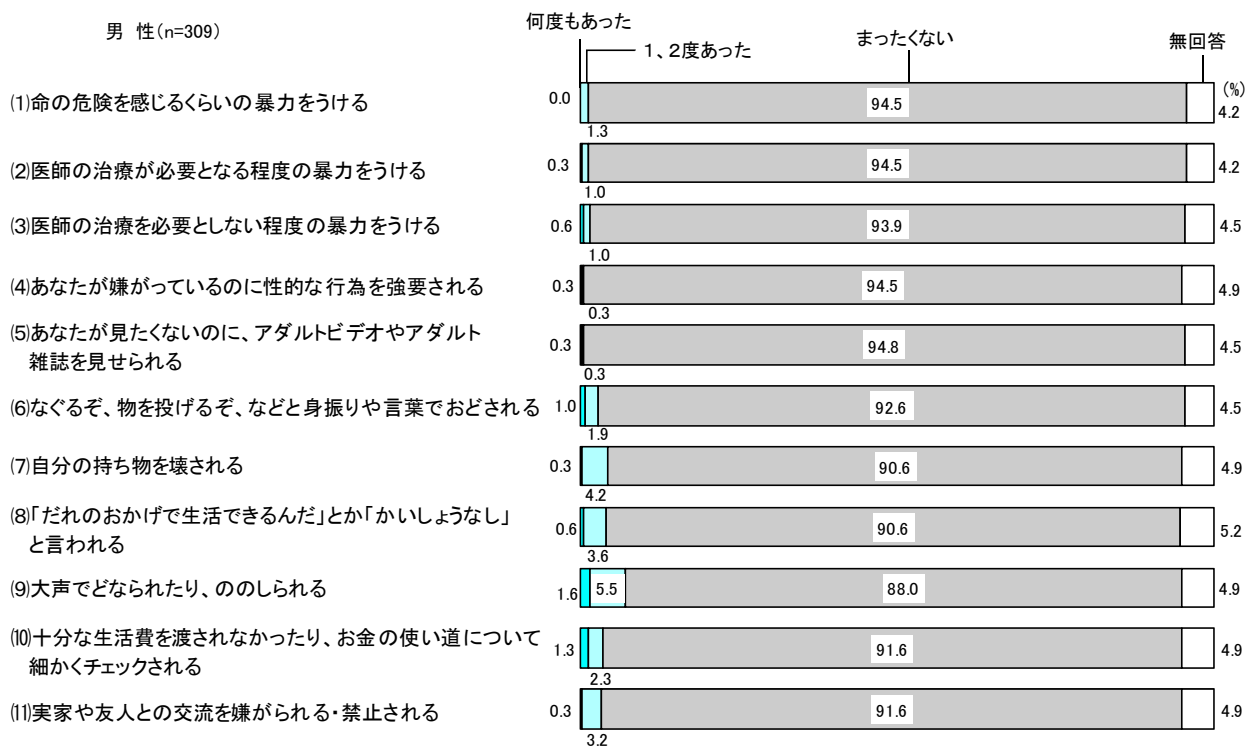
性別にみると、女性は《暴力を受けた経験がある》割合は、『大声でどなられたり、ののしられる (17.3%、78人)』が最も多く、『「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる (10.7%、48人)』、『なぐるぞ、物を投げるぞ、などと身振りや言葉でおどされる (9.1%、41人)』、『実家や友人との交流を嫌がられる・禁止される (7.8%、35人)』、『あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される (7.6%、34人)』が続いています。また、『命の危険を感じるくらいの暴力をうける』は2.5% (11人)、『医師の治療が必要となる程度の暴力をうける』は2.4% (11人) となっています。(図表8-4-②)

男性は《暴力を受けた経験がある》割合は、『大声でどなられたり、ののしられる (7.1%、22人)』が最も多く、『自分の持ち物を壊される (4.5%、14人)』、『「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる (4.2%、13人)』が続いています。また、『命の危険を感じるくらいの暴力をうける』は1.3% (4人)、『医師の治療が必要となる程度の暴力をうける』は1.3% (4人) となっています。(図表8-4-③)

図表8-4-② 配偶者等から暴力を受けた経験 (女性)



図表 8-4-③ 配偶者等から暴力を受けた経験（男性）



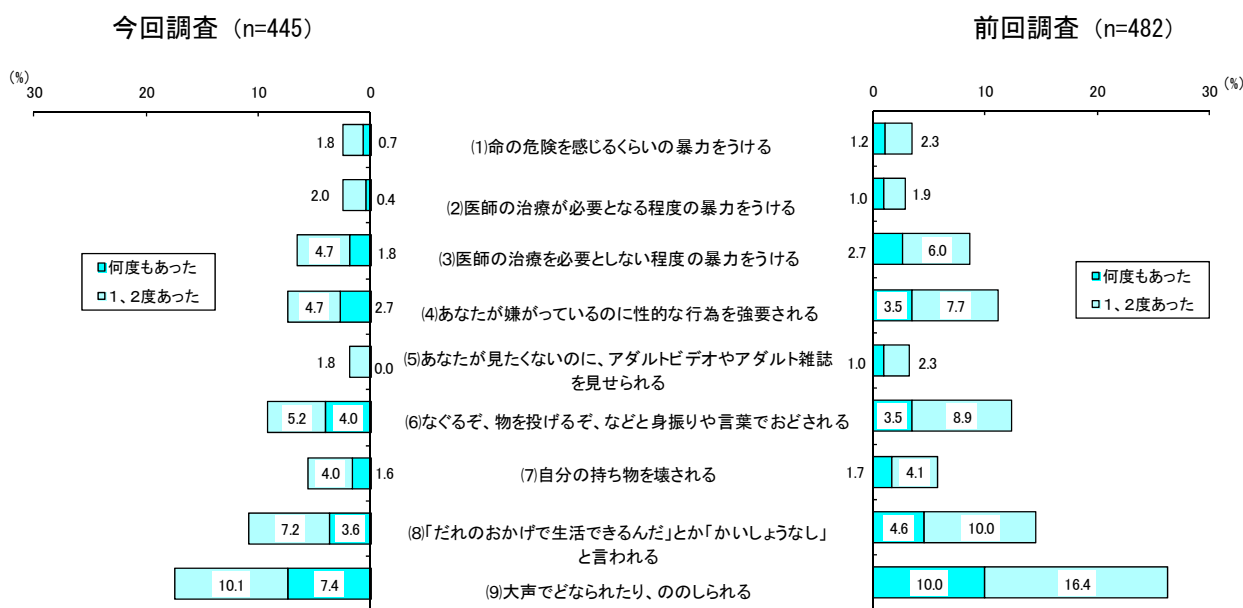
『前回調査(平成19年調査)との比較』

前回調査と比較して今回調査は、女性は「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した《暴力を受けた経験がある》割合が、すべての項目において前回調査よりも低くなっています。男性は《暴力を受けた経験がある》割合が前回調査よりも低くなっているのは9項目中6項目となっています。

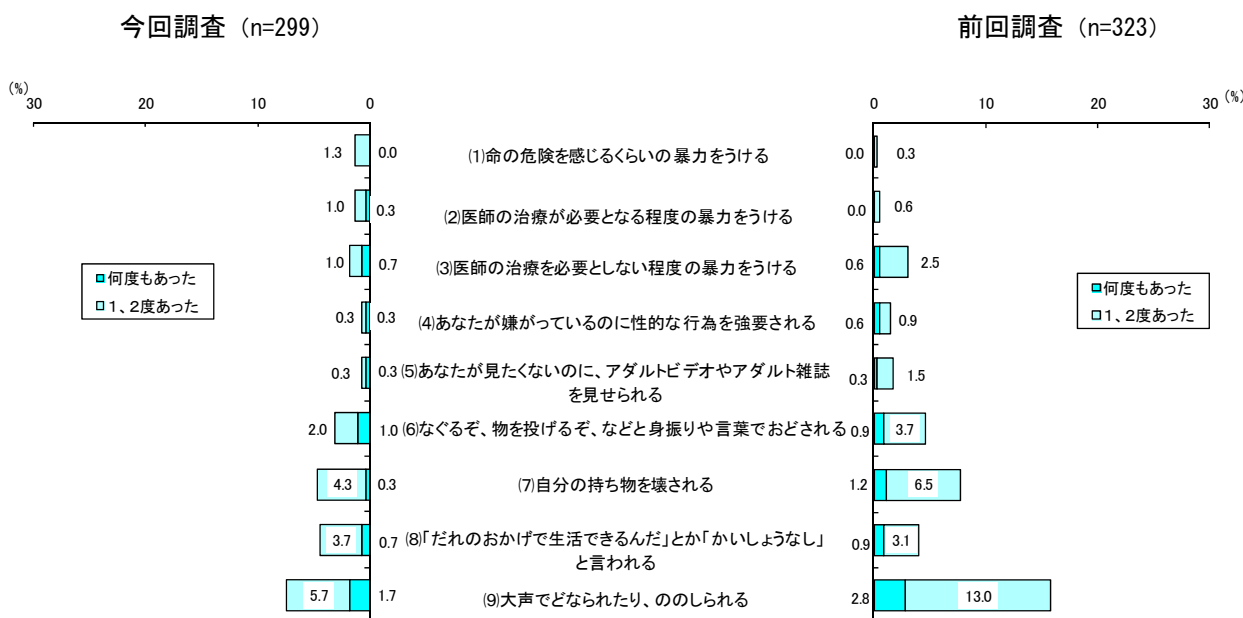
女性は《暴力を受けた経験がある》割合が前回調査に比べてとくに低くなっているのは、『あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される』、『なぐるぞ、物を投げるぞ、などと身振りや言葉でおどされる』、『大声でどなられたり、ののしられる』で、それぞれ3.8ポイント、3.2ポイント、8.9ポイント低くなっています。男性は《暴力を受けた経験がある》割合が前回に比べてとくに低くなっているのは、『自分の持ち物を壊される』、『大声でどなられたり、ののしられる』で、それぞれ3.1ポイント、8.4ポイント低くなっています。(図表8-4-④、⑤)

『前回調査(平成 19 年調査)との比較』

図表 8 - 4 - ④ 配偶者等から暴力を受けた経験(女性)【前回比較】
 <《暴力を受けた経験がある》割合>



図表 8 - 4 - ⑤ 配偶者等から暴力を受けた経験(男性)【前回比較】
 <《暴力を受けた経験がある》割合>



※(5)の「アダルトビデオやアダルト雑誌」は、前回調査では「ポルノビデオやポルノ雑誌」という表現になっています。
 ※前回調査は対象者の年齢が 20 歳以上 70 歳未満のため、今回調査も 20 歳以上 70 歳未満で再集計しています。

性・年代別に《暴力を受けた経験がある》割合をみると、『命の危険を感じるくらいの暴力をうける』は女性の20代は4.0%（2人）、40代は4.0%（4人）、50代は2.4%（2人）、60代は2.7%（3人）となっています。また、女性の60代は『大声でどなられたり、ののしられる』が20.0%（22人）で2割と多くなっています。

男性で『命の危険を感じるくらいの暴力をうける』は、20代は2.7%（1人）、40代は1.7%（1人）、50代は1.4%（1人）、60代は1.2%（1人）となっています。また男性の40代、50代は『大声でどなられたり、ののしられる』が、40代は10.2%（6人）、50代は9.8%（7人）で1割前後と多くなっています。（図表8-4-⑥）

図表8-4-⑥ 配偶者等から暴力を受けた経験（全体、性・年代別）

(1) 命の危険を感じるくらいの暴力をうける (2) 医師の治療が必要となる程度の暴力をうける

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		0.4	1.6	94.5	3.5	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	2.0	94.1	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 100)	0.0	4.0	93.0	3.0
		50代 (n= 84)	1.2	1.2	95.2	2.4
		60代 (n= 110)	0.9	1.8	90.0	7.3
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	90.0	10.0
		20代 (n= 37)	0.0	2.7	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	1.7	94.9	3.4
		50代 (n= 71)	0.0	1.4	93.0	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	1.2	92.9	6.0

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		0.4	1.6	94.6	3.4	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	2.0	96.1	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	1.0	99.0	0.0
		40代 (n= 100)	1.0	3.0	94.0	2.0
		50代 (n= 84)	0.0	1.2	95.2	3.6
		60代 (n= 110)	0.9	2.7	90.0	6.4
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	5.4	91.9	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	0.0	96.6	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	1.4	91.5	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	0.0	95.2	4.8

(3) 医師の治療を必要としない程度の暴力をうける (4) あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		1.3	3.1	91.9	3.7	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	5.9	90.2	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	4.1	94.8	1.0
		40代 (n= 100)	3.0	6.0	89.0	2.0
		50代 (n= 84)	1.2	4.8	91.7	2.4
		60代 (n= 110)	2.7	3.6	86.4	7.3
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	2.7	2.7	91.9	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	1.7	94.9	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	1.4	91.5	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	0.0	94.0	6.0

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		1.8	2.9	91.5	3.8	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	20.0	0.0	80.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	5.9	90.2	2.0
		30代 (n= 97)	1.0	4.1	94.8	0.0
		40代 (n= 100)	4.0	7.0	87.0	2.0
		50代 (n= 84)	3.6	7.1	86.9	2.4
		60代 (n= 110)	2.7	0.9	88.2	8.2
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	2.7	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	0.0	94.9	3.4
		50代 (n= 71)	0.0	0.0	93.0	7.0
		60代 (n= 84)	0.0	0.0	94.0	6.0

(5) あなたが見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せられる

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全 体 (N= 765)		0.1	1.2	95.0	3.7	
性・年代別	女 性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	0.0	98.0	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	1.0	99.0	0.0
		40代 (n= 100)	0.0	3.0	95.0	2.0
		50代 (n= 84)	0.0	1.2	95.2	3.6
		60代 (n= 110)	0.0	2.7	90.0	7.3
	男 性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	2.7	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	0.0	94.9	3.4
		50代 (n= 71)	0.0	0.0	94.4	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	0.0	94.0	6.0

(6) なぐるぞ、物を投げるぞ、などと身振りや言葉でおどされる

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全 体 (N= 765)		2.7	3.9	90.1	3.3	
性・年代別	女 性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	3.9	3.9	90.2	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	6.2	93.8	0.0
		40代 (n= 100)	3.0	5.0	90.0	2.0
		50代 (n= 84)	6.0	2.4	89.3	2.4
		60代 (n= 110)	7.3	7.3	80.0	5.5
	男 性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	0.0	97.3	2.7
		30代 (n= 48)	2.1	0.0	97.9	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	0.0	94.9	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	5.6	87.3	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	2.4	91.7	6.0

(7) 自分の持ち物を壊される

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全 体 (N= 765)		1.0	4.1	91.1	3.8	
性・年代別	女 性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	5.9	90.2	2.0
		30代 (n= 97)	1.0	3.1	95.9	0.0
		40代 (n= 100)	0.0	4.0	94.0	2.0
		50代 (n= 84)	1.2	6.0	91.7	1.2
		60代 (n= 110)	3.6	2.7	84.5	9.1
	男 性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	2.7	0.0	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	4.2	95.8	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	6.8	89.8	3.4
		50代 (n= 71)	0.0	5.6	88.7	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	3.6	89.3	7.1

(8) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全 体 (N= 765)		2.4	5.8	88.4	3.5	
性・年代別	女 性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	9.8	86.3	2.0
		30代 (n= 97)	1.0	8.2	90.7	0.0
		40代 (n= 100)	3.0	5.0	90.0	2.0
		50代 (n= 84)	6.0	8.3	84.5	1.2
		60代 (n= 110)	5.5	5.5	82.7	6.4
	男 性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	5.4	91.9	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	2.1	97.9	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	6.8	88.1	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	4.2	88.7	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	1.2	90.5	8.3

(9) 大声でどなられたり、ののしられる

(%)

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		5.0	8.2	83.7	3.1	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	7.8	7.8	82.4	2.0
		30代 (n= 97)	2.1	12.4	85.6	0.0
		40代 (n= 100)	7.0	11.0	81.0	1.0
		50代 (n= 84)	9.5	8.3	81.0	1.2
		60代 (n= 110)	10.9	9.1	74.5	5.5
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	2.7	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	4.2	4.2	91.7	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	8.5	86.4	3.4
		50代 (n= 71)	2.8	7.0	84.5	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	4.8	88.1	7.1

(10) 十分な生活費を渡されなかったり、お金の使い道について細かくチェックされる

(%)

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		2.0	2.4	91.9	3.8	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	3.9	0.0	94.1	2.0
		30代 (n= 97)	0.0	5.2	94.8	0.0
		40代 (n= 100)	3.0	2.0	93.0	2.0
		50代 (n= 84)	0.0	1.2	95.2	3.6
		60代 (n= 110)	5.5	1.8	85.5	7.3
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	2.7	0.0	94.6	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 59)	3.4	3.4	89.8	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	2.8	90.1	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	3.6	89.3	7.1

(11) 実家や友人との交流を嫌がられる・禁止される

(%)

		何度もあった	1、2度あった	まったくくない	無回答	
全体 (N= 765)		1.3	4.7	90.3	3.7	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	2.0	94.1	2.0
		30代 (n= 97)	1.0	5.2	93.8	0.0
		40代 (n= 100)	4.0	5.0	90.0	1.0
		50代 (n= 84)	1.2	2.4	92.9	3.6
		60代 (n= 110)	1.8	10.9	80.0	7.3
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	80.0	20.0
		20代 (n= 37)	0.0	0.0	97.3	2.7
		30代 (n= 48)	0.0	4.2	95.8	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	10.2	86.4	3.4
		50代 (n= 71)	1.4	2.8	90.1	5.6
		60代 (n= 84)	0.0	0.0	92.9	7.1

8-5 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験

問 22-1 問 22 で「何度もあった」「1、2度あった」に一つでも○をつけた方におたずねします。
あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。(いくつでも○)

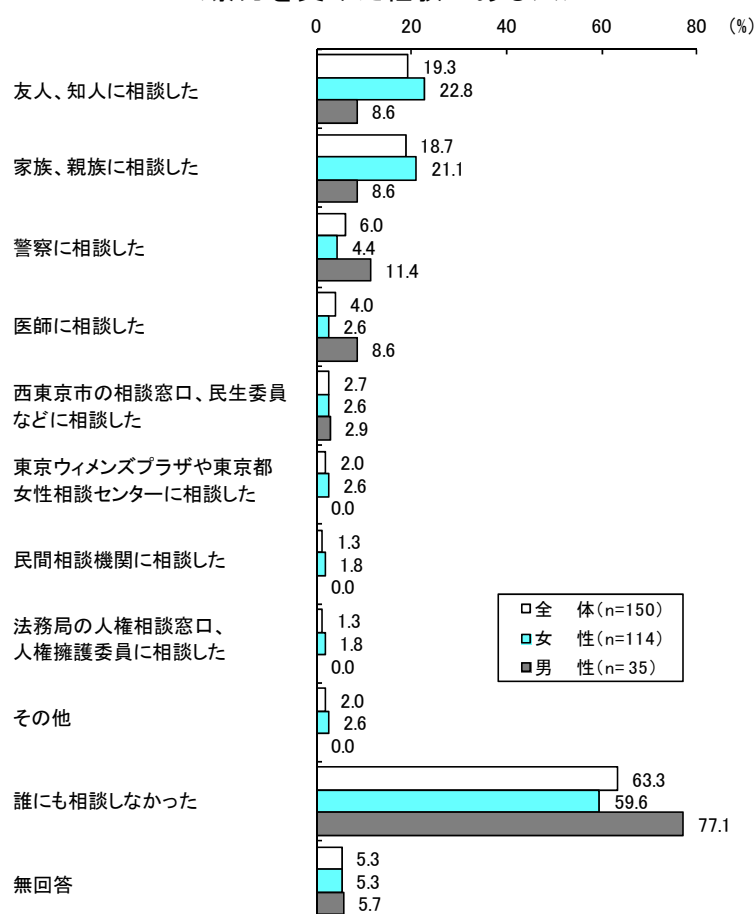
問 22 (配偶者等から暴力を受けた経験) のいずれかの項目で「何どもあった」又は「1、2度あった」と回答した人に、相談先をたずねました。

全体では、「誰にも相談しなかった」は 63.3% となっています。相談先は「友人、知人に相談した(19.3%)」が最も多く、「家族、親族に相談した(18.7%)」、「警察に相談した(6.0%)」が続いています。「西東京市の相談窓口、民生委員などに相談した」は 2.7% となっています。

性別にみると、女性は「誰にも相談しなかった」が 59.6% となっています。相談先は「友人、知人に相談した(22.8%)」が最も多く、「家族、親族に相談した(21.1%)」、「警察に相談した(4.4%)」が続いています。男性は「誰にも相談しなかった」が 77.1% となっています。相談先は「警察に相談した(11.4%)」が最も多くなっています。

男女の違いをみると、女性は「友人、知人に相談した(女性: 22.8%、男性: 8.6%)」で男性を 14.2 ポイント、「家族、親族に相談した(女性: 21.1%、男性: 8.6%)」で男性を 12.5 ポイント上回っています。また、男性は「誰にも相談しなかった(女性 59.6%、男性 77.1%)」で女性を 17.5 ポイント上回っています。(図表 8-5-①)

図表 8-5-① 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験 (全体、性別: 複数回答)
＜暴力を受けた経験がある人＞



性・年代別にみると、女性の20代は「家族、親族に相談した(33.3%)」、30代は「友人、知人に相談した(33.3%)」、「家族、親族に相談した(38.1%)」、40代は「友人、知人に相談した(32.1%)」がそれぞれ3割台と多くなっています。また、女性の50代は「誰にも相談しなかった(73.9%)」が7割を超えて多くなっています。(図表8-5-②)

図表8-5-② 配偶者等から暴力を受けた時の相談経験(全体、性・年代別:複数回答)
 <暴力を受けた経験がある人>

		友人、知人に相談した	家族、親族に相談した	警察に相談した	医師に相談した	西東京市の相談窓口、民生委員などに相談した	東京ウイメンズプラザや東京都女性相談センターに相談した	民間相談機関に相談した	法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した	その他	誰にも相談しなかった	無回答	
全 体 (n= 150)		19.3	18.7	6.0	4.0	2.7	2.0	1.3	1.3	2.0	63.3	5.3	
性・年代別	女	10代 (n= 1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
		20代 (n= 9)	11.1	33.3	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	0.0
		30代 (n= 21)	33.3	38.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0
		40代 (n= 28)	32.1	17.9	0.0	3.6	0.0	7.1	0.0	0.0	3.6	57.1	3.6
		50代 (n= 23)	13.0	17.4	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	73.9	4.3
		60代 (n= 31)	19.4	12.9	12.9	0.0	6.5	3.2	6.5	6.5	3.2	51.6	12.9
	男	10代 (n= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		20代 (n= 4)	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
		30代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		40代 (n= 9)	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	0.0
		50代 (n= 10)	20.0	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	20.0
		60代 (n= 6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

8-6 誰にも相談しなかった理由

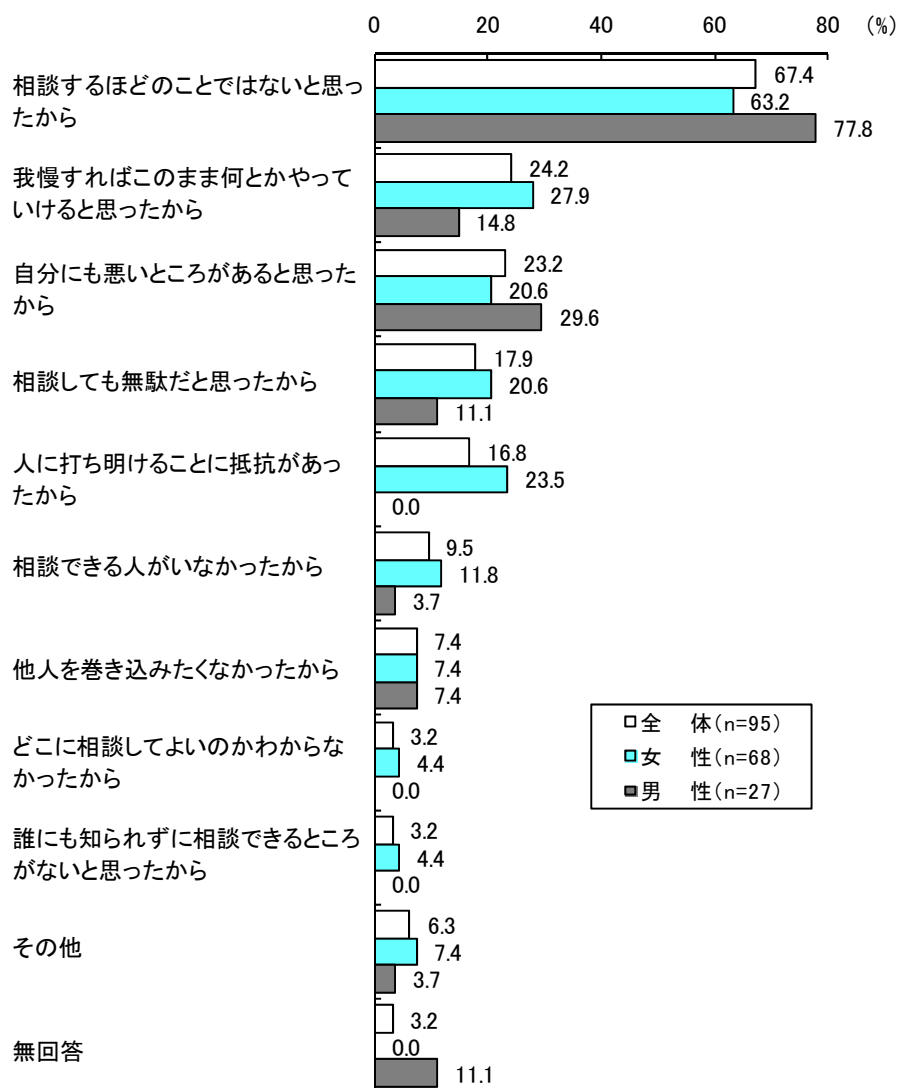
問 22-2 問 22-1 で「10 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
誰にも相談しなかった理由は何ですか。(いくつでも〇)

問 22-1 で、「誰にも相談しなかった」と回答した人に、その理由をたずねました。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(67.4%)」が最も多く、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから(24.2%)」、「自分にも悪いところがあると思ったから(23.2%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから(女性:63.2%、男性:77.8%)」が最も多くなっています。2位以下は、女性では「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから(27.9%)」、「人に打ち明けることに抵抗があったから(23.5%)」が続いています。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから(29.6%)」が続いています。(図表 8-6-①)

図表 8-6-① 誰にも相談しなかった理由(全体、性別:複数回答)
<誰にも相談しなかった人>



9 男女平等参画を進めるために必要な施策

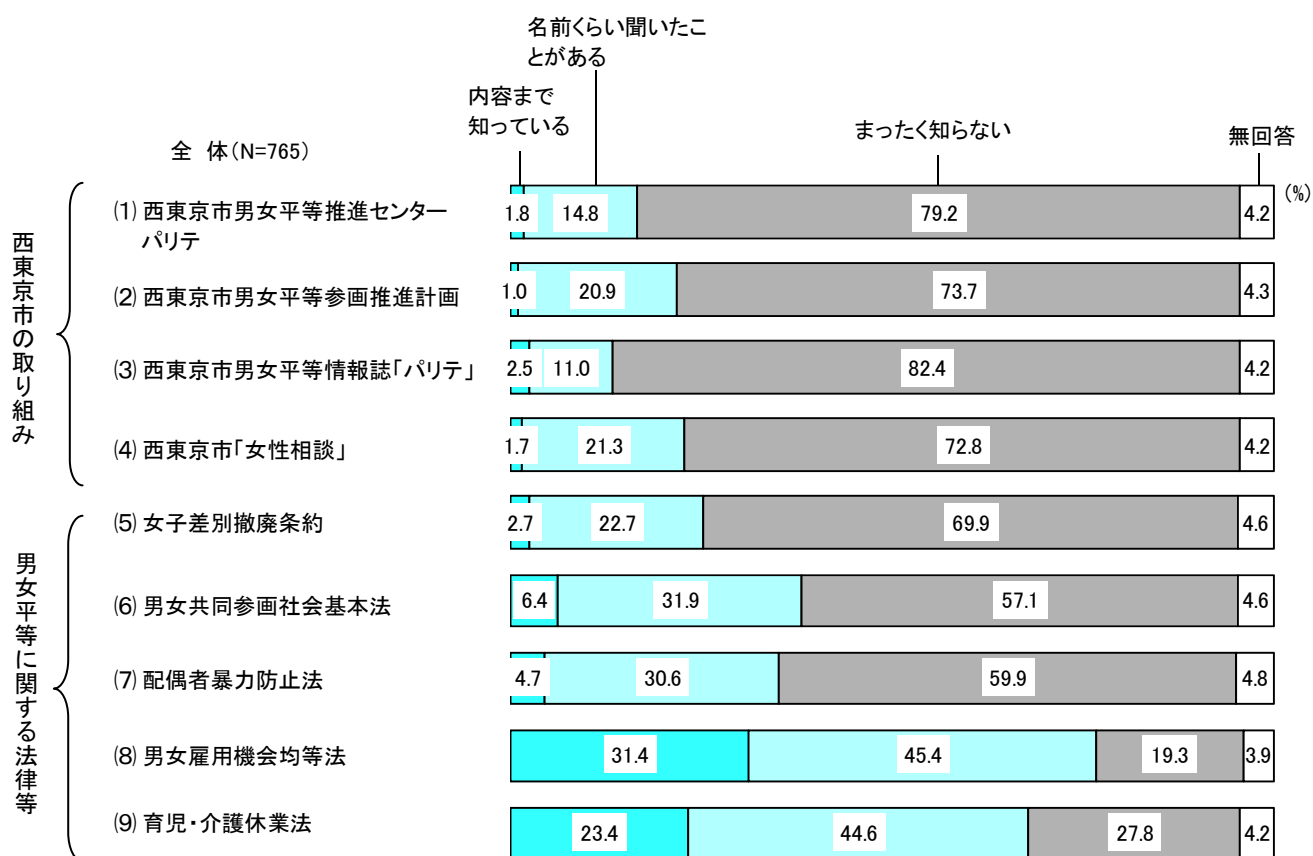
9-1 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度

問23 あなたは、以下のことがらを知っていますか。(1)から(9)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

西東京市の取り組みに関しては、「内容まで知っている」と「名前くらい聞いたことがある」を合計した《知っている》割合は、『西東京市男女平等推進センター パリテ』は16.6%、『西東京市男女平等参画推進計画』は21.9%、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』は13.5%、『西東京市「女性相談」』は23.0%となっています。

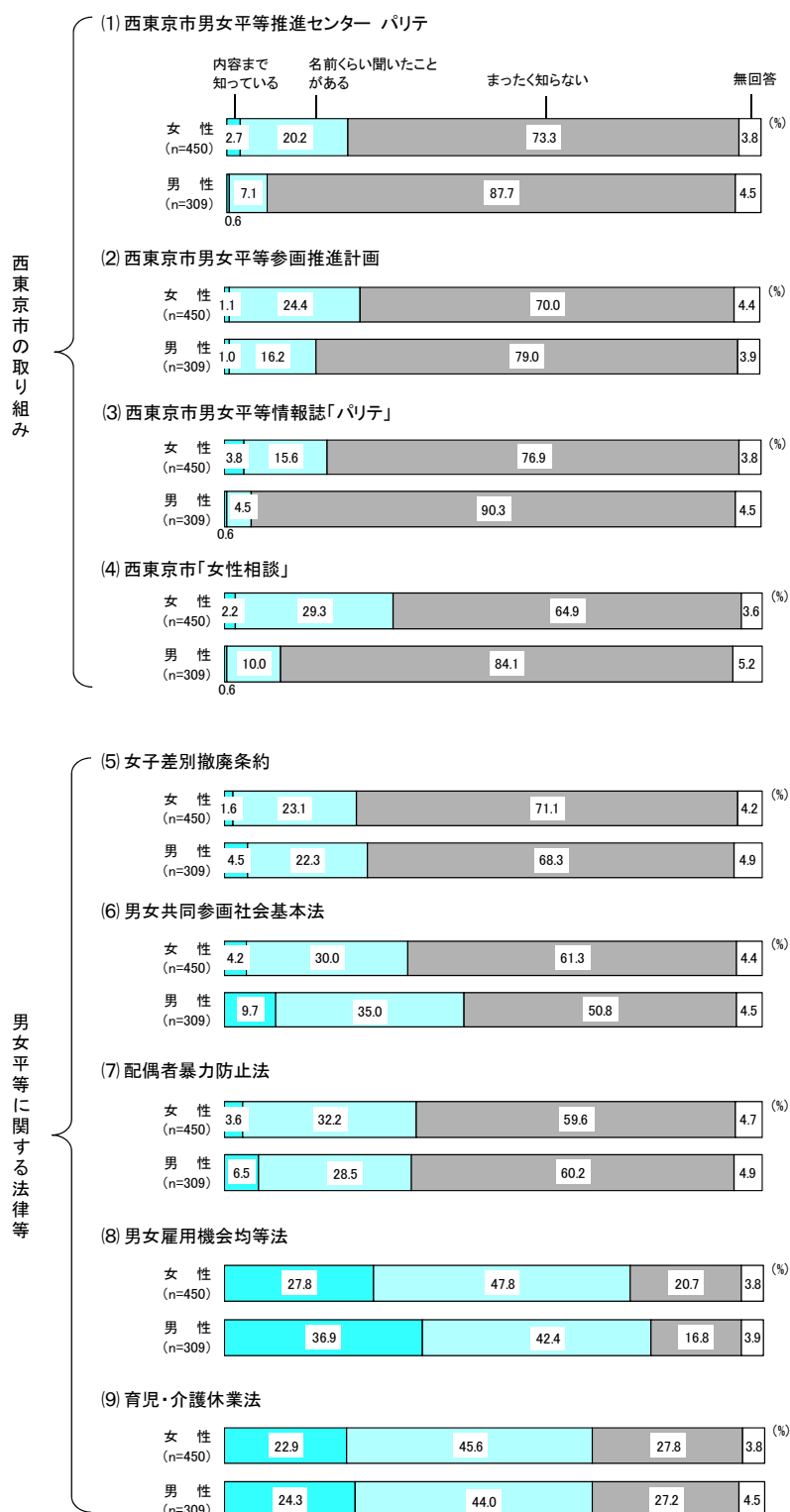
男女平等に関する法律等に関して《知っている》割合をみると、『女子差別撤廃条約』は25.4%、『男女共同参画社会基本法』は38.3%、『配偶者暴力防止法』は35.3%、『男女雇用機会均等法』は76.8%、『育児・介護休業法』は68.0%となっています。(図表9-1-①)

図表9-1-① 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度 (全体)



性別にみると、西東京市の取り組みに関して《知っている》割合は、すべての項目において女性が男性よりも高くなっており、『西東京市男女平等推進センター パリテ』、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』、『西東京市「女性相談」』は10から20ポイント上回っています。一方、男女平等に関する法律等に関して《知っている》割合は、『男女共同参画社会基本法』で男性（44.7%）が女性（34.2%）を10.5ポイント上回っています。（図表9-1-②）

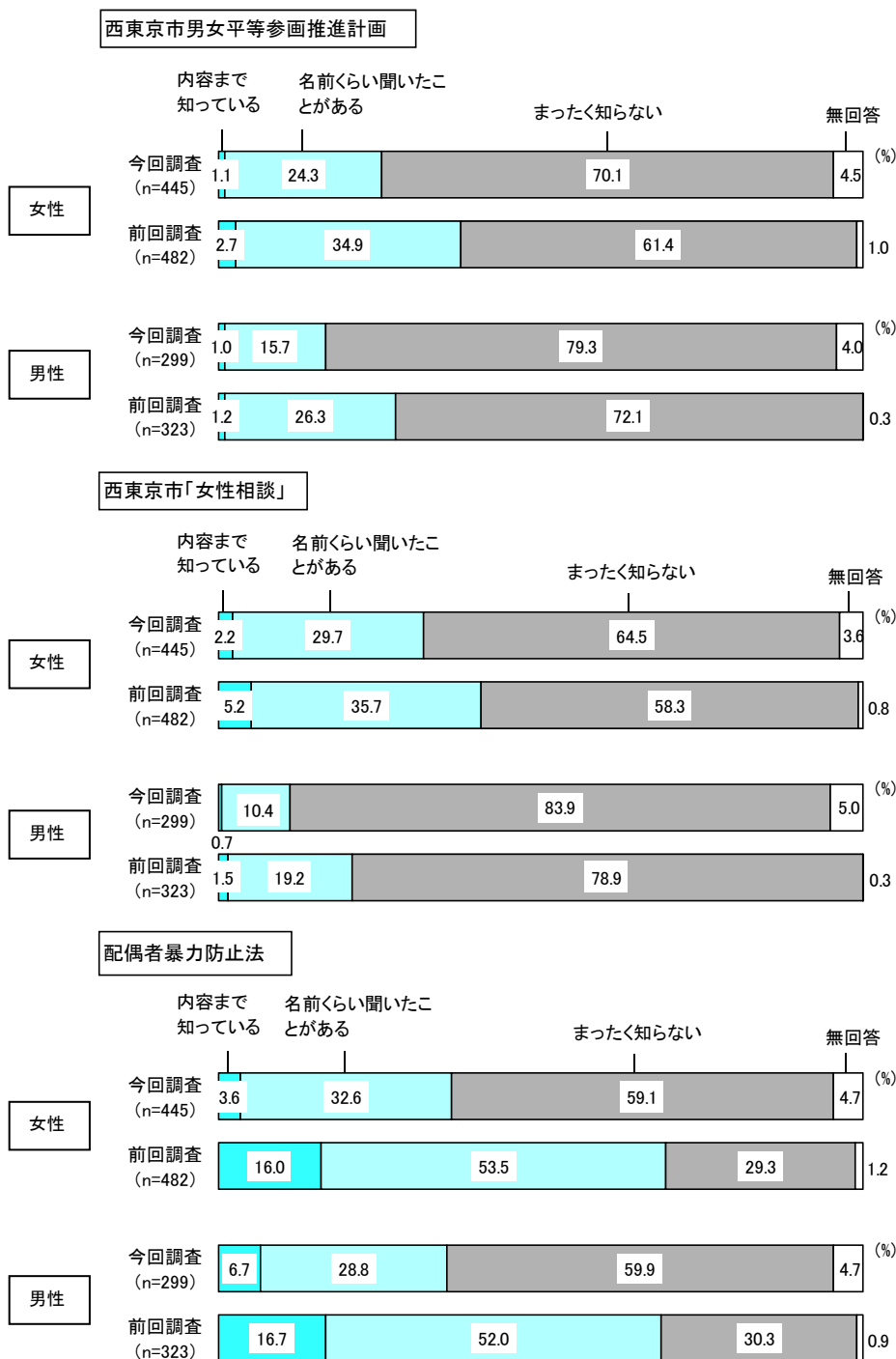
図表9-1-② 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律の認知度（性別）



『前回調査(平成 19 年調査)との比較』

『西東京市男女平等参画推進計画』、『西東京市「女性相談」』、『配偶者暴力防止法』の3項目の認知度について前回調査と比較すると、今回調査は3項目のすべてで「内容まで知っている」、「名前くらい聞いたことがある」の割合が低くなっています。(図表9-1-③)

図表9-1-③ 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度(性別)【前回比較】



※前回調査は対象者の年齢が20歳以上70歳未満のため、今回調査も20歳以上70歳未満で再集計しています。

性・年代別にみると、西東京市の取り組みに関する4つの項目について《知っている》の割合は、女性の40代は4項目すべてで全体を10ポイント以上上回っています。一方、男女ともに20代は4項目のうち3項目で全体を10ポイント以上上回り、男性の40代は4項目すべてで全体を10ポイント以上上回っています。

男女平等に関する法律等に関する5つの項目について《知っている》の割合は、男性の20代は5項目すべてで全体を5.0ポイント以上上回り、男性の50代は『女子差別撤廃条約』以外の4項目で全体を5.0ポイント以上上回っています。一方、女性の50代は『配偶者暴力防止法』以外の4項目で、男性の60代は『女子差別撤廃条約』以外の4項目で、それぞれ全体を5.0ポイント以上上回っています。（図表9-1-④）

図表9-1-④ 西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度（全体、性・年代別）

西東京市の取り組み

(1) 西東京市男女平等推進センター パリテ

		内容まで知って	名前とくがらあいる聞い	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		1.8	14.8	79.2	4.2	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	3.9	96.1	0.0
		30代 (n= 97)	1.0	25.8	72.2	1.0
		40代 (n= 100)	8.0	21.0	70.0	1.0
		50代 (n= 84)	1.2	23.8	71.4	3.6
		60代 (n= 110)	1.8	20.0	69.1	9.1
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 37)	0.0	0.0	94.6	5.4
		30代 (n= 48)	2.1	8.3	89.6	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	3.4	94.9	1.7
		50代 (n= 71)	0.0	8.5	85.9	5.6
		60代 (n= 84)	1.2	11.9	78.6	8.3

(2) 西東京市男女平等参画推進計画

		内容まで知って	名前とくがらあいる聞い	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		1.0	20.9	73.7	4.3	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	40.0	60.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	11.8	88.2	0.0
		30代 (n= 97)	0.0	18.6	81.4	0.0
		40代 (n= 100)	3.0	32.0	62.0	3.0
		50代 (n= 84)	1.2	21.4	72.6	4.8
		60代 (n= 110)	0.9	30.9	58.2	10.0
	男性	10代 (n= 10)	0.0	30.0	70.0	0.0
		20代 (n= 37)	2.7	10.8	81.1	5.4
		30代 (n= 48)	2.1	14.6	83.3	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	10.2	88.1	1.7
		50代 (n= 71)	0.0	22.5	73.2	4.2
		60代 (n= 84)	1.2	16.7	75.0	7.1

(3) 西東京市男女平等情報誌「パリティ」

(%)

		内容まで知って	名前とことがあいる	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		2.5	11.0	82.4	4.2	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	0.0	0.0	100.0	0.0
		30代 (n= 97)	5.2	13.4	81.4	0.0
		40代 (n= 100)	8.0	24.0	67.0	1.0
		50代 (n= 84)	2.4	16.7	77.4	3.6
		60代 (n= 110)	1.8	16.4	71.8	10.0
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 37)	0.0	2.7	91.9	5.4
		30代 (n= 48)	2.1	4.2	93.8	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	1.7	96.6	1.7
		50代 (n= 71)	0.0	5.6	88.7	5.6
		60代 (n= 84)	1.2	7.1	83.3	8.3

(4) 西東京市「女性相談」

(%)

		内容まで知って	名前とことがあいる	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		1.7	21.3	72.8	4.2	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	2.0	25.5	72.5	0.0
		30代 (n= 97)	2.1	23.7	74.2	0.0
		40代 (n= 100)	7.0	30.0	61.0	2.0
		50代 (n= 84)	0.0	36.9	60.7	2.4
		60代 (n= 110)	0.0	30.9	59.1	10.0
	男性	10代 (n= 10)	0.0	0.0	90.0	10.0
		20代 (n= 37)	0.0	8.1	86.5	5.4
		30代 (n= 48)	2.1	6.3	91.7	0.0
		40代 (n= 59)	0.0	8.5	89.8	1.7
		50代 (n= 71)	0.0	11.3	83.1	5.6
		60代 (n= 84)	1.2	14.3	75.0	9.5

男女平等に関する法律等

(5) 女子差別撤廃条約

(%)

		内容まで知って	名前とことがあいる	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		2.7	22.7	69.9	4.6	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	20.0	80.0	0.0
		20代 (n= 51)	3.9	27.5	68.6	0.0
		30代 (n= 97)	0.0	19.6	79.4	1.0
		40代 (n= 100)	4.0	20.0	74.0	2.0
		50代 (n= 84)	0.0	16.7	78.6	4.8
		60代 (n= 110)	0.9	32.7	57.3	9.1
	男性	10代 (n= 10)	20.0	30.0	40.0	10.0
		20代 (n= 37)	13.5	27.0	56.8	2.7
		30代 (n= 48)	6.3	25.0	68.8	0.0
		40代 (n= 59)	1.7	10.2	84.7	3.4
		50代 (n= 71)	2.8	26.8	66.2	4.2
		60代 (n= 84)	1.2	22.6	66.7	9.5

(6) 男女共同参画社会基本法

(%)

		内容まで知って	名前とことがあいる	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		6.4	31.9	57.1	4.6	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	40.0	60.0	0.0
		20代 (n= 51)	11.8	31.4	56.9	0.0
		30代 (n= 97)	2.1	19.6	78.4	0.0
		40代 (n= 100)	7.0	30.0	61.0	2.0
		50代 (n= 84)	1.2	22.6	69.0	7.1
		60代 (n= 110)	2.7	43.6	44.5	9.1
	男性	10代 (n= 10)	40.0	40.0	10.0	10.0
		20代 (n= 37)	18.9	29.7	48.6	2.7
		30代 (n= 48)	16.7	37.5	45.8	0.0
		40代 (n= 59)	6.8	25.4	66.1	1.7
		50代 (n= 71)	4.2	54.9	36.6	4.2
		60代 (n= 84)	4.8	25.0	60.7	9.5

(7) 配偶者暴力防止法

(%)

		内容まで知って	名前とくがらあいる聞い	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		4.7	30.6	59.9	4.8	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	0.0	0.0	100.0	0.0
		20代 (n= 51)	5.9	21.6	70.6	2.0
		30代 (n= 97)	1.0	27.8	71.1	0.0
		40代 (n= 100)	6.0	35.0	57.0	2.0
		50代 (n= 84)	2.4	29.8	61.9	6.0
		60代 (n= 110)	3.6	42.7	43.6	10.0
	男性	10代 (n= 10)	0.0	20.0	70.0	10.0
		20代 (n= 37)	13.5	27.0	56.8	2.7
		30代 (n= 48)	14.6	22.9	62.5	0.0
		40代 (n= 59)	3.4	30.5	64.4	1.7
		50代 (n= 71)	5.6	36.6	52.1	5.6
		60代 (n= 84)	2.4	25.0	63.1	9.5

(8) 男女雇用機会均等法

(%)

		内容まで知って	名前とくがらあいる聞い	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		31.4	45.4	19.3	3.9	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	40.0	20.0	40.0	0.0
		20代 (n= 51)	43.1	35.3	21.6	0.0
		30代 (n= 97)	28.9	47.4	23.7	0.0
		40代 (n= 100)	33.0	49.0	17.0	1.0
		50代 (n= 84)	25.0	45.2	25.0	4.8
		60代 (n= 110)	16.4	57.3	17.3	9.1
	男性	10代 (n= 10)	50.0	40.0	0.0	10.0
		20代 (n= 37)	45.9	40.5	10.8	2.7
		30代 (n= 48)	47.9	33.3	18.8	0.0
		40代 (n= 59)	37.3	50.8	10.2	1.7
		50代 (n= 71)	39.4	43.7	12.7	4.2
		60代 (n= 84)	22.6	41.7	28.6	7.1

(9) 育児・介護休業法

(%)

		内容まで知って	名前とくがらあいる聞い	まったく知らない	無回答	
全体 (N= 765)		23.4	44.6	27.8	4.2	
性・年代別	女性	10代 (n= 5)	60.0	20.0	20.0	0.0
		20代 (n= 51)	33.3	35.3	31.4	0.0
		30代 (n= 97)	22.7	42.3	35.1	0.0
		40代 (n= 100)	28.0	46.0	25.0	1.0
		50代 (n= 84)	16.7	44.0	33.3	6.0
		60代 (n= 110)	17.3	55.5	19.1	8.2
	男性	10代 (n= 10)	10.0	60.0	20.0	10.0
		20代 (n= 37)	29.7	45.9	21.6	2.7
		30代 (n= 48)	29.2	33.3	37.5	0.0
		40代 (n= 59)	27.1	45.8	25.4	1.7
		50代 (n= 71)	28.2	49.3	18.3	4.2
		60代 (n= 84)	15.5	41.7	33.3	9.5

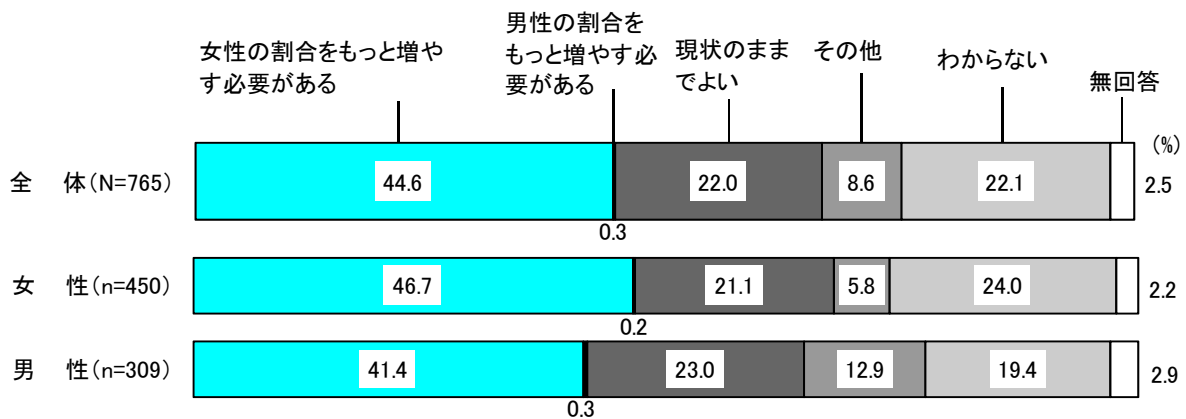
9-2 市の審議会と市議会における女性の割合への考え

問 24 西東京市では、市の審議会における女性委員の割合は 34.1%、市議会における女性議員の割合は 28.6% (平成 24 年 7 月 1 日現在) となっています。あなたはこの数字をどのように思いますか。(1つに○)

全体では、「女性の割合をもっと増やす必要がある」が 44.6%、「男性の割合をもっと増やす必要がある」が 0.3%、「現状のままでよい」が 22.0%となっています。

性別にみると、女性も男性も「女性の割合をもっと増やす必要がある (女性：46.7%、男性：41.4%)」が 4 割を超えています。(図表 9-2-①)

図表 9-2-① 市の審議会と市議会における女性の割合への考え (全体、性別)



性・年代別にみると、女性の 20 代、30 代は「女性の割合をもっと増やす必要がある」が 5 割を超えて多くなっています。男性の 50 代は「女性の割合をもっと増やす必要がある (57.7%)」が 5 割後半と多くなっています。なお「その他」には〔公平な目で見て男女の区別なく優秀な人材を採用すべき (男性、20 代)〕といった意見があがっています。(図表 9-2-②)

図表 9-2-② 市の審議会と市議会における女性の割合への考え (全体、性・年代別)

			増やす必要がある (%)	増やす必要はない (%)	現状のままでよい (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全 体 (N= 765)			44.6	0.3	22.0	8.6	22.1	2.5
性・年代別	女	10 代 (n= 5)	20.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0
		20 代 (n= 51)	52.9	0.0	21.6	13.7	11.8	0.0
		30 代 (n= 97)	50.5	0.0	23.7	4.1	21.6	0.0
		40 代 (n= 100)	42.0	0.0	16.0	7.0	34.0	1.0
		50 代 (n= 84)	42.9	0.0	22.6	3.6	28.6	2.4
		60 代 (n= 110)	47.3	0.9	22.7	3.6	19.1	6.4
性・年代別	男	10 代 (n= 10)	30.0	0.0	10.0	10.0	50.0	0.0
		20 代 (n= 37)	35.1	0.0	21.6	21.6	21.6	0.0
		30 代 (n= 48)	31.3	0.0	25.0	18.8	25.0	0.0
		40 代 (n= 59)	40.7	0.0	20.3	18.6	18.6	1.7
		50 代 (n= 71)	57.7	0.0	18.3	5.6	14.1	4.2
		60 代 (n= 84)	38.1	1.2	29.8	8.3	16.7	6.0

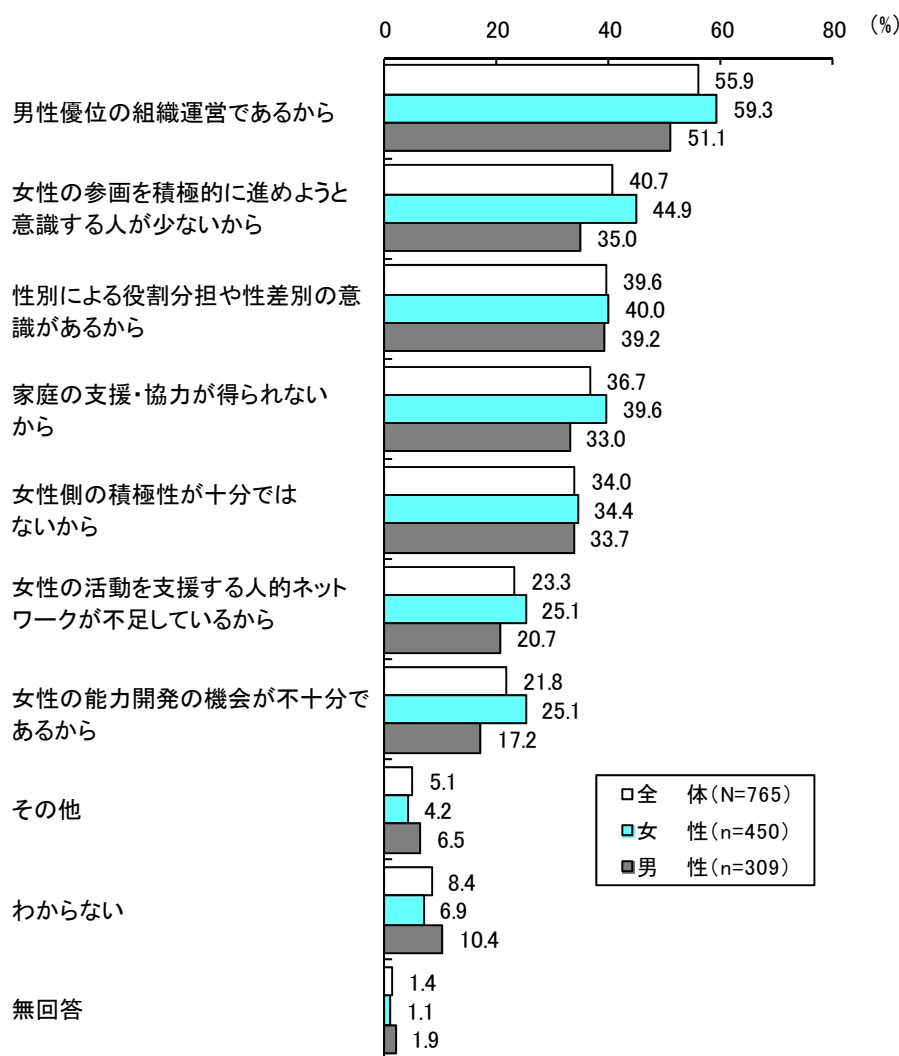
9-3 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由

問 25 政治や企業・地域活動など、あらゆる分野において政策や方針決定過程への女性の参画が少ない状況です。その理由は何だと思えますか。(いくつでも〇)

全体では、「男性優位の組織運営であるから(55.9%)」が最も多く、「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから(40.7%)」、「性別による役割分担や性差別の意識があるから(39.6%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は全体と同じですが、「男性優位の組織運営であるから(女性:59.3%、男性:51.1%)」、「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから(女性:44.9%、男性:35.0%)」は、それぞれ女性が男性を8.2ポイント、9.9ポイント上回っています。(図表9-3-①)

図表9-3-① 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由(全体、性別:複数回答)



性・年代別にみると、女性の20代は「女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから(52.9%)」、50代は「性別による役割分担や性差別の意識があるから(52.4%)」がそれぞれ全体を12.2ポイント、12.8ポイント上回っています。

男性の50代は「性別による役割分担や性差別の意識があるから(54.9%)」が全体を15.3ポイント以上上回っています。また、男性の30代は「女性の能力開発の機会が不十分であるから(4.2%)」が全体を17.6ポイント下回っています。(図表9-3-②)

図表9-3-② 政策や方針決定過程に女性の参画が少ない理由(全体、性・年代別：複数回答)

		男性優位の組織運営であるから	と女性の参画を積極的に進めよう意識する人が少ないから	性別による役割分担や性差別の意識があるから	家庭の支援・協力が得られないから	女性側の積極性が十分ではないから	女性の活動が不足している人的ネットワーク	女性の能力開発の機会が不十分であるから	その他	わからない	無回答	
全 体 (N= 765)		55.9	40.7	39.6	36.7	34.0	23.3	21.8	5.1	8.4	1.4	
性・年代別	女 性	10 代 (n= 5)	80.0	60.0	80.0	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 51)	49.0	52.9	43.1	45.1	35.3	25.5	25.5	7.8	5.9	0.0
		30 代 (n= 97)	55.7	37.1	39.2	44.3	26.8	23.7	24.7	4.1	7.2	0.0
		40 代 (n= 100)	63.0	45.0	32.0	43.0	39.0	24.0	18.0	6.0	5.0	0.0
		50 代 (n= 84)	63.1	41.7	52.4	44.0	35.7	27.4	25.0	4.8	7.1	0.0
		60 代 (n= 110)	60.0	50.0	34.5	28.2	36.4	25.5	30.9	0.9	8.2	4.5
	男 性	10 代 (n= 10)	0.0	10.0	20.0	20.0	20.0	10.0	20.0	0.0	40.0	0.0
		20 代 (n= 37)	43.2	27.0	37.8	27.0	29.7	27.0	16.2	10.8	10.8	0.0
		30 代 (n= 48)	43.8	25.0	25.0	22.9	35.4	16.7	4.2	10.4	18.8	0.0
		40 代 (n= 59)	57.6	39.0	47.5	39.0	33.9	10.2	15.3	8.5	8.5	1.7
		50 代 (n= 71)	62.0	47.9	54.9	43.7	38.0	23.9	19.7	4.2	4.2	2.8
		60 代 (n= 84)	51.2	33.3	31.0	29.8	32.1	26.2	23.8	3.6	8.3	3.6

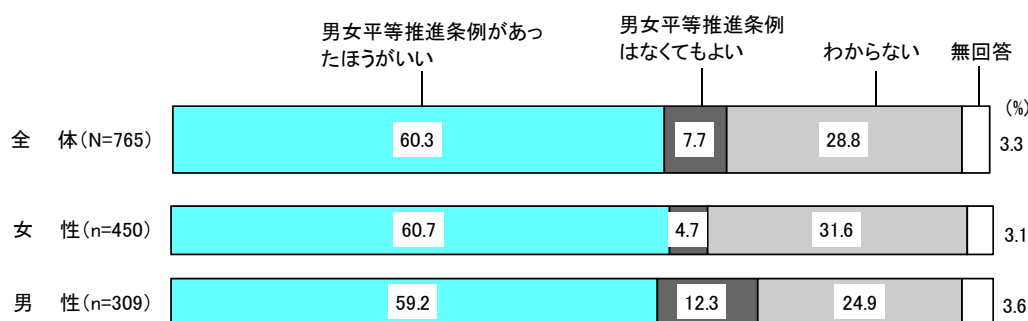
9-4 男女平等推進条例制定についての意向

問 26 国が男女共同参画社会基本法を制定した後、多くの自治体では男女共同参画条例（地方自治体が定める法）を制定し、各々独自の男女平等参画社会のしくみづくりを進めています。現在西東京市には、「男女平等参画条例」がありません。あなたは条例の制定についてどのように思いますか。（1つに○）

全体では、「男女平等推進条例があったほうがいい」が 60.3%、「男女平等推進条例はなくてもよい」が 7.7%、「わからない」が 28.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女平等推進条例があったほうがいい（女性：60.7%、男性：59.2%）」は約 6 割となっています。また、「男女平等推進条例はなくてもよい（女性：4.7%、男性：12.3%）」は男性が女性を 7.6 ポイント上回っています。（図表 9-4-①）

図表 9-4-① 男女平等推進条例制定についての意向（全体、性別）



性・年代別にみると、女性の 30 代は「男女平等推進条例があったほうがいい（69.1%）」が約 7 割と多くなっています。男性の 20 代は「男女平等推進条例はなくてもよい（21.6%）」が 2 割台と多くなっています。（図表 9-4-②）

図表 9-4-② 男女平等推進条例制定についての意向（全体、性・年代別）

		あ 男 つ 女 た ほ 等 う 推 が 進 い 条 例 が	な 男 く 女 て も 等 推 進 条 例 は	わ か ら な い	無 回 答	
全 体 (N= 765)		60.3	7.7	28.8	3.3	
性 ・ 年 代 別	女 性	10 代 (n= 5)	60.0	20.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 51)	58.8	9.8	31.4	0.0
		30 代 (n= 97)	69.1	1.0	28.9	1.0
		40 代 (n= 100)	61.0	2.0	35.0	2.0
		50 代 (n= 84)	60.7	2.4	33.3	3.6
		60 代 (n= 110)	53.6	9.1	30.0	7.3
男 性	10 代 (n= 10)	50.0	0.0	50.0	0.0	
	20 代 (n= 37)	54.1	21.6	21.6	2.7	
	30 代 (n= 48)	62.5	12.5	25.0	0.0	
	40 代 (n= 59)	57.6	13.6	25.4	3.4	
	50 代 (n= 71)	62.0	9.9	23.9	4.2	
60 代 (n= 84)	59.5	10.7	23.8	6.0		

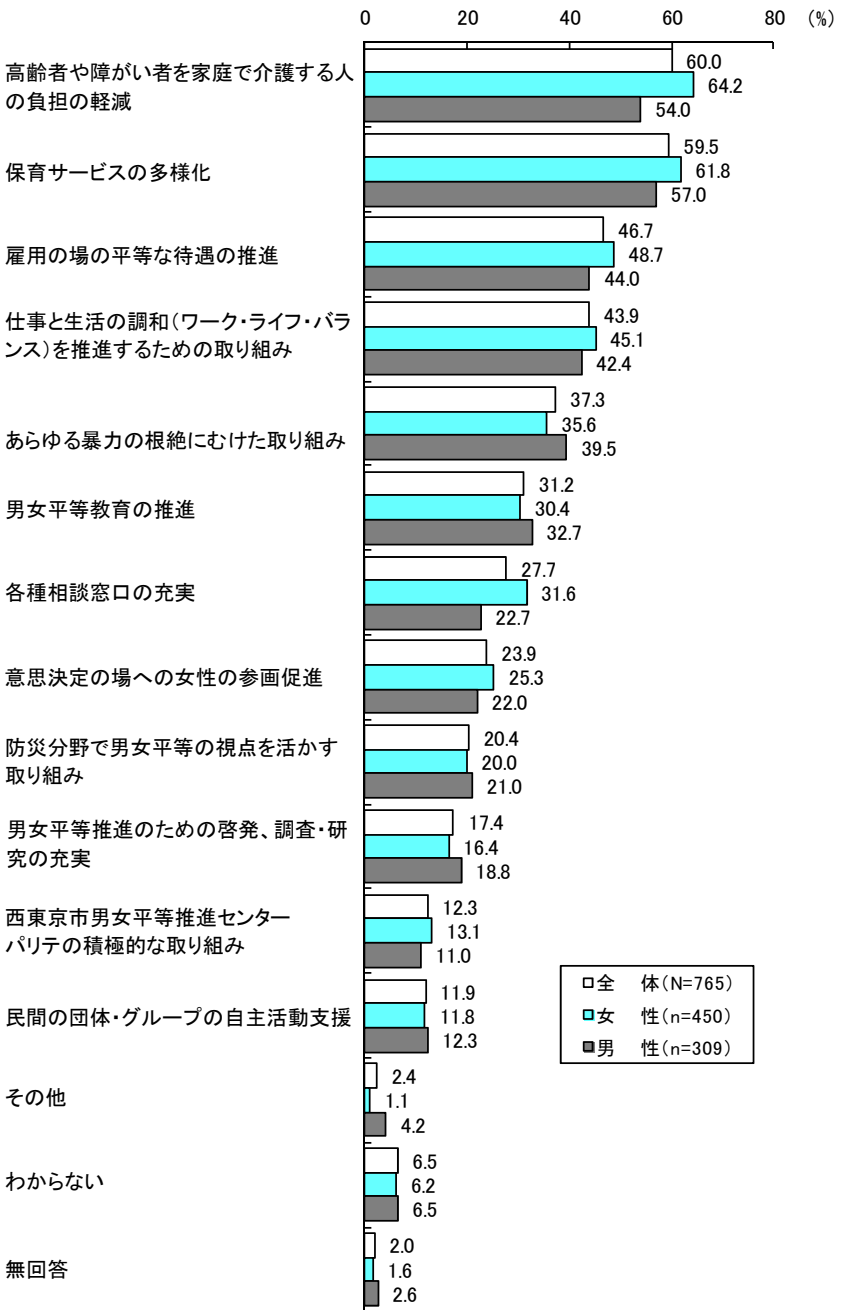
9-5 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策

問27 男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。(いくつでも○)

全体では、「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(60.0%)」が最も多く、「保育サービスの多様化(59.5%)」、「雇用の場の平等な待遇の推進(46.7%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入替わりはあるものの上位3項目は同じですが、女性は「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(女性:64.2%、男性:54.0%)」で男性を10.2ポイント上回っています。また、「各種相談窓口の充実(女性:31.6%、男性:22.7%)」も女性が男性を8.9ポイント上回っています。(図表9-5-①)

図表9-5-① 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策(全体、性別:複数回答)



Ⅲ 調査結果

性・年代別にみると、女性の20代は「保育サービスの多様化(78.4%)」、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するための取り組み(62.7%)」、「各種相談窓口の充実(41.2%)」、「男女平等推進のための啓発、調査・研究の充実(29.4%)」、30代は「保育サービスの多様化(79.4%)」、60代は「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(72.7%)」がそれぞれ全体を10ポイント以上上回っています。

男性の20代は「意思決定の場への女性の参画促進(37.8%)」、「防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み(32.4%)」、60代は「男女平等推進のための啓発、調査・研究の充実(27.4%)」がそれぞれ全体を10ポイント以上上回っています。なお、男性の40代の「その他」には、「広報活動の充実」などの意見があがっています。(図表9-5-②)

図表9-5-② 西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策
(全体、性・年代別：複数回答)

			高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減	保育サービスの多様化	雇用の場の平等な待遇の推進	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するための取り組み	あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	男女平等教育の推進	各種相談窓口の充実	意思決定の場への女性の参画促進	防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み	男女平等推進のための啓発、調査・研究の充実	西東京市男女平等推進センターパリティの積極的な取り組み	民間の団体・グループの自主活動支援	その他	わからない	無回答
全 体 (N= 765)			60.0	59.5	46.7	43.9	37.3	31.2	27.7	23.9	20.4	17.4	12.3	11.9	2.4	6.5	2.0
性・年代別	女	10 代 (n= 5)	60.0	80.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 51)	60.8	78.4	49.0	62.7	47.1	21.6	41.2	23.5	17.6	29.4	7.8	11.8	2.0	5.9	0.0
		30 代 (n= 97)	54.6	79.4	50.5	50.5	32.0	29.9	21.6	25.8	18.6	14.4	8.2	8.2	2.1	5.2	0.0
		40 代 (n= 100)	62.0	57.0	51.0	45.0	35.0	33.0	32.0	23.0	16.0	15.0	13.0	13.0	2.0	9.0	1.0
		50 代 (n= 84)	67.9	58.3	48.8	44.0	33.3	27.4	33.3	26.2	17.9	11.9	13.1	8.3	0.0	6.0	3.6
		60 代 (n= 110)	72.7	45.5	44.5	33.6	36.4	35.5	34.5	27.3	26.4	16.4	20.0	16.4	0.0	4.5	2.7
	男	10 代 (n= 10)	20.0	30.0	30.0	40.0	30.0	30.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0
		20 代 (n= 37)	51.4	56.8	51.4	48.6	45.9	24.3	13.5	37.8	32.4	27.0	16.2	13.5	5.4	8.1	2.7
		30 代 (n= 48)	47.9	68.8	29.2	43.8	35.4	31.3	16.7	25.0	25.0	8.3	6.3	8.3	2.1	10.4	0.0
		40 代 (n= 59)	52.5	55.9	42.4	40.7	37.3	33.9	22.0	11.9	15.3	15.3	6.8	6.8	13.6	6.8	3.4
		50 代 (n= 71)	54.9	63.4	43.7	50.7	43.7	36.6	23.9	28.2	19.7	15.5	11.3	12.7	2.8	2.8	2.8
		60 代 (n= 84)	63.1	48.8	52.4	33.3	38.1	33.3	32.1	16.7	20.2	27.4	15.5	17.9	0.0	4.8	3.6

10 自由回答

問 28 において、西東京市の男女平等に向けての取り組みについて意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、127 件の回答をいただきました。いただいた回答の中から類似した意見について集約し、件数とともにまとめています。

(1) 男女平等参画の意識について (41 件)

<男女平等の推進について> (18 件)

- ・ 女性にばかり焦点を当てていても、本当の平等は得られないと思う。常に男性と女性を視野に入れ、両性の能力の可能性と限界を冷静に把握することが必要だと思う。(男性、10代)
- ・ 男性の視点では届かないような部分が、いい意味で女性の進出によって補えるのであれば、女性をもっと前へ出していくべきだと思うし、現時点でも、まだまだ女性の活躍の場、女性に対する意識は低いのではないかと思う。行政ではそこそこ進んでいるかと思うが、民間ではまだまだ。(女性、20代)
- ・ こうしたアンケートや男女平等についての資料等を、実際男性が直接目にする機会が少ないと思います。今現在、働き盛りの男性たちは会社中心の生活を送っており、家にいる時間が少なく、こうしたことに意識が向いてないのが現状です。企業での取り組みも同時に行っていない限り、現状を変えるのは難しいのでは？と思いました。(女性、30代)
- ・ 小学校や中学校が男女ほぼ同数であった様に社会のそれぞれの組織にも男女を同数にすべきだと思います。男性からと女性からの視点は異なりそれぞれ役割も違います。両方の視点から考慮して、良い物ができると思います。(女性、30代)
- ・ いくら制度を作っても、それを積極的に活用していこうという風潮がない限り、個人レベルでは、打開できない問題が多いと感じます。そういった、日本特有の問題を変えていくべく、西東京市が先進的に日本国内の自治体をリードできるように進めていってほしいです。(男性、40代)
- ・ 男性が中心とか女性が中心とかではなく、もともと男性と女性では、考えることや、決断する視点が違うので、それぞれの特徴を生かせたら良いのでは？男性は結果重視だし、女性は始まりから終わりまで、こと細かい流れがある。そこをうまくできれば良いのですが、難しいですね。(女性、50代)

<女性が仕事を持つことについて> (12 件)

- ・ 私の以前働いていた会社は、女性の方が男性より多かったのに、役職に就くのは大半が男性で、それが当たり前になっていて、納得できないと思っていました。男女平等といってもまったく平等ではなく、女性には家事、育児、介護などの負担があるので、それも考慮した能力として見てもらえたらいいなと思います。(女性、30代)
- ・ 女性が差別されているといわれることが多いが、職場ではそうでもない場合もあるのではないかと。例えば育児休暇をとる女性が増えていると思うが、休暇や時短という働き方

をフォローしているのは誰か。周りの男性社員の負担が増え、女性社員は厳しい仕事をせずにお気楽に働いているのに「働く女性」と気取り権利だけを主張していることがある。しわ寄せが独身女性や男性社員にきている。「男女平等」が1人歩きし、反論もできず逆差別が起きていることもある。(女性、40代)

<男女平等の意識について> (11件)

- ・ 男女不平等といわれているものの主な原因は、昔から人々の意識の根底にある、男が仕事をして女が家事をするという縦割分担にあると思います。なので男性が家事をし、女性が男性に家事をまかせてやれるような制度、逆に女性がその給料だけで家族を養っていけるような制度をつくるべきだと思います。(男性、10代)
- ・ 「男女平等」ということにあまり意識していなかったが、平等って何だろうかと思う。すべてのことが同等になることなのか、女性としての考え方やあり方が反映されることなのか。ただ、物事にはそれぞれ向き、不向きがあってやはり男性的な考え方が必要とされること、また女性的考えや視点が必要となることがあると思う。形式的に平等になるのではなく男性、女性がそれぞれの能力や視点、考え方を持ちより支え合える社会になることが大切ではないか。「平等」を求めるってなんか軽い感じがする。(女性、30代)

(2) 男女平等参画を進めるために必要な施策について (21件)

<市政への要望> (13件)

- ・ 広い範囲でいろいろな考えを持った市民が参加し考えを述べ合う機会を作ってはどうか。(女性30代)
- ・ 社会全体の男女平等が実現する必要があるが、まずは行政から男女共同参画できる機会を率先してはどうか、例えば、市職員の女性職員数を増やす、市長も女性アドバイザー制度を設ける、議会議員も女性の定数を設けるなど…できる事から率先できると良い。(男性、50代)
- ・ 女性職員を増やすこと、女性の市長、市役所の部長課長に、女性を起用した方がいい。(男性、60代)

<情報の周知／収集・広報について> (8件)

- ・ 今まで市として様々な取り組みがあったことすら気がつかなかった。近い将来、就職すると、男女平等についてより考えることになると思うので、法律、市の取り組みなど様々なものを参考にし、自分なりの考えをまとめておこうと思う。(男性、20代)
- ・ 活動状況が、あまり知れ渡っていない感じがある。(女性、60代)

(3) 家事・育児・介護への支援について (17件)

- ・ 男性も子育てをするのがあたりまえの世界を日本でもつくるべき。女性は子どもを産んだ後、もっと働きやすいような環境にないと全然変わらない。もっと他の国のように女性が男性と平等に扱われないと、まだまだ日本は変わらないと思う。(女性、20代)

-
- ・ まずは子どもを預けられなければ、社会へは参加できない訳で早急に、保育園、幼稚園を増やし、サービスの多様化をお願いします。(女性、30代)
 - ・ 働きたい女性が多いのに保育の場が少なく、小学4年生からは学童にも預けられない。留守番をさせるには不安があり、結局働けない。放課後教室のようなことをしても役員としての仕事が増え、女性が働くのが難しくなるだけだと思う。もっと、他県の良い事例を学んで欲しい。(女性、30代)
 - ・ 西東京市は、勤務地より居住地としての性格が強いと思われるので、保育サービスや高齢者介護サービスを充実させ、女性の家庭での負担を軽減させるような環境整備を進めることにより、女性の社会進出をうながすことが西東京市に求められる施策ではないかと思います。(男性、30代)
 - ・ 保育サービスを充実させることは就業能力のある若い力を集める原動力になります。高い教育を受け、それを社会に還元し、次世代につないでいくためには、安心して子どもを預けられる場所が必要です。負のスパイラルに陥った日本を救う方法の一つだと思います。(女性、40代)

(4) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について（6件）

- ・ 女性は男性にはできない出産等があります。赤ちゃんを産んだから、じゃあ保育所に入れて男性と同じように仕事を始めるということではなく、ある程度子どもが大きくなるまでは、しっかり母と子の絆をつくるためにも一緒にいる時間が長くなる方が良いと思います。保育所を増やすばかりではなく、子どもが小さく大事な時に一緒にいられるシステムを。(女性、30代)
- ・ 保育サービスの多様化が、単なる保育時間の延長や休日保育、病児保育の増加にならないような取り組みを望みます。まずは、家庭内での男女平等（主に男性側の家事参加や育児参加）が実現することが大切だと思います。(女性、40代)
- ・ ここ数年勤務先でも積極的にワーク・ライフ・バランスについて取り上げられる機会が増えていきます。西東京市でもぜひ市民目線に立ったより具体的な取り組みをお願いできればと思います。広報やできれば一般紙の地域欄で具体的な取り組みを取り上げてもらうとありがたいと思います。大変な取り組みで苦勞も多いと思いますが、チャレンジ精神を十分に発揮してください。(男性、50代)
- ・ 女性の家事労働をもっと“仕事”として認めるべきではないでしょうか。なぜなら家政婦を雇ったとしたら労働＝賃金が発生するからです。女性が社会進出するのはよいことだと思いますが、そのことによって子育てがおろそかになり家庭がおきざりになってはならないと思います。(女性、60代)

(5) 人権について (3件)

- ・ 男女平等にここまで力を入れているとは知りませんでした。個人的な意見ですが、そこまで取り組む問題ではないと思います。男女不平等である例が知りたいほどです。この問題とDVがつながる理由も、私個人としては、よくわかりません。差別されていると思ったことは一度もありません。(女性、20代)
- ・ 道徳の授業を復活させ、小学生から中学生へDVをする子を育てない取り組みを行う。(女性30代)
- ・ どんな場所、場面での男女平等をめざしているのか、アンケートを進めるうちによくわからなくなってきました。社会参画なのか、家庭内なのか。単なる社内地位なのか…すべては連なっていますが、ケースバイケースで答えは違うと思います。特にDVは男女平等とは違う犯罪として問うべきだと感じました。(男性、40代)

(6) 地域とのつながりについて (1件)

- ・ 現在、別居の両親の介護のため、仕事は細々と続けていますが、地域活動などは参加できない状態です。仕事優先の親族に代わって、介護中心の生活です。種々の活動をしていくには、自分自身の時間の確保が課題です。(女性、50代)

(7) その他 (38件)

<アンケート調査について> (17件)

- ・ 今まで全く関心を持っていなかったが、このアンケートで関心を持った。何か機会があれば、取り組みに協力しようと思いました。(男性、20代)
- ・ このようにアンケートを書いておりますが、ただのアンケートにならないように、市で決めた事だったら、変わってきているのが市民にわかる(伝わる)ようにしないと、書いた人たちに結局何も変わっていないよねと言われてしまいます。ここまで進んできたのだとわかるように期待しております。(女性、40代)

<男女平等を推進する意味がわからない> (3件)

- ・ 取り組み前のメリット、デメリット、取り組み後のメリット、デメリットがわかりません。(女性、50代)

<セクシャルマイノリティについて> (1件)

- ・ 私の友人にはTS(性同一性障害)の方もいるので、男女だけでなく一人の人間としての生き方への支援をお願いしたいです。(女性、20代)

<その他> (17件)

- ・ 西東京市で生まれ育ったが、市が何をやっているか、わからないことだらけというのが本音です。若い者も何か関わるものができたらいいかなと思います。(女性、20代)



参考資料 調査票及び集計結果

あなたの声を 西東京市の男女平等参画まちづくりへ！

—調査協力のお願い—

西東京市では、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりを推進しています。めざしている社会の実現には、市民の皆様をはじめ、企業や市民団体、行政が一体となって取り組むことが必要です。

その取り組みの中で、来年度「第3次男女平等参画推進計画」を策定することとなりました。計画策定にあたっては、裏ページの計画策定までのスケジュールに沿って市民や団体の皆さんからもご意見を伺う予定です。その一環として本調査では満18歳以上70歳未満までの2,000人の方を対象に意識と実態を伺わせていただきます。

調査対象者は無作為抽出で選ばせていただき、ご回答いただいた結果は統計的にまとめるため、無記名での回答であり、皆様の個人情報やプライバシーを侵害することはありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成24(2012)年10月

西東京市長 坂口 光治

《ご記入にあたってのお願い》

1. 調査票及び返信用封筒に、あなたの住所・お名前などを記入する必要はありません。
2. 質問中の「あなた」とは、あて名のご本人を指しています。あて名のご本人の方についてご回答をお願いします。
3. お答えは、あてはまる番号に○印を付けてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入が終わりましたら、返信用封筒にこの調査票を入れて、10月22日(月)までにご投函ください。なお、封筒には切手を貼っていただく必要はありません。

この調査について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、裏ページには計画策定までのスケジュールを掲載しましたので、ご覧ください。

＜お問い合わせ先＞

西東京市 生活文化スポーツ部
協働コミュニティ課 男女平等推進係

住 所：〒202-0005 西東京市住吉町6-15-6 住吉会館内
男女平等推進センター パリテ

TEL：042-439-0075 FAX：042-422-5375 (共通)

E-MAIL：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp

この調査の結果については、市報、市のホームページ、男女平等情報誌「パリテ」等でお知らせする他、男女平等推進センター パリテでも掲示します。――是非ご覧ください！

西東京市第3次男女平等参画推進計画策定までのスケジュール

- 平成 24 年 10 月 市民意識・実態調査を実施します
11 月 職員意識・実態調査を実施します
- 平成 25 年 2 月 男女平等推進センター パリテ「パリテまつり」の会場にて、
以上の調査結果をパネルにて発表します
11 月 パブリックコメント、市民説明会を実施します
ここでいただいたご意見をもとに計画を再調整します
- 平成 26 年 3 月 西東京市第3次男女平等参画推進計画を策定します

第5回 パリテまつりを開催します

西東京市男女平等推進センター パリテの愛称の「パリテ」はフランス語で“平等な”という意味です。

パリテでは、女性も男性もすべての人がいきいきと自立して元気に学び合えるよう市民の方と協働で毎年「パリテまつり」を開催しています。

今年は次のように開催します。ご来場をお待ちしています。

～女性・男性、手を取りあえる社会とは…？～

会 場：住吉会館 ルピナス

【パネル展示】

内容：男女平等推進に関連するパネル展示のほか市民調査結果のパネル展示

日時：平成 25 年 1 月 27 日（日）～2 月 8 日（金）

【講演会】

講師：山本コウタローさん

日時：平成 25 年 2 月 3 日（日）14:00～16:00 （13:30 開場）

会場：住吉会館 4 階大広間

【その他】

各講座、リサイクルバザー、喫茶、軽食、雑貨販売

日時：平成 25 年 2 月 2 日（土）・3 日（日）

※詳細につきましては市報、市のホームページ、男女平等情報誌「パリテ」等でお知らせします

あなたについておたずねします

問1 あなたの性別は

(N=765)

1 女性 58.8% 2 男性 40.4% 無回答 0.8%

問2 あなたの年齢は

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性		全体	女性	男性
1 10代	2.0%	1.1%	3.2%	4 40代	20.8%	22.2%	19.1%
2 20代	11.5%	11.3%	12.0%	5 50代	20.3%	18.7%	23.0%
3 30代	19.0%	21.6%	15.5%	6 60代	25.4%	24.4%	27.2%
				無回答	1.2%	0.7%	0.0%

問3 あなたのご家族の構成は次のどれにあたりますか。(1つに○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性		全体	女性	男性
1 単身 (一人世帯)	9.9%	6.7%	14.9%	5 三世代世帯 (自分と子どもと孫)	1.2%	1.6%	0.6%
2 夫婦のみ	20.7%	21.3%	20.1%	6 三世代世帯 (親と自分と子ども)	4.4%	4.7%	4.2%
3 二世帯世帯 (自分と親)	15.4%	12.2%	20.4%	7 三世代世帯 (祖父母と親と自分)	1.4%	0.7%	2.6%
4 二世帯世帯 (自分と子ども)	42.1%	48.2%	34.0%	8 その他 〔具体的に： 〕	3.8%	4.4%	2.9%
				無回答	1.0%	0.2%	0.3%

問4 あなたと一緒に暮らしている次のようなご家族がいらっしゃいますか。ただしお子さんについてはあなたのお子さん(配偶者の子を含む)についてお答えください。(いくつでも○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性		全体	女性	男性
1 乳幼児 (3歳未満の子ども)	9.9%	11.8%	7.4%	6 19歳以上の 子ども	23.9%	26.2%	21.0%
2 未就学児 (3歳以上小学校入学前の子ども)	7.5%	7.6%	7.4%	7 パートナー (配偶者、恋人)	44.2%	50.7%	35.6%
3 小学生	13.5%	15.6%	10.7%	8 介護を必要と する方	3.8%	3.3%	4.5%
4 中学生	8.1%	9.6%	6.1%	9 あてはまるよう な家族はいない	26.0%	18.7%	37.2%
5 高校生 (その年齢に該当する場合を含む)	7.2%	8.0%	6.1%	無回答	4.8%	3.1%	5.5%

問5 あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。(1から4の1つに○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 北東部地域(富士町、ひばりが丘北、中町、栄町、東町、北町、下保谷)	21.2%	21.8%	20.7%
2 中部地域(田無町、泉町、住吉町、北原町、保谷町)	23.8%	21.8%	27.2%
3 西部地域(芝久保町、西原町、緑町、谷戸町、ひばりが丘)	28.0%	29.6%	26.2%
4 南部地域(向台町、南町、新町、柳沢、東伏見)	26.1%	26.7%	25.9%
無回答	0.9%	0.2%	0.0%

日ごろからの男女平等参画の意識についておたずねします

問6 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)から(8)までのそれぞれについて、お答えください。

(それぞれについて、1つに○)

			男性の方が非常に	どちらかといえば	男女の地位は平等	どちらかといえば	女性の方が非常に	無回答
			優遇されている	優遇されている	なっている	優遇されている	優遇されている	
全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)								
	(1) 家庭生活の場で	全体 女性 男性	6.4% 9.3% 2.3%	36.5% 43.6% 26.2%	42.2% 36.9% 49.8%	9.8% 6.4% 14.6%	1.6% 1.3% 1.9%	3.5% 2.4% 5.2%
	(2) 職場で	全体 女性 男性	14.0% 18.2% 7.4%	44.8% 47.3% 41.1%	29.7% 25.1% 36.6%	5.4% 4.0% 7.4%	0.4% 0.2% 0.6%	5.8% 5.1% 6.8%
	(3) 学校教育の場で	全体 女性 男性	1.6% 2.0% 1.0%	14.8% 18.0% 10.0%	68.2% 66.0% 71.5%	4.4% 4.0% 5.2%	0.5% 0.2% 1.0%	10.5% 9.8% 11.3%
	(4) 地域社会(町会、自治会など)で	全体 女性 男性	5.0% 6.2% 2.9%	33.1% 38.4% 25.6%	47.8% 43.1% 54.7%	5.0% 4.0% 6.5%	0.4% 0.4% 0.3%	8.8% 7.8% 10.0%
	(5) 政治の場で	全体 女性 男性	33.2% 39.8% 23.9%	46.5% 47.1% 45.6%	13.7% 8.2% 21.4%	1.4% 0.7% 2.6%	0.0% 0.0% 0.0%	5.1% 4.2% 6.5%
	(6) 法律や制度の上で	全体 女性 男性	10.6% 14.2% 5.5%	38.7% 46.4% 26.9%	36.3% 28.0% 48.5%	6.8% 5.1% 9.4%	1.3% 0.4% 2.6%	6.3% 5.8% 7.1%
	(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで	全体 女性 男性	23.3% 29.3% 14.6%	56.6% 56.9% 56.3%	12.2% 8.0% 17.8%	3.0% 1.8% 4.9%	0.5% 0.2% 1.0%	4.4% 3.8% 5.5%
	(8) 社会全体では	全体 女性 男性	11.1% 15.3% 5.2%	61.2% 64.0% 57.3%	19.3% 14.0% 26.5%	4.4% 3.3% 6.1%	0.5% 0.2% 1.0%	3.4% 3.1% 3.9%

問7 結婚・家庭・離婚などについて多様な考えがありますが、次にあげるようなことについて、あなたはどのように思いますか。(1)から(4)までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

			賛成	賛成とどちらか	反対とどちらか	反対	無回答
				えらば	えらば		
全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)							
	(1) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	全体 女性 男性	6.8% 5.3% 8.4%	43.1% 42.0% 45.0%	29.5% 31.3% 27.2%	17.0% 18.4% 14.9%	3.5% 2.9% 4.5%
	(2) 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	全体 女性 男性	7.1% 5.8% 8.7%	39.2% 40.2% 37.9%	33.2% 33.1% 33.7%	16.7% 17.3% 15.5%	3.8% 3.6% 4.2%
	(3) 男性は結婚したら、自分自身のことより、妻や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	全体 女性 男性	12.5% 10.7% 14.9%	52.4% 54.4% 49.5%	23.8% 23.6% 24.6%	7.5% 7.8% 6.8%	3.8% 3.6% 4.2%
	(4) 結婚生活を維持するための努力を互いに行えない場合には、離婚もやむを得ない	全体 女性 男性	29.4% 30.9% 27.5%	44.7% 46.2% 42.7%	17.4% 16.7% 18.1%	5.0% 3.3% 7.1%	3.5% 2.9% 4.5%

問8 女性が仕事をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

(1つに〇)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 結婚や出産にかかわらず、仕事もち続けた方がよい(職業継続型)	30.1%	32.2%	27.5%
2 結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい(中断再就職型)	55.2%	55.3%	54.4%
3 子どもができたらずやめて、その後仕事をもたない方がよい(出産退職型)	3.8%	3.1%	4.9%
4 結婚したらやめて、その後仕事をもたない方がよい(結婚退職型)	1.2%	0.7%	1.9%
5 生涯仕事をもたない方がよい(生涯専業主婦型)	0.3%	0.4%	0.0%
6 その他〔具体的に： 無回答	6.8% 2.7%	6.9% 1.3%	6.8% 4.5%

日ごろの生活についておたずねします

問9 あなたは結婚されていますか(結婚は事実婚も含みます)。(1つに〇)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 結婚している	68.1%	74.9%	58.6%
2 結婚していない	22.2%	15.3%	32.0%
3 結婚していたが、離・死別した	8.0%	8.7%	6.8%
無回答	1.7%	1.1%	2.6%

問9-1にもお答えください

問10へお進みください

問9-1 問9で「1 結婚している」と答えた方におたずねします。
ご夫婦は共働きですか(パート等も含みます)。(1つに〇)

全体(n=521) 女性(n=337) 男性(n=181)

	全体	女性	男性
1 自分も配偶者も働いている	49.7%	48.1%	52.5%
2 自分のみ働いている	15.4%	3.6%	37.0%
3 配偶者のみ働いている	25.5%	38.0%	2.8%
4 自分も配偶者も働いていない	9.0%	10.1%	7.2%
無回答	0.4%	0.3%	0.6%



問10 あなたのご家庭では、次にあげるような家事・育児・介護等を主にどなたがしていますか。(1)から(9)までのそれぞれについて、お答えください。

(それぞれについて、1つに○)

		主に私	主に配偶者	主に母親	主に父親	主に娘	主に息子	家族で分担	その他の人	無回答
全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)										
(1) 掃除・洗濯	全体	50.2%	18.6%	12.7%	0.1%	0.0%	0.0%	12.8%	0.7%	5.0%
	女性	74.9%	1.6%	7.6%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	4.9%
	男性	14.2%	43.4%	20.1%	0.3%	0.0%	0.0%	15.2%	1.6%	5.2%
(2) 日用品の買い物	全体	50.5%	18.2%	12.3%	0.7%	0.0%	0.0%	13.2%	0.5%	4.7%
	女性	74.9%	1.8%	8.4%	0.2%	0.0%	0.0%	10.2%	0.0%	4.4%
	男性	14.9%	42.1%	17.5%	1.3%	0.0%	0.0%	17.8%	1.3%	5.2%
(3) 食事の支度	全体	50.8%	21.8%	14.1%	0.4%	0.3%	0.0%	6.9%	0.7%	5.0%
	女性	76.4%	2.0%	9.1%	0.2%	0.4%	0.0%	6.7%	0.2%	4.9%
	男性	13.6%	50.8%	21.0%	0.6%	0.0%	0.0%	7.4%	1.3%	5.2%
(4) 食事の後かたづけ、 食器洗い	全体	47.8%	18.7%	11.4%	0.7%	0.5%	0.0%	15.2%	0.5%	5.2%
	女性	69.3%	4.2%	7.3%	0.2%	0.7%	0.0%	12.9%	0.4%	4.9%
	男性	16.5%	39.8%	17.2%	1.3%	0.3%	0.0%	18.4%	0.6%	5.8%
(5) 子どもの世話やしつけ	全体	35.3%	12.7%	9.0%	0.3%	0.1%	0.1%	14.4%	1.8%	26.3%
	女性	54.4%	0.9%	5.3%	0.0%	0.2%	0.2%	12.7%	1.1%	25.1%
	男性	7.1%	29.8%	14.6%	0.6%	0.0%	0.0%	17.2%	2.6%	28.2%
(6) 日常の家計管理	全体	49.2%	23.0%	12.2%	2.5%	0.3%	0.0%	6.8%	0.3%	5.9%
	女性	67.6%	11.1%	8.9%	0.9%	0.2%	0.0%	6.4%	0.0%	4.9%
	男性	22.7%	40.5%	16.8%	4.5%	0.3%	0.0%	7.1%	0.6%	7.4%
(7) 家具・家電品などの修理	全体	39.5%	28.5%	2.1%	7.1%	0.3%	0.5%	8.6%	6.3%	7.2%
	女性	26.2%	42.2%	2.4%	4.2%	0.4%	0.7%	10.0%	7.1%	6.7%
	男性	59.2%	8.1%	1.6%	10.7%	0.0%	0.3%	6.8%	5.2%	8.1%
(8) 高齢者や病人の世話	全体	26.3%	9.3%	8.1%	0.5%	0.0%	0.0%	15.6%	7.6%	32.7%
	女性	38.4%	1.8%	5.8%	0.4%	0.0%	0.0%	14.0%	5.8%	33.8%
	男性	8.4%	20.1%	11.7%	0.6%	0.0%	0.0%	17.8%	10.0%	31.4%
(9) 高額商品の購入・ 預貯金の管理	全体	40.5%	23.7%	7.1%	5.1%	0.4%	0.0%	15.6%	0.7%	7.1%
	女性	43.8%	22.4%	5.8%	2.9%	0.4%	0.0%	17.8%	0.4%	6.4%
	男性	36.2%	25.2%	9.1%	8.1%	0.3%	0.0%	12.3%	1.0%	7.8%

仕事に関することについておたずねします

問11 あなたは、今、収入を伴う仕事をしていますか。

出産や育児・介護のために休んでいる場合(育児・介護休業)は働いていると考えてください。(ただし、学生でアルバイトをしている場合は5です)

(1つに○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性	
1 自由業・自営業・家族従業員として働いている	9.3%	6.7%	12.6%	問12へお進 みください
2 正社員として雇用されている	33.1%	18.4%	54.4%	
3 契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されている	23.5%	30.4%	13.6%	
4 その他〔具体的に：	2.4%	2.0%	2.9%	問11-1、 11-2にもお 答えください
5 仕事をもっていない(主婦・主夫・学生・その他)	30.2%	40.9%	14.9%	
無回答	1.6%	1.6%	1.6%	

問 11-1 問 11 で「5 仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」と答え
た方におたずねします。

あなたは、以前どのような働き方をされてきましたか。複数の働き方をされ
た場合は、直近の働き方をお選びください。（1つに○）

全体(n=231) 女性(n=184) 男性(n=46)

	全体	女性	男性
1 自由業・自営業・家族従業員として働いていた	3.9%	3.3%	6.5%
2 正社員として雇用されていた	48.5%	50.0%	43.5%
3 契約社員・派遣・パート・アルバイト等として雇用されていた	35.9%	36.4%	32.6%
4 その他〔具体的に：	3.0%	2.7%	4.3%
5 仕事をもったことはない	7.4%	6.0%	13.0%
無回答	1.3%	1.6%	0.0%

問 11-2 問 11 で「5 仕事をもっていない（主婦・主夫・学生・その他）」と答え
た方におたずねします。

あなたが現在仕事をしていないのは、どのような理由からですか。

全体(n=231) 女性(n=184) 男性(n=46)

（いくつでも○）

	全体	女性	男性
1 働きたいが就職先が見つからないから	16.0%	13.6%	26.1%
2 子どもを預ける施設がないから	7.8%	9.8%	0.0%
3 能力・経験を生かせる職場がないから	6.9%	6.0%	10.9%
4 年齢制限などの採用条件に合わないから	15.2%	16.3%	10.9%
5 給与・賃金が希望に合わないから	3.0%	2.2%	6.5%
6 家事に専念したいから（主婦・主夫）	20.3%	25.5%	0.0%
7 「外で働くな」と言われているから	1.7%	2.2%	0.0%
8 育児や介護を必要とする家族・親族がいるから	22.1%	27.2%	2.2%
9 自分の健康・体力に自信がないから	15.2%	16.8%	6.5%
10 学生だから	9.1%	5.4%	23.9%
11 高齢だから	16.5%	15.2%	21.7%
12 働く必要がない・働きたくないから	11.7%	12.0%	10.9%
13 その他〔具体的に：	13.0%	12.0%	17.4%
無回答	8.7%	8.7%	8.7%

問 12 子育て、介護、家事などのために一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する
場合、役立つものは何だと思えますか。（いくつでも○）

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 再雇用制度	59.1%	55.6%	64.4%
2 子育てや介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度	64.6%	67.3%	60.8%
3 再就職のための講座やセミナー	17.6%	19.8%	14.9%
4 再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度	25.0%	27.8%	21.0%
5 保育所、学童保育など子育てしやすい環境の充実	67.7%	69.3%	65.7%
6 ホームヘルパーや介護福祉施策の充実	31.4%	30.9%	32.0%
7 家族の理解と協力	64.8%	68.0%	60.5%
8 企業の理解と協力	66.3%	65.3%	68.3%
9 その他〔具体的に：	3.8%	3.3%	4.5%
10 特にない	1.4%	1.1%	1.9%
無回答	4.7%	5.8%	2.9%

問13 近年、コミュニティビジネスのような新しい仕事のかたちで働く人が見かけられるようになってきました。

あなたは、身近な地域の中で「新しい仕事づくり（コミュニティビジネスなどの活動）」をやってみたいと思いますか。（1つに○）

【コミュニティビジネス】とは

身近な地域が抱える課題をビジネスの手法を活用して解決する、新しい仕事のかたちです（具体例：まちづくり、地域情報の発信、商店街活性化、環境・資源の保全、高齢者支援、子育て支援、子どもの健全育成、など）。

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 積極的にやってみたい	8.4%	7.1%	10.4%
2 専門家の助言・手助けがあればやってみたい	10.2%	9.6%	10.7%
3 公的機関の指導や助言などがあればやってみたい	9.4%	8.4%	11.0%
4 行政の資金援助や低金利の融資制度があればやってみたい	6.7%	4.4%	10.0%
5 すでにやっている	1.3%	1.6%	1.0%
6 やってみたいと思わない	28.1%	25.1%	33.0%
7 わからない	33.6%	41.6%	21.7%
無回答	2.4%	2.2%	2.3%

問 13-1、
13-2にもお
答えください

問 14へお進
みください

問 13-1 問 13で「1」「2」「3」「4」と答えた方におたずねします。

あなたが「新しい仕事づくり」をやってみたい理由は何ですか。

全体(n=265) 女性(n=133) 男性(n=130)

(いくつでも○)

	全体	女性	男性
1 現在の仕事よりも、自分の生きがいになりそうだから	22.6%	15.8%	29.2%
2 現在の労働環境では、自分の望む仕事につけないから	7.9%	6.8%	9.2%
3 地域の人たちの役に立ちながら、収入を得ることができるから	70.9%	71.4%	70.0%
4 自分の知識・経験を十分生かせるから	27.9%	20.3%	36.2%
5 地域内に仕事があれば、家事・育児・介護等の両立がしやすいから	33.6%	49.6%	17.7%
6 通勤時間が短くてすむから	27.5%	31.6%	23.8%
7 その他〔具体的に： 〕	3.4%	1.5%	4.6%
無回答	0.4%	0.8%	0.0%

問 13-2 問 13で「1」「2」「3」「4」と答えた方におたずねします。

もし、あなたが「新しい仕事づくり」を行うとしたら、どのようなことをしてみたいと思いますか。（いくつでも○）

全体(n=265) 女性(n=133) 男性(n=130)

	全体	女性	男性
1 まちづくりや仕事づくりに関する研究や調査活動を行う	37.4%	21.8%	53.8%
2 行政・企業などの広報を受注して制作する編集サービスを行う	20.8%	18.0%	23.8%
3 学習活動、趣味の教室などを行う	34.7%	33.1%	36.2%
4 子どもの保育や教育のニーズに応えるサービスを行う	38.1%	45.1%	30.0%
5 高齢者・障がい者のための福祉的サービスを行う	24.9%	24.8%	24.6%
6 働く女性たちが困った時に備えての援助サービスを行う	26.4%	36.8%	15.4%
7 近所の人が集まって交流や助け合いができるスペース（コミュニティカフェなど）を運営する	26.8%	32.3%	20.8%
8 一定の所得が得られるなら、何でもよい	14.7%	11.3%	18.5%
9 その他〔具体的に： 〕	1.9%	2.3%	1.5%
10 わからない	1.1%	1.5%	0.8%
無回答	3.8%	4.5%	3.1%

地域とのつながりについておたずねします

問14 地域活動についておたずねします。現在の参加の有無と今後の参加意向を、
(1) から (13) のそれぞれについて、お答えください。

(それぞれについて、1つずつ〇)

		現在の参加の有無			今後の参加意向			
		現在参加している	現在参加していない	無回答	今後参加したい	今後参加したいと思わない	わからない	無回答
全体 (N=765) 女性 (n=450) 男性 (n=309)								
(1) 自治会・町内会の活動	全体	11.9%	82.1%	6.0%	21.0%	32.2%	39.0%	7.8%
	女性	14.7%	80.0%	5.3%	20.9%	31.6%	40.2%	7.3%
	男性	7.8%	85.8%	6.5%	21.4%	33.7%	36.9%	8.1%
(2) PTAの役員や子ども会などの世話役	全体	7.1%	84.7%	8.2%	10.7%	44.8%	34.2%	10.2%
	女性	11.1%	82.0%	6.9%	13.8%	42.2%	34.0%	10.0%
	男性	1.3%	89.0%	9.7%	6.5%	49.2%	34.3%	10.0%
(3) 共同購入などの消費者活動	全体	10.5%	83.1%	6.4%	14.8%	44.3%	33.1%	7.8%
	女性	14.2%	79.6%	6.2%	18.2%	42.4%	31.3%	8.0%
	男性	5.2%	88.7%	6.1%	10.0%	47.9%	35.0%	7.1%
(4) 環境保護・教育問題などの市民活動	全体	1.6%	91.9%	6.5%	23.0%	31.8%	37.6%	7.6%
	女性	1.3%	92.2%	6.4%	20.2%	32.9%	39.8%	7.1%
	男性	1.9%	91.9%	6.1%	27.2%	30.4%	34.6%	7.8%
(5) 高齢者や障がい者のための活動	全体	3.9%	89.7%	6.4%	22.5%	28.0%	42.2%	7.3%
	女性	4.7%	89.1%	6.2%	22.2%	28.0%	42.9%	6.9%
	男性	2.9%	90.9%	6.1%	23.0%	28.5%	41.1%	7.4%
(6) 在住外国人支援のための活動	全体	1.0%	92.7%	6.3%	18.2%	36.1%	39.0%	6.8%
	女性	1.1%	92.9%	6.0%	17.8%	36.7%	39.1%	6.4%
	男性	1.0%	92.9%	6.1%	18.8%	35.6%	38.8%	6.8%
(7) 子どもの見守りや子育て支援の活動	全体	5.8%	88.4%	5.9%	32.3%	24.8%	35.8%	7.1%
	女性	8.2%	86.4%	5.3%	36.0%	22.4%	35.1%	6.4%
	男性	2.3%	91.6%	6.1%	26.9%	28.8%	36.9%	7.4%
(8) ITなど仕事でつちかった知識や経験を活かした活動	全体	1.4%	91.9%	6.7%	18.7%	38.8%	34.1%	8.4%
	女性	1.6%	92.0%	6.4%	14.2%	41.6%	34.9%	9.3%
	男性	1.3%	92.2%	6.5%	25.6%	35.6%	32.4%	6.5%
(9) 趣味、スポーツ、習い事	全体	33.2%	61.6%	5.2%	66.8%	10.5%	15.7%	7.1%
	女性	38.7%	56.4%	4.9%	73.6%	6.7%	12.7%	7.1%
	男性	25.6%	69.3%	5.2%	57.3%	16.2%	20.1%	6.5%
(10) 自己啓発のための学習活動	全体	12.3%	81.4%	6.3%	46.4%	19.6%	26.5%	7.5%
	女性	14.7%	79.3%	6.0%	50.9%	15.3%	26.9%	6.9%
	男性	9.1%	84.8%	6.1%	40.1%	26.2%	25.9%	7.8%
(11) 西東京市や東京都から委嘱された委員	全体	0.7%	93.1%	6.3%	16.7%	37.1%	39.1%	7.1%
	女性	0.7%	93.3%	6.0%	14.9%	36.9%	41.8%	6.4%
	男性	0.6%	93.2%	6.1%	19.7%	38.2%	34.6%	7.4%
(12) NPO活動への参加	全体	2.2%	91.5%	6.3%	17.0%	34.6%	41.4%	6.9%
	女性	2.0%	92.0%	6.0%	14.9%	34.2%	44.2%	6.7%
	男性	2.6%	91.3%	6.1%	20.4%	35.6%	37.2%	6.8%
(13) シルバー人材センターでの活動	全体	0.4%	93.3%	6.3%	16.6%	34.2%	42.4%	6.8%
	女性	0.2%	93.8%	6.0%	15.3%	32.7%	45.3%	6.7%
	男性	0.6%	93.2%	6.1%	18.4%	37.2%	37.9%	6.5%



仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)についておたずねします

——— 【仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)】とは ———

誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動を自分の希望するバランスで実現できる状態のことです。

問15 あなたは「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉を見聞きしたことがありますか。(1つに○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性		全体	女性	男性		全体	女性	男性
1 ある	43.0%	40.4%	47.2%	2 ない	54.9%	57.1%	51.1%	無回答	2.1%	2.4%	1.6%

問16 あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活(地域活動、趣味・学習等)」の優先度についておうかがいします。

- (1) 「希望」としての優先度について、あなたの希望に最も近いものを、1～8の中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。
- (2) 「現実」としての優先度について、あなたの現実に最も近いものを、1～8の中から1つだけ選び、回答欄に数字を記載してください。

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	(1) 希望			(2) 現実		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 <仕事>を優先	3.0%	1.8%	4.5%	26.7%	16.7%	41.1%
2 <家庭生活>を優先	12.7%	14.2%	10.0%	22.0%	33.6%	4.9%
3 <個人の生活>を優先	8.9%	8.4%	9.7%	4.3%	3.8%	5.2%
4 <仕事> と <家庭生活>を優先	13.2%	10.9%	16.5%	18.0%	17.8%	18.4%
5 <仕事> と <個人の生活>を優先	6.8%	5.6%	8.7%	7.3%	4.9%	10.7%
6 <家庭生活> と <個人の生活>を優先	20.0%	24.4%	13.6%	8.2%	11.8%	3.2%
7 <仕事>、<家庭生活>、<個人の生活>すべて	31.2%	30.7%	32.4%	7.2%	6.2%	8.7%
8 わからない	0.8%	0.9%	0.6%	2.9%	2.2%	3.9%
無回答	3.4%	3.1%	3.9%	3.4%	3.1%	3.9%

(1) 希望	(2) 現実



問17 あなたは「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は必要だと思いますか。（1つに○）

	全体(N=765)	女性(n=450)	男性(n=309)	
1 仕事と生活の調和を推進する必要がある	78.8%	79.3%	78.3%	→ 問17-1にもお答えください
2 仕事と生活の調和を推進する必要を感じない	4.3%	2.9%	6.5%	
3 わからない	14.6%	15.3%	13.3%	→ 問18へお進みください
無回答	2.2%	2.4%	1.9%	

問17-1 問17で「1 仕事と生活の調和を推進する必要がある」と答えた方におたずねします。

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」のために必要なものは何だと思いますか。（いくつでも○）

全体(n=603) 女性(n=357) 男性(n=242)

	全体	女性	男性
1 労働法などの法制度を変えること	34.3%	31.1%	39.3%
2 保育・介護サービスが向上すること	54.1%	61.6%	43.0%
3 仕事も家庭も大切にするという意識を啓発すること	48.4%	47.1%	50.8%
4 フレックスタイム制度の導入など労働時間を選べるようにすること	48.3%	53.8%	39.7%
5 男女とも残業や休日出勤を減らし、労働時間が短縮されること	44.8%	41.7%	50.0%
6 育児・介護などのための休暇取得や労働時間短縮のしくみが整うこと	50.2%	58.5%	38.4%
7 育児・介護休業取得者の代わりとなる人材を補充すること	24.0%	26.6%	20.2%
8 育児や介護のために退職した職員の復帰・再就職が可能になるよう制度が整うこと	49.8%	53.5%	43.4%
9 男女の雇用機会や昇進、待遇格差がなくなること	28.7%	30.0%	26.4%
10 社内に保育施設が整っていくこと	29.0%	35.9%	18.6%
11 パートタイマー、契約・派遣社員などの労働条件が向上すること	50.6%	59.7%	37.6%
12 「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識を解消すること	36.2%	40.3%	30.2%
13 働いている男女が地域活動に参加しやすいよう配慮すること	22.2%	23.2%	20.7%
14 その他〔具体的に： 〕	4.0%	2.8%	5.8%
15 わからない	1.3%	1.7%	0.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%



防災についておたずねします

問18 平成23年3月11日に東日本大震災が発生して以来、防災のまちづくりの一層の推進が課題となっています。あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。(いくつでも○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 災害や防災に関する知識の習得を進める	56.1%	57.3%	53.7%
2 防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	25.6%	24.4%	27.5%
3 災害対応や復興においてリーダーとなれる女性を育成する	21.4%	22.0%	20.7%
4 災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を踏まえる	25.4%	23.3%	28.5%
5 消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	31.6%	28.4%	36.6%
6 避難所設備に女性の意見を反映させる	57.0%	62.4%	49.5%
7 備蓄品に女性の視点を活かす	59.9%	66.0%	50.8%
8 その他〔具体的に： 〕	2.9%	2.2%	3.6%
9 わからない	7.5%	6.7%	8.7%
無回答	2.4%	1.8%	3.2%

人権についておたずねします

問19 パートナー（配偶者や恋人など）など親しい人からの暴力をドメスティック・バイオレンス（DV）と言います。あなたは、あなたの周囲でドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きしたことがありますか。(いくつでも○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 親族・友人・知人から相談を受けたことがある	5.2%	6.2%	3.6%
2 親族・友人・知人に暴力を受けた当事者がいる	11.8%	14.0%	8.1%
3 親族・友人・知人に当事者はいないが、見聞きしたことがある	34.8%	36.0%	33.3%
4 見聞きしたことがない	48.9%	45.8%	53.4%
無回答	1.4%	0.7%	2.6%

問20 あなたは、あなたの周囲でドメスティック・バイオレンス（DV）について、見聞きした場合、どのような対応をすることが望ましいと思いますか。

(いくつでも○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 ドメスティック・バイオレンス（DV）についての情報を提供する	22.6%	22.4%	23.0%
2 相談にのる	47.8%	46.9%	48.9%
3 相談機関を紹介する	66.8%	71.1%	60.5%
4 その他〔具体的に： 〕	3.9%	3.8%	4.2%
無回答	3.8%	2.7%	5.5%

問21 パートナー（配偶者や恋人など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも○）

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 警察	73.9%	73.6%	74.4%
2 西東京市の相談窓口	32.0%	34.4%	29.1%
3 東京都の相談窓口（女性相談センター）	31.5%	36.4%	24.3%
4 法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談	13.7%	10.2%	19.1%
5 民間相談機関	13.6%	14.7%	12.3%
6 その他〔具体的に：	1.3%	0.9%	1.9%
7 どれも知らない	14.1%	13.3%	15.2%
無回答	2.2%	1.8%	2.9%

問22 あなたは、これまでに、パートナー（配偶者や恋人など）から、次のようなことをされたことがありますか。（1）から（11）までのそれぞれについて、お答えください。（それぞれについて、1つに○）

		あ 何 つ た も	あ っ た 1、 た 2 度	な い ま っ た く	無 回 答
全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)					
(1) 命の危険を感じるくらいの暴力をうける	全体 女性 男性	0.4% 0.7% 0.0%	1.6% 1.8% 1.3%	94.5% 94.4% 94.5%	3.5% 3.1% 4.2%
(2) 医師の治療が必要となる程度の暴力をうける	全体 女性 男性	0.4% 0.4% 0.3%	1.6% 2.0% 1.0%	94.6% 94.7% 94.5%	3.4% 2.9% 4.2%
(3) 医師の治療を必要としない程度の暴力をうける	全体 女性 男性	1.3% 1.8% 0.6%	3.1% 4.7% 1.0%	91.9% 90.4% 93.9%	3.7% 3.1% 4.5%
(4) あなたが嫌がっているのに性的な行為を強要される	全体 女性 男性	1.8% 2.9% 0.3%	2.9% 4.7% 0.3%	91.5% 89.3% 94.5%	3.8% 3.1% 4.9%
(5) あなたが見たくないのに、アダルトビデオやアダルト雑誌を見せられる	全体 女性 男性	0.1% 0.0% 0.3%	1.2% 1.8% 0.3%	95.0% 95.1% 94.8%	3.7% 3.1% 4.5%
(6) なぐるぞ、物を投げるぞ、などと身振りや言葉でおどされる	全体 女性 男性	2.7% 4.0% 1.0%	3.9% 5.1% 1.9%	90.1% 88.4% 92.6%	3.3% 2.4% 4.5%
(7) 自分の持ち物を壊される	全体 女性 男性	1.0% 1.6% 0.3%	4.1% 4.0% 4.2%	91.1% 91.3% 90.6%	3.8% 3.1% 4.9%
(8) 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われる	全体 女性 男性	2.4% 3.6% 0.6%	5.8% 7.1% 3.6%	88.4% 86.9% 90.6%	3.5% 2.4% 5.2%
(9) 大声でどなられたり、ののしられる	全体 女性 男性	5.0% 7.3% 1.6%	8.2% 10.0% 5.5%	83.7% 80.7% 88.0%	3.1% 2.0% 4.9%
(10) 十分な生活費を渡されなかったり、お金の使い道について細かくチェックされる	全体 女性 男性	2.0% 2.4% 1.3%	2.4% 2.4% 2.3%	91.9% 92.0% 91.6%	3.8% 3.1% 4.9%
(11) 実家や友人との交流を嫌がられる・禁止される	全体 女性 男性	1.3% 2.0% 0.3%	4.7% 5.8% 3.2%	90.3% 89.3% 91.6%	3.7% 2.9% 4.9%

1か2に一つでも○をつけた方は
問22-1にもお答えください。

すべて3に○をつけた方は
問23へお進みください。

問 22-1 問 22 で「何度もあった」「1、2度あった」に一つでも○をつけた方におたずねします。

あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。

(いくつでも○)

全体(n=150) 女性(n=114) 男性(n=35)

	全体	女性	男性
1 警察に相談した	6.0%	4.4%	11.4%
2 西東京市の相談窓口、民生委員などに相談した	2.7%	2.6%	2.9%
3 東京ウィメンズプラザや東京都女性相談センターに相談した	2.0%	2.6%	0.0%
4 民間相談機関に相談した	1.3%	1.8%	0.0%
5 医師に相談した	4.0%	2.6%	8.6%
6 家族、親族に相談した	18.7%	21.1%	8.6%
7 友人、知人に相談した	19.3%	22.8%	8.6%
8 法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した	1.3%	1.8%	0.0%
9 その他〔具体的に： 〕	2.0%	2.6%	0.0%
10 誰にも相談しなかった → 問22-2にもお答えください	63.3%	59.6%	77.1%
無回答	5.3%	5.3%	5.7%

問23にお答えください

問 22-2 問 22-1 で「10 誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。誰にも相談しなかった理由は何ですか。(いくつでも○)

全体(n=95) 女性(n=68) 男性(n=27)

	全体	女性	男性
1 相談できる人がいなかったから	9.5%	11.8%	3.7%
2 どこに相談してよいのかわからなかったから	3.2%	4.4%	0.0%
3 誰にも知られずに相談できるところがないと思ったから	3.2%	4.4%	0.0%
4 人に打ち明けることに抵抗があったから	16.8%	23.5%	0.0%
5 相談しても無駄だと思ったから	17.9%	20.6%	11.1%
6 我慢すればこのまま何とかやっているとあったから	24.2%	27.9%	14.8%
7 自分にも悪いところがあると思ったから	23.2%	20.6%	29.6%
8 他人を巻き込みたくなかったから	7.4%	7.4%	7.4%
9 相談するほどのことではないと思ったから	67.4%	63.2%	77.8%
10 その他〔具体的に： 〕	6.3%	7.4%	3.7%
無回答	3.2%	0.0%	11.1%

男女平等参画を進めるために必要な施策についておたずねします

問23 あなたは、以下のことがらを知っていますか。(1) から (9) までのそれぞれについて、お答えください。(それぞれについて、1つに○)

		知っている内容まで	名前くらい聞いたことがある	まったく知らない	無回答
(1) 西東京市男女平等推進センター パリテ	全体 女性 男性	1.8% 2.7% 0.6%	14.8% 20.2% 7.1%	79.2% 73.3% 87.7%	4.2% 3.8% 4.5%
(2) 西東京市男女平等参画推進計画	全体 女性 男性	1.0% 1.1% 1.0%	20.9% 24.4% 16.2%	73.7% 70.0% 79.0%	4.3% 4.4% 3.9%
(3) 西東京市男女平等情報誌「パリテ」	全体 女性 男性	2.5% 3.8% 0.6%	11.0% 15.6% 4.5%	82.4% 76.9% 90.3%	4.2% 3.8% 4.5%
(4) 西東京市「女性相談」	全体 女性 男性	1.7% 2.2% 0.6%	21.3% 29.3% 10.0%	72.8% 64.9% 84.1%	4.2% 3.6% 5.2%
(5) 女子差別撤廃条約	全体 女性 男性	2.7% 1.6% 4.5%	22.7% 23.1% 22.3%	69.9% 71.1% 68.3%	4.6% 4.2% 4.9%
(6) 男女共同参画社会基本法	全体 女性 男性	6.4% 4.2% 9.7%	31.9% 30.0% 35.0%	57.1% 61.3% 50.8%	4.6% 4.4% 4.5%
(7) 配偶者暴力防止法	全体 女性 男性	4.7% 3.6% 6.5%	30.6% 32.2% 28.5%	59.9% 59.6% 60.2%	4.8% 4.7% 4.9%
(8) 男女雇用機会均等法	全体 女性 男性	31.4% 27.8% 36.9%	45.4% 47.8% 42.4%	19.3% 20.7% 16.8%	3.9% 3.8% 3.9%
(9) 育児・介護休業法	全体 女性 男性	23.4% 22.9% 24.3%	44.6% 45.6% 44.0%	27.8% 27.8% 27.2%	4.2% 3.8% 4.5%

問24 西東京市では、市の審議会における女性委員の割合は34.1%、市議会における女性議員の割合は28.6%（平成24年7月1日現在）となっています。あなたはこの数字をどのように思いますか。(1つに○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

1 女性の割合をもっと増やす必要がある	全体 44.6%	女性 46.7%	男性 41.4%
2 男性の割合をもっと増やす必要がある	0.3%	0.2%	0.3%
3 現状のままでよい	22.0%	21.1%	23.0%
4 その他〔具体的に：	8.6%	5.8%	12.9%
5 わからない	22.1%	24.0%	19.4%
無回答	2.5%	2.2%	2.9%

問25 政治や企業・地域活動など、あらゆる分野において政策や方針決定過程への女性の参画が少ない状況です。その理由は何だと思えますか。(いくつでも○)

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

1 性別による役割分担や性差別の意識があるから	全体 39.6%	女性 40.0%	男性 39.2%
2 男性優位の組織運営であるから	55.9%	59.3%	51.1%
3 家庭の支援・協力が得られないから	36.7%	39.6%	33.0%
4 女性の能力開発の機会が不十分であるから	21.8%	25.1%	17.2%
5 女性の活動を支援する人的ネットワークが不足しているから	23.3%	25.1%	20.7%
6 女性側の積極性が十分ではないから	34.0%	34.4%	33.7%
7 女性の参画を積極的に進めようと意識する人が少ないから	40.7%	44.9%	35.0%
8 その他〔具体的に：	5.1%	4.2%	6.5%
9 わからない	8.4%	6.9%	10.4%
無回答	1.4%	1.1%	1.9%

問26 国が男女共同参画社会基本法を制定した後、多くの自治体では男女共同参画条例（地方自治体が定める法）を制定し、各々独自の男女平等参画社会のしくみづくりを進めています。

現在西東京市には、「男女平等参画条例」がありません。あなたは条例の制定についてどのように思いますか。（1つに○）

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 男女平等推進条例があったほうがよい	60.3%	60.7%	59.2%
2 男女平等推進条例はなくてもよい	7.7%	4.7%	12.3%
3 わからない	28.8%	31.6%	24.9%
無回答	3.3%	3.1%	3.6%

問27 男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。（いくつでも○）

全体(N=765) 女性(n=450) 男性(n=309)

	全体	女性	男性
1 男女平等教育の推進	31.2%	30.4%	32.7%
2 あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	37.3%	35.6%	39.5%
3 雇用の場の平等な待遇の推進	46.7%	48.7%	44.0%
4 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み	43.9%	45.1%	42.4%
5 保育サービスの多様化	59.5%	61.8%	57.0%
6 高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減	60.0%	64.2%	54.0%
7 意思決定の場への女性の参画促進	23.9%	25.3%	22.0%
8 男女平等推進のための啓発、調査・研究の充実	17.4%	16.4%	18.8%
9 各種相談窓口の充実	27.7%	31.6%	22.7%
10 民間の団体・グループの自主活動支援	11.9%	11.8%	12.3%
11 西東京市男女平等推進センター パリテの積極的な取り組み	12.3%	13.1%	11.0%
12 防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み	20.4%	20.0%	21.0%
13 その他〔具体的に：	2.4%	1.1%	4.2%
14 わからない	6.5%	6.2%	6.5%
無回答	2.0%	1.6%	2.6%

問28 西東京市の男女平等に向けての取り組みについてご意見がございましたら、自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
返信用封筒にこの調査票を入れて、10月22日（月）までにご投函ください

**男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査
報告書**

平成25年3月

発行：西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課男女平等推進係
〒202-0005 東京都西東京市住吉町 6-15-6 住吉会館内
男女平等推進センター パリテ
電話：042-439-0075
Email: kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp